
uCosminexus Message Service Client
Light for ebXML
クライアント操作ガイド

解説・手引・文法・操作書

3020-3-N33-30

マニュアルの購入方法

このマニュアル，および関連するマニュアルをご購入の際は，
巻末の「ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内」をご参
照ください。

対象製品

P-2641-8N14 uCosminexus Message Service Client Light for ebXML 01-03 (適用 OS : Windows 2000 , Windows Server 2003 , Windows Server 2003 R2 , Windows XP , Windows Vista)

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

JEDICOS は、(財)流通システム開発センターの登録商標です。

Microsoft は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

SOAP (Simple Object Access Protocol) は、分散ネットワーク環境において XML ベースの情報を交換するための通信プロトコルの名称です。

Windows は、米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の登録商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

発行

2006 年 7 月 (第 1 版) 3020-3-N33

2008 年 8 月 (第 4 版) 3020-3-N33-30

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2006, 2008, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-N33-30) uCosminexus Message Service Client Light for ebXML 01-03

追加・変更内容	変更箇所
ドキュメント形式 , ドキュメント種別を指定した受信処理をサポートしました。	2.1 , 3.5 , 6.4 , 7.4
ドキュメント形式 SecondGenEDI に対応するドキュメント種別を追加しました。	6.4 , 7.3
メッセージを変更しました。 <ul style="list-style-type: none">• KDCR20090-E• KDCR13004-E• KDCR13018-E• KDCR13020-E	9.2 , 9.4
メッセージを追加しました。 KDCR20113-E ~ KDCR20125-W	9.4

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

変更内容 (3020-3-N33-20) uCosminexus Message Service Client Light for ebXML 01-02

追加・変更内容
SSL クライアント認証をサポートしました。
メッセージを追加しました。 <ul style="list-style-type: none">• KDCR11044-E• KDCR20110-W• KDCR20111-W• KDCR20112-W
対象製品の適用 OS に , Windows Server 2003 R2 , および Windows Vista を追加しました。 また , これに伴い , Windows Vista を使用する場合の管理者権限に関する記述を追加しました。

変更内容 (3020-3-N33-10) uCosminexus Message Service Client Light for ebXML 01-01

追加・変更内容
指定できるドキュメント形式に SecondGenEDI を追加しました。
メッセージの対処を変更しました。 KDCR20079-W
対象製品の適用 OS に , Windows 2000 , および Windows Server 2003 を追加しました。

はじめに

このマニュアルは、プログラムプロダクト P-2641-8N14 uCosminexus Message Service Client Light for ebXML の概要、操作方法、およびトラブルシュートを説明したものです。

対象読者

このマニュアルは、uCosminexus Message Service Client Light for ebXML (以降、CMS Light クライアントと呼びます) を使用される方を対象としています。

主に次の目的でマニュアルを使用される方を対象としています。

- 基本操作として、簡易環境設定 GUI とバッチファイルを用いたシステムの使用方法を知りたい方。なお、Windows についての基本的な知識をお持ちであることを前提としています。
- 応用操作として、定義ファイルとコマンドを用いたシステムの使用方法を知りたい方。なお、Windows、および XML についての基本的な知識をお持ちであることを前提としています。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す編、章と付録から構成されています。

第 1 編 概要編

第 1 章 CMS Light クライアントの概要

CMS Light クライアントの概要、特長、および機能について説明しています。

第 2 編 基本操作編

第 2 章 簡易環境設定 GUI と履歴表示 GUI を操作する手順

簡易環境設定 GUI で環境を設定し、生成されたバッチファイルでドキュメントを送受信する手順、およびドキュメントを送受信したあとの確認手順について説明しています。

第 3 章 簡易環境設定 GUI

CMS Light クライアントの環境設定で使用する簡易環境設定 GUI について説明しています。

第 4 章 履歴表示 GUI

送受信したドキュメントの履歴を表示する履歴表示 GUI について説明しています。

第 3 編 応用操作編

第 5 章 コマンドを使用してドキュメントを送受信する手順

コマンドを使用してドキュメントを送受信する手順、および送受信したドキュメントの確認手順について説明しています。

第 6 章 定義ファイル

CMS Light クライアントのシステムで使用する定義ファイルの形式、定義する項目などについて説明しています。

はじめに

第7章 コマンド

CMS Light クライアントのシステムで使用するコマンドの形式，実行例などについて説明しています。

第4編 トラブルシューティング編

第8章 トラブルシューティング

CMS Light クライアントのシステムに障害が発生した場合の対処について説明しています。

第9章 メッセージ

CMS Light クライアントが出力するメッセージの出力先，記述形式，および記述内容について説明しています。

付録A 接続先サーバとSSL通信をするための手順

接続先サーバとSSL通信をするための手順について説明しています。

付録B Windows Vista を使用する場合の注意事項

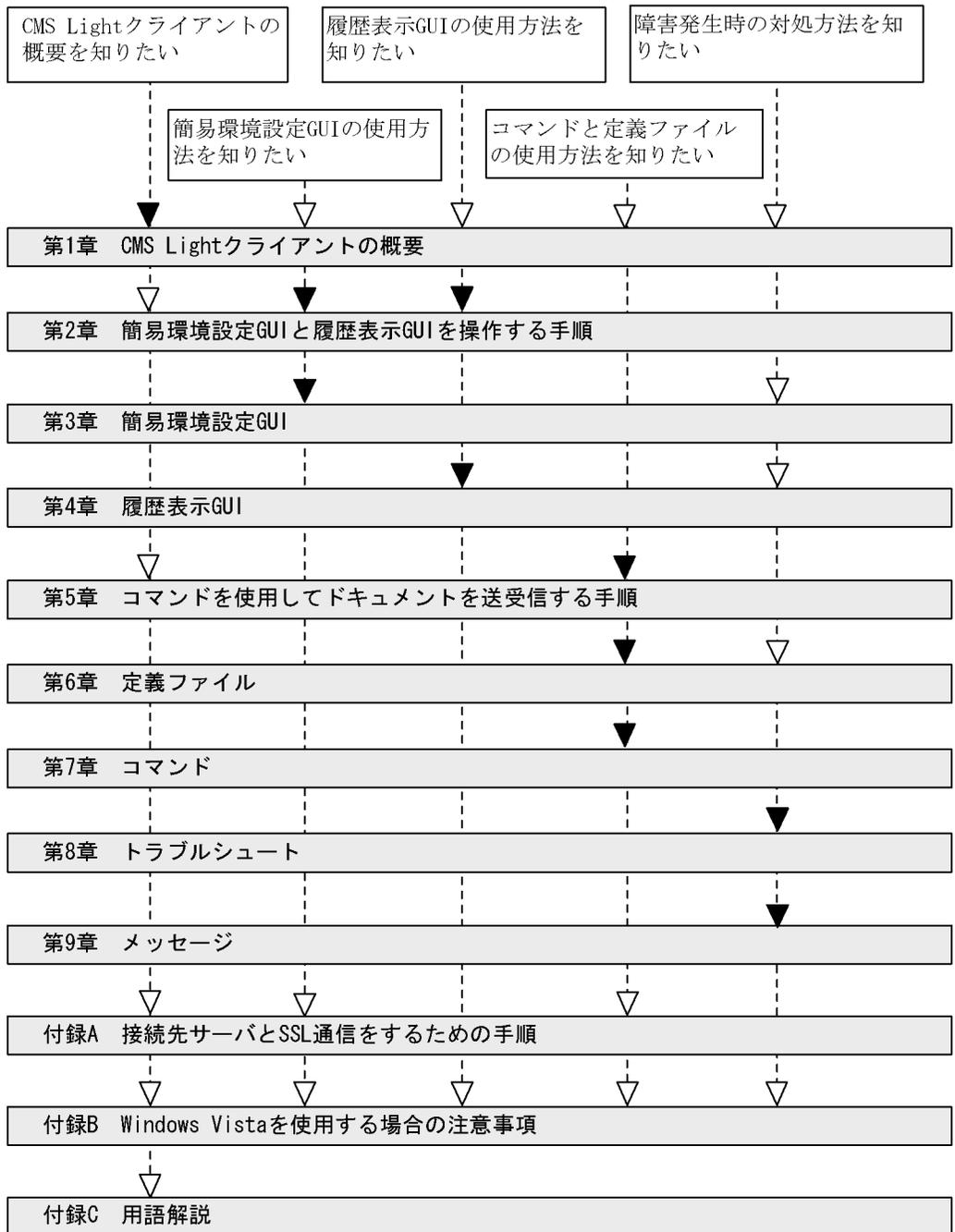
Windows Vista を使用する場合の注意事項として，管理者権限について説明しています。

付録C 用語解説

このマニュアルで使用している用語の意味について説明しています。

読書手順

このマニュアルは，利用目的に合わせて章を選択して読めます。使用目的別に，次の流れに従ってお読みいただくことをお勧めします。



(凡例)



: 必ず読む項目



: 必要に応じて読む項目

はじめに

このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名称を省略して表記しています。製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を次に示します。

製品の正式名称	このマニュアルでの表記	
uCosminexus Message Service Client Light for ebXML	CMS Light クライアント	
Microsoft(R) Windows(R) 2000 Advanced Server Operating System	Windows 2000	Windows
Microsoft(R) Windows(R) 2000 Professional Operating System		
Microsoft(R) Windows(R) 2000 Server Operating System		
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition	Windows Server 2003	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition		
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition	Windows Server 2003 R2	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition		
Microsoft(R) Windows Vista(R) Business	Windows Vista	
Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise		
Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Basic		
Microsoft(R) Windows Vista(R) Home Premium		
Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate		
Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System	Windows XP	

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
API	<u>A</u> pplication <u>P</u> rogramming <u>I</u> nterface
CA	<u>C</u> ertificate <u>A</u> uthority
CLR	<u>C</u> ommon <u>L</u> anguage <u>R</u> untime
ebXML	<u>E</u> lectronic <u>B</u> usiness using <u>e</u> Xtensible <u>M</u> arkup <u>L</u> anguage
EDI	<u>E</u> lectronic <u>D</u> ata <u>I</u> nterchange
GUI	<u>G</u> raphical <u>U</u> ser <u>I</u> nterface
HTTP	<u>H</u> yper <u>T</u> ext <u>T</u> ransfer <u>P</u> rotocol
HTTPS	<u>H</u> yper <u>T</u> ext <u>T</u> ransfer <u>P</u> rotocol <u>S</u> ecurity
IANA	<u>I</u> nternet <u>A</u> ssigned <u>N</u> umbers <u>A</u> uthority

英略語	英字での表記
JCA	<u>J</u> apanese <u>C</u> hain-store <u>A</u> ssociation procedure
JEDICOS	<u>J</u> apan <u>E</u> DI for <u>C</u> ommerce <u>S</u> ystems
MIME	<u>M</u> ultipurpose <u>I</u> nternet <u>M</u> ail <u>E</u> xtension
OS	<u>O</u> perating <u>S</u> ystem
SOAP	<u>S</u> imple <u>O</u> bject <u>A</u> ccess <u>P</u> rotocol
SSL	<u>S</u> ecure <u>S</u> ocket <u>L</u> ayer
URI	<u>U</u> niform <u>R</u> esource <u>I</u> dentifier
URL	<u>U</u> niform <u>R</u> esource <u>L</u> ocator
XML	<u>e</u> Xtensible <u>M</u> arkup <u>L</u> anguage

このマニュアルの図中で使用している記号

このマニュアルの図中で使用する記号を、次のように定義します。

●サーバ



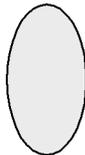
●ドキュメント



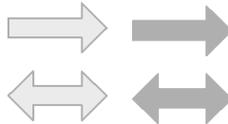
●入出力の動作



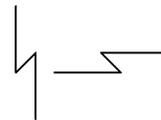
●ネットワーク



●データの流れ



●通信回線



このマニュアルの GUI の説明で使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用して GUI を説明しています。

記号	意味
[]	タブ、ボタン、および画面の名称を表します。

このマニュアルのコマンドの説明で使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用してコマンドの文法を説明しています。

記号	意味
 ストローク	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し、「または」を意味します。 (例) A B A または B を指定することを示します。

記号	意味
{ } 波括弧	この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを示します。 項目が横に並べて記号 で区切られている場合は、どれか一つを選択します。 (例) {A B C} A, B または C のどれかを指定することを示します。
[] 角括弧	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。

常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは、常用漢字を使用することを基本としていますが、次に示す用語については、常用漢字以外の漢字を使用しています。
鍵（かぎ）、個所（かしよ）、必須（ひつす）

KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト）、1MB（メガバイト）、1GB（ギガバイト）、1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト、1,024² バイト、1,024³ バイト、1,024⁴ バイトです。

目次

第 1 編 概要編

1	CMS Light クライアントの概要	1
1.1	CMS Light クライアントとは	2
1.2	CMS Light クライアントの特長	3
1.3	CMS Light クライアントの機能	4
1.3.1	ドキュメントの送信	4
1.3.2	ドキュメントの受信	5
1.3.3	ドキュメント送受信履歴の表示	6
1.3.4	セキュリティ通信	6

第 2 編 基本操作編

2	簡易環境設定 GUI と履歴表示 GUI を操作する手順	9
2.1	ドキュメントを送受信するまでの手順	10
2.2	ドキュメントを送受信したあとの確認手順	12
3	簡易環境設定 GUI	15
3.1	簡易環境設定 GUI の画面	16
3.1.1	[簡易環境設定] 画面を使用する前に	18
3.2	アカウントの設定をする	19
3.3	ログの設定をする	21
3.4	セキュリティの設定をする	23
3.5	受信の設定をする	27
3.5.1	受信の詳細を設定する	29
3.6	送信の設定をする	32
3.6.1	送信の詳細を設定する	33
4	履歴表示 GUI	37
4.1	最大履歴保存件数を設定する	38

4.2	履歴一覧を表示する	40
4.3	送受信の成功・失敗の確認をする	43

第3編 応用操作編

5	コマンドを使用してドキュメントを送受信する手順	47
5.1	コマンドの操作でドキュメントを送受信するまでの手順	48
5.2	コマンドの操作でドキュメントを送受信したあとの確認手順	49

6	定義ファイル	51
6.1	定義ファイル一覧	52
6.2	定義ファイルの形式	53
6.2.1	定義ファイルの基本構成	53
6.2.2	定義ファイルの記述形式	53
6.3	クライアント共通定義ファイル	55
6.4	クライアント引数情報ファイル	62
6.4.1	ドキュメント送信コマンドを使用する場合	62
6.4.2	ドキュメント受信コマンドを使用する場合	68

7	コマンド	73
7.1	コマンドを使用する前に	74
7.1.1	コマンドの説明で使用する見出し	74
7.1.2	コマンドの入力形式	74
7.2	コマンド一覧	77
7.3	ドキュメント送信コマンド (HSRCMessageService -mode=send)	78
7.4	ドキュメント受信コマンド (HSRCMessageService -mode=receive)	83

第 4 編 トラブルシュート編

8	トラブルシュート	87
8.1	トラブルシュートの手順	88
8.1.1	GUI 実行時のトラブルシュート	89
8.1.2	コマンド実行時のトラブルシュート	89
8.1.3	履歴表示 GUI の確認時のトラブルシュート (警告情報がない場合)	89
8.1.4	履歴表示 GUI の確認時のトラブルシュート (警告情報がある場合)	92
8.2	問い合わせに必要な資料	94
8.2.1	サーバの管理者に問い合わせる場合に必要資料	94
8.2.2	保守員に問い合わせる場合に必要資料	94
9	メッセージ	97
9.1	メッセージの概要	98
9.1.1	メッセージの出力先	98
9.1.2	メッセージの記述形式	98
9.2	KDCR10000 ~ KDCR13999 (ドキュメント送受信コマンドのメッセージ)	100
9.3	KDCR15000 ~ KDCR15999 (トレースログのメッセージ)	123
9.4	KDCR20000 ~ KDCR20999 (簡易環境設定 GUI のメッセージ)	124
9.5	KDCR80000 ~ KDCR89999 (履歴表示 GUI のメッセージ)	159
	付録	171
	付録 A 接続先サーバと SSL 通信をするための手順	172
	付録 B Windows Vista を使用する場合の注意事項	173
	付録 C 用語解説	174
	索引	177

目次

図 1-1	C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引の概要	2
図 1-2	CMS Light クライアントの機能	4
図 1-3	ドキュメントの送信の流れ	5
図 1-4	ドキュメントの受信の流れ	6
図 2-1	[簡易環境設定]画面(ドキュメントを送受信するまでの手順)	10
図 2-2	[履歴表示]画面(ドキュメントを送受信したあとの確認手順)	12
図 2-3	[詳細情報]画面(ドキュメントを送受信したあとの確認手順)	13
図 3-1	[簡易環境設定]画面	16
図 3-2	[簡易環境設定]画面で入力できない文字の一覧	18
図 3-3	[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブ	19
図 3-4	[簡易環境設定]画面の[ログ]タブ	21
図 3-5	[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブ	23
図 3-6	[簡易環境設定]画面の[受信]タブ	27
図 3-7	[受信条件の設定]画面	30
図 3-8	[簡易環境設定]画面の[送信]タブ	32
図 3-9	[送信情報の設定]画面	34
図 4-1	[環境設定]画面	38
図 4-2	[履歴表示]画面	40
図 4-3	[詳細情報]画面	43
図 5-1	[履歴表示]画面(コマンドの操作でドキュメントを送受信したあとの確認手順)	49
図 5-2	[詳細情報]画面(コマンドの操作でドキュメントを送受信したあとの確認手順)	50
図 6-1	定義ファイルの基本構成	53
図 6-2	定義ファイルに使用できない文字の一覧	54
図 8-1	履歴表示 GUI の[履歴表示]画面	89
図 8-2	履歴表示 GUI の[詳細情報]画面	90

表目次

表 3-1	[簡易環境設定] 画面のタブ一覧	17
表 6-1	定義ファイル一覧	52
表 6-2	定義ファイルを構成する要素	53
表 6-3	置換する必要がある文字一覧	54
表 6-4	クライアント共通定義ファイルで定義できるコンテナ一覧	55
表 6-5	クライアント共通定義ファイルで定義できるキー要素一覧	56
表 6-6	クライアント引数情報ファイルで定義できるキー要素一覧 (ドキュメント送信コマンドを使用する場合)	63
表 6-7	ドキュメント種別とドキュメント形式の組み合わせ (定義ファイル)	66
表 6-8	クライアント引数情報ファイルで定義できるキー要素一覧 (ドキュメント受信コマンドを使用する場合)	69
表 7-1	CMS Light クライアントのシステムで使用するコマンドの一覧	77
表 7-2	ドキュメント種別とドキュメント形式の組み合わせ (コマンド)	79

1

CMS Light クライアントの概要

uCosminexus Message Service Client Light for ebXML は、C-S 型メッセージ交換手順に準拠したクライアント製品です。この章では、CMS Light クライアントの概要、特長、および機能について説明します。

-
- 1.1 CMS Light クライアントとは
 - 1.2 CMS Light クライアントの特長
 - 1.3 CMS Light クライアントの機能
-

1.1 CMS Light クライアントとは

uCosminexus Message Service Client Light for ebXML (以降, CMS Light クライアントと呼びます) は, C-S 型メッセージ交換手順に準拠したクライアント製品です。

大手小売企業が運営する電子商取引用のサーバが C-S 型メッセージ交換手順 に準拠している場合, CMS Light クライアントを利用すると, 取引先の企業のシステムを容易に利用することができます。

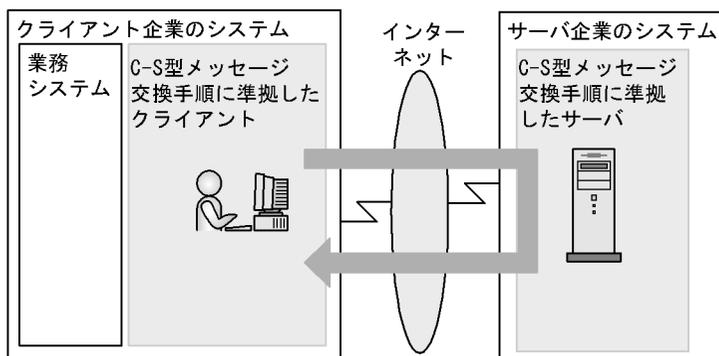
以降, 大手小売企業をサーバ企業, 取引先の企業をクライアント企業とします。

注

C-S 型メッセージ交換手順とは, 財団法人流通システム開発センターが開発するメッセージ交換手順の一つです。メッセージ交換手順にはほかに S-S 型, C-S-S 型, C-S-C 型があり, C-S 型と合わせて流通業界での EDI の標準規格である JEDICOS-XML V2.1 で定義されています。

C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引の概要を次に示します。

図 1-1 C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引の概要



(凡例)

➡ : データ通信の流れ

C-S 型メッセージ交換手順に準拠したクライアントはインターネット経由で C-S 型メッセージ交換手順に準拠したサーバにアクセスして, ドキュメント (取引データ) を送信・受信することができます。図の C-S 型メッセージ交換手順に準拠したクライアントに当たるのが CMS Light クライアントです。

なお, C-S 型メッセージ交換手順に準拠したサーバとして, 日立では uCosminexus Message Service Server Light for ebXML を提供しています。

1.2 CMS Light クライアントの特長

CMS Light クライアントの特長を次に示します。

電子商取引用サーバへの容易なアクセス

C-S 型メッセージ交換手順に準拠するサーバを持つすべてのサーバ企業にアクセスできます。

容易な環境設定

ユーザーは、C-S 型メッセージ交換手順に関する知識がなくてもドキュメントの送受信などの設定をすることができます。ドキュメントの送受信などは、GUI で設定できます。

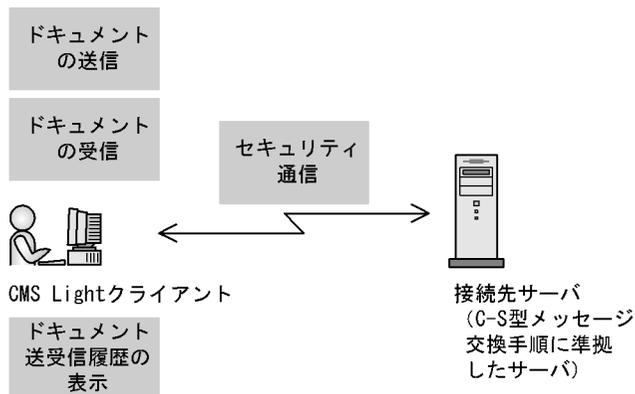
安全性の高いデータ通信

HTTP ベーシック認証，暗号化通信（SSL サーバ認証，SSL クライアント認証）を使用してデータ通信できます。

1.3 CMS Light クライアントの機能

CMS Light クライアントの機能を次に示します。

図 1-2 CMS Light クライアントの機能

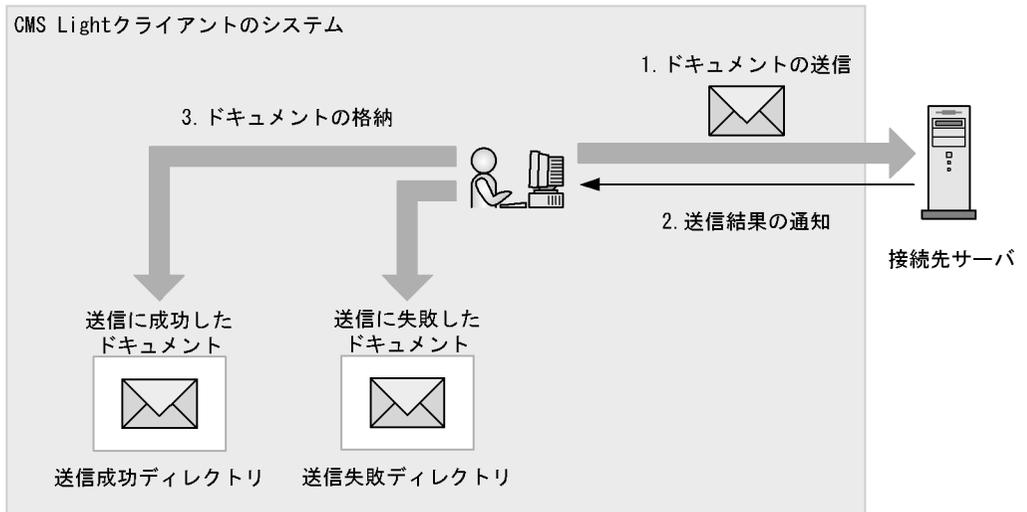


ここでは、図で示した CMS Light クライアントの機能について説明します。なお、C-S 型メッセージ交換手順に準拠したサーバを以降、接続先サーバと呼びます。

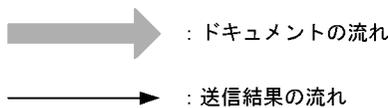
1.3.1 ドキュメントの送信

CMS Light クライアントは接続先サーバにドキュメントを送信します。ドキュメントの送信時、CMS Light クライアントは次の図で示す流れで処理します。

図 1-3 ドキュメントの送信の流れ



(凡例)



1. 接続先サーバにドキュメントを送信します。
2. ドキュメントを送信した接続先サーバから、送信成功・失敗の結果が通知されます。
3. 送信に成功した場合は、送信成功ディレクトリにドキュメントが格納されます。
失敗した場合は、送信失敗ディレクトリにドキュメントが格納されます。

なお、ユーザーがドキュメントを送信する方法は、二とおりあります。

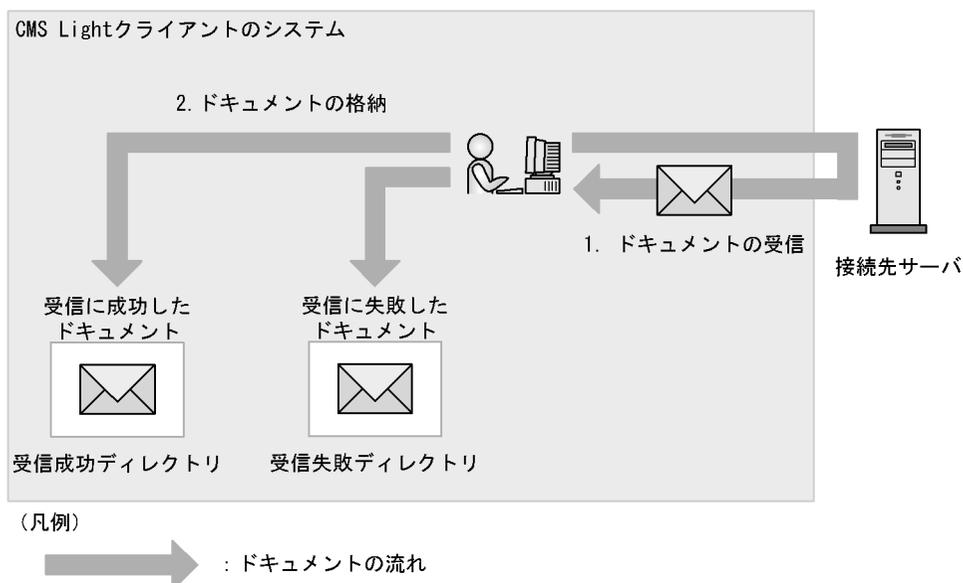
- 簡易環境設定 GUI でバッチファイルを生成して、バッチファイルを実行する方法
簡易環境設定 GUI とは、ドキュメントの送受信用のバッチファイルを生成する GUI ソフトウェアです。手順の詳細については、「2.1 ドキュメントを送受信するまでの手順」を参照してください。
- 定義ファイルを設定して、コマンドを実行する方法
手順の詳細については、「5.1 コマンドの操作でドキュメントを送受信するまでの手順」を参照してください。

1.3.2 ドキュメントの受信

CMS Light クライアントは、定期的接続先サーバへアクセスしてドキュメントの取得をする必要があります。ドキュメントの受信時、CMS Light クライアントは次の流れで処理します。

1. CMS Light クライアントの概要

図 1-4 ドキュメントの受信の流れ



1. 接続先サーバからドキュメントを受信します。
2. 受信に成功した場合は、受信成功ディレクトリにドキュメントが格納されます。
失敗した場合は、受信失敗ディレクトリにドキュメントが格納されます。

なお、ユーザーは、次のどちらかの方法でドキュメントを受信できます。

- 簡易環境設定 GUI でバッチファイルを生成して、バッチファイルを実行する方法
手順の詳細については、「2.1 ドキュメントを送受信するまでの手順」を参照してください。
- 定義ファイルを設定して、コマンドを実行する方法
手順の詳細については、「5.1 コマンドの操作でドキュメントを送受信するまでの手順」を参照してください。

1.3.3 ドキュメント送受信履歴の表示

CMS Light クライアントは、送受信したドキュメントの履歴を表示します。

送受信したドキュメントの履歴情報を表示する GUI ソフトウェア (履歴表示 GUI) を利用すると、送受信したドキュメントの履歴が確認できます。トラブルシュートの手順については、「8. トラブルシュート」を参照してください。

1.3.4 セキュリティ通信

CMS Light クライアントが対応しているセキュリティ通信の種類を、次に示します。

(1) HTTP ベーシック認証

ユーザー ID およびパスワードを使用して接続先サーバにアクセスします。

(2) 暗号化通信 (SSL サーバ認証, SSL クライアント認証)

通信プロトコルに SSL を使用し, 証明書と公開鍵暗号技術に基づいて通信を暗号化します。SSL サーバ認証を使用する場合は, 取引先サーバを認証する CA 証明書, または CA 証明書チェーンのインストールが必要です。SSL クライアント認証を使用する場合は, クライアント証明書, およびクライアント証明書を認証する CA 証明書またはクライアント証明書を認証する CA 証明書チェーンのインストールが必要です。証明書のインストールの詳細については, 「付録 A 接続先サーバと SSL 通信をするための手順」を参照してください。

CMS Light クライアントは, プロキシサーバを経由して, SSL 対応または SSL 非対応の接続先サーバにアクセスできます。ユーザーは次のどちらかの方法で接続先サーバへのアクセスの設定をすることができます。

- 簡易環境設定 GUI を使用する
手順の詳細については, 「3.4 セキュリティの設定をする」を参照してください。
- 定義ファイルを使用する
手順の詳細については, 「6.3 クライアント共通定義ファイル」を参照してください。

2

簡易環境設定 GUI と履歴表示 GUI を操作する手順

この章では、簡易環境設定 GUI で CMS Light クライアントの環境を設定し、生成されたバッチファイルでドキュメントを送受信する手順、およびドキュメントを送受信したあとの確認手順について説明します。

コマンドを使用してドキュメントを送受信する手順については、「第 3 編 応用操作編」を参照してください。

2.1 ドキュメントを送受信するまでの手順

2.2 ドキュメントを送受信したあとの確認手順

2.1 ドキュメントを送受信するまでの手順

簡易環境設定 GUI で環境を設定し、生成されたバッチファイルでドキュメントを送受信するまでの手順について説明します。

1. [すべてのプログラム] - [uCosminexus Message Service Client Light for ebXML] - [伝送実行] - [環境設定] をクリックします。
[簡易環境設定] 画面が表示されます。

図 2-1 [簡易環境設定] 画面 (ドキュメントを送受信するまでの手順)

uCosminexus Message Service Client Light for ebXML 簡易環境設定

アカウント | ログ | セキュリティ | 受信 | 送信 |

アカウント情報を設定してください。

クライアントの情報

クライアントURI(C) cliuri.co.jp

クライアントID(Q) 4912345000019

サーバの情報

サーバURI(S) svruri.co.jp

サーバID(P) 4569951110016

エンドポイント(E) http://www.svruri.co.jp/edi-service

OK キャンセル 適用(A)

2. [簡易環境設定] 画面で、アカウント、ログ、セキュリティ、受信、および送信の設定をします。

設定の詳細については、「3. 簡易環境設定 GUI」を参照してください。

3. [OK] ボタンをクリックします。

ドキュメント送信用バッチファイル, またはドキュメント受信用バッチファイルが生成され, 簡易環境設定 GUI が終了します。

- ドキュメント送信用バッチファイル

ドキュメントを送信するときに使用します。バッチファイルは次の場所に格納されます。

<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥bat¥HSRCSend_< [送信情報の設定] 画面の送信情報の保存名 >.bat

- ドキュメント受信用バッチファイル

ドキュメントを受信するときに使用します。

詳細な受信条件を設定しない受信を行うためのバッチファイルは次の場所に格納されます。

<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥bat¥HSRCReceive.bat

詳細な受信条件を設定した受信を行うためのバッチファイルは次の場所に格納されます。

<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥bat¥HSRCReceive_< [受信条件の設定] 画面の受信条件の保存名 >.bat

4. 簡易環境設定 GUI で生成されたドキュメント送信用バッチファイル, またはドキュメント受信用バッチファイルをダブルクリックします。

ドキュメントが送受信されます。

注意

手順 3. では, バッチファイル以外にクライアント共通定義ファイル, クライアント引数情報ファイルも生成されます。ただし, 生成された定義ファイルをテキストエディタなどで編集することは推奨していません。

クライアント共通定義ファイル, クライアント引数情報ファイルの定義内容をテキストエディタなどで編集したあとで簡易環境設定 GUI を起動した場合, 編集した定義内容の一部が削除, または更新されることがあります。

2.2 ドキュメントを送受信したあとの確認手順

履歴表示 GUI で送受信の確認をする手順について説明します。

1. [すべてのプログラム] - [uCosminexus Message Service Client Light for ebXML] - [伝送履歴] - [履歴表示] をクリックします。
[履歴表示] 画面が表示されます。

図 2-2 [履歴表示] 画面 (ドキュメントを送受信したあとの確認手順)

伝送日	伝送時刻	伝送番号	送受信区別	警告情報	送受信ファイル名称	ドキュメント送信者識別子	ドキュメント受信者識別子	ドキュメント識別子
2008/01/30	21:44:...	94	v 受信		[20080130214416]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	93	^ 送信		[20080130214415]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	92	v 受信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	91	^ 送信		[20080130214415]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	90	v 受信		[20080130214414]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	89	^ 送信	△	[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	88	v 受信		[20080130214413]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	87	^ 送信		[20080130214413]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	86	v 受信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	85	^ 送信		[20080130214412]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	84	v 受信		[20080130214412]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	83	^ 送信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	82	v 受信		[20080130214411]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	81	^ 送信		[20080130214411]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	80	v 受信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	79	^ 送信		[20080130214410]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	78	v 受信	△	[20080130214410]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	77	^ 送信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	76	v 受信		[20080130214409]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	75	^ 送信		[20080130214409]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	74	v 受信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	73	^ 送信		[20080130214408]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	72	v 受信		[20080130214407]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	71	^ 送信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	70	v 受信		[20080130214407]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	69	^ 送信		[20080130214406]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	68	v 受信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	67	^ 送信	△	[20080130214405]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	66	v 受信		[20080130214405]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	65	^ 送信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	64	v 受信		[20080130214404]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	63	^ 送信		[20080130214404]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...

[履歴表示] 画面は、ユーザーが送受信したドキュメントの伝送履歴情報を、伝送実行順に一括して表示します。[履歴表示] 画面の詳細については、「4.2 履歴一覧を表示する」を参照してください。

2. [履歴表示] 画面で該当する履歴情報を選択して、メニューの [ファイル] - [詳細情報] をクリックします。
[詳細情報] 画面が表示されます。

図 2-3 [詳細情報]画面 (ドキュメントを送受信したあとの確認手順)

送受信状態	<input type="checkbox"/> 正常	<input checked="" type="checkbox"/> 異常	<input type="checkbox"/> 不確定
送受信区別	<input checked="" type="checkbox"/> 送信	<input type="checkbox"/> 受信	
伝送番号	89		
伝送日時	2008/01/30	21:44:14	
送受信ファイル名称	X%data%send_error#[ERR]_[20080130214414]_[C000000000000001]_		
ドキュメント送信者識別子	S000000000000000		
ドキュメント受信者識別子	C000000000000001		
ドキュメント識別子	20080130214414-77c34058-5892-4571-ab1a-e8906dd8ed0d@S0000		
ドキュメント形式	SecondGenEDI		
ドキュメント種別	Order		
ドキュメント圧縮形式	iso		
ファイルサイズ	31535	バイト	
エラー種別	soapenv:Server		
エラー詳細情報	KDSR10002-E uCosminexus Message Service Server Light for ebX		
警告詳細情報	サーバに送信,またはサーバから受信したドキュメントファイルのディレクトリへの移動に失敗しました。		

OK

3. [詳細情報]画面で,ドキュメント送受信の成功・失敗を確認します。
[詳細情報]画面の詳細については,「4.3 送受信の成功・失敗の確認をする」を参照してください。
確認した結果,正しくドキュメントが送受信されていない場合の対処については,「8. トラブルシュート」を参照してください。
4. [OK] ボタンをクリックします。
5. [履歴表示]画面のメニューの[ファイル] - [アプリケーションの終了]をクリックします。
[履歴表示]画面が終了します。

3

簡易環境設定 GUI

この章では，CMS Light クライアントの環境設定で使用する簡易環境設定 GUI について説明します。環境設定を始める前に，サーバ企業との接続に必要な情報を確認してください。

3.1 簡易環境設定 GUI の画面

3.2 アカウントの設定をする

3.3 ログの設定をする

3.4 セキュリティの設定をする

3.5 受信の設定をする

3.6 送信の設定をする

3.1 簡易環境設定 GUI の画面

ここでは、CMS Light クライアントの環境設定をするための簡易環境設定 GUI について説明します。

簡易環境設定 GUI を表示するには、スタートメニューから [すべてのプログラム] - [uCosminexus Message Service Client Light for ebXML] - [伝送実行] - [環境設定] をクリックします。

[簡易環境設定] 画面を次の図に示します。

図 3-1 [簡易環境設定] 画面



簡易環境設定 GUI には、五つのタブがあります。それぞれのタブで、CMS Light クライアントの設定をします。

[簡易環境設定] 画面のタブ一覧を次の表に示します。

表 3-1 [簡易環境設定] 画面のタブ一覧

項番	タブ名	設定する内容
1	[アカウント] タブ	サーバ企業から通知されたクライアントの情報、および接続先サーバの情報を設定します。
2	[ログ] タブ	トレースログ、エラーログ、通信ログについて、出力先やファイル数などを設定します。
3	[セキュリティ] タブ	使用する認証方式と、ユーザー名、パスワードなどの認証に必要な情報について設定します。
4	[受信] タブ	受信するドキュメントについての情報を設定します。
5	[送信] タブ	送信するドキュメントについての情報を設定します。

[簡易環境設定] 画面のボタンについて説明します。

[OK] ボタン

クリックすると、それぞれのタブで入力した値に従って、次のファイルが生成されます。

- ドキュメント受信用バッチファイル
- ドキュメント送信用バッチファイル
- クライアント共通定義ファイル
- クライアント引数情報ファイル

ファイルが生成されたあと、[簡易環境設定] 画面が閉じます。

[キャンセル] ボタン

クリックすると、それぞれのタブで入力した値が破棄され、[簡易環境設定] 画面が閉じます。

[適用] ボタン

クリックすると、それぞれのタブに入力した値に従って、次のファイルが生成されます。

- ドキュメント受信用バッチファイル
- ドキュメント送信用バッチファイル
- クライアント共通定義ファイル
- クライアント引数情報ファイル

[簡易環境設定] 画面を表示させたまま、ほかのタブの設定をしたい場合にクリックします。

[簡易環境設定] 画面で入力できない文字の一覧を次に示します。

3. 簡易環境設定 GUI

図 3-2 [簡易環境設定] 画面で入力できない文字の一覧

記号	機種依存文字	その他
●長音記号 (ー)	●NEC拡張文字	●環境変数として解釈できる文字 (%PATH%など)
●波記号 (～)	(①②③, I II III, (株), 株式会社, ミリキなど)	●タブ文字, 改行文字
●並行符 ()	●NEC選定IBM拡張文字 (i ii iii など)	●Windows Vistaでサポートされた JIS X0213:2004
●ハイフン (ー)	●IBM拡張文字 (No., Te など)	

3.1.1 [簡易環境設定] 画面を使用する前に

[簡易環境設定] 画面の各タブに共通する項目, および [簡易環境設定] 画面に関する注意事項について説明します。

(1) [簡易環境設定] 画面の各タブに共通する項目

[簡易環境設定] 画面の各タブに共通する項目を次に示します。

- 各タブの項目名の横に表示された下線付きアルファベット文字は, ショートカットキーを表します。
- 各タブで, 入力された値の前後に半角スペース・タブがある場合, 入力された値の前後の半角スペース・タブを除いた値が設定値になります。
- [ログ] タブ, [受信] タブ, および [送信] タブに設定する各ディレクトリの値は, 大文字と小文字, ショートネームとロングネーム, およびディレクトリセパレータの文字列である "¥" と "/" が区別されません。

(2) [簡易環境設定] 画面に関する注意事項

[簡易環境設定] 画面に関する注意事項を次に示します。

- [簡易環境設定] 画面は複数同時に起動できません。
- 各タブのディレクトリを指定する項目には, ネットワーク上の共有ファイルシステムは指定できません。
- [ログ] タブ, [受信] タブ, および [送信] タブのそれぞれに設定するディレクトリは, 重複しないようにしてください。ただし, [ログ] タブの各ログを出力するディレクトリ間は重複してもかまいません。また, [送信] タブの送信情報一覧に表示された, 各送信情報間での各ディレクトリは重複してもかまいません。

3.2 アカウントの設定をする

ここでは、[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブについて説明します。

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブでは、サーバ企業から通知されたクライアントの情報、および接続先サーバの情報を設定します。

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブを次に示します。

図 3-3 [簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブ

The screenshot shows a dialog box titled "uCosminexus Message Service Client Light for ebXML 簡易環境設定". It has a tabbed interface with "アカウント" (Account) selected. Below the tabs, there is a message: "アカウント情報を設定してください。" (Please set account information.).

There are two main sections:

- クライアントの情報** (Client Information):
 - クライアントURI(C): cliuri.co.jp
 - クライアントID(O): 4912345000019
- サーバの情報** (Server Information):
 - サーバURI(S): svruri.co.jp
 - サーバID(P): 4569951110016
 - エンドポイント(E): http://www.svruri.co.jp/edi-service/

At the bottom right, there are three buttons: "OK", "キャンセル" (Cancel), and "適用(A)" (Apply).

クライアントの情報

クライアント URI

3. 簡易環境設定 GUI

サーバ企業から通知された、CMS Light クライアントの URI を指定します。
255 バイト以内の文字列で指定してください。サーバ URI と同じ値は指定できません。

この項目は、必ず指定してください。

クライアント ID

サーバ企業から通知された、クライアントを認識するための ID を指定します。
63 バイト以内の文字列で指定してください。サーバ ID と同じ値は指定できません。

この項目は、必ず指定してください。

サーバの情報

サーバ URI

サーバ企業から通知された、接続先サーバの URI を指定します。255 バイト以内の文字列で指定してください。クライアント URI と同じ値は指定できません。

この項目は、必ず指定してください。

サーバ ID

サーバ企業から通知された、取引先を認識するための ID を指定します。63 バイト以内の文字列で指定してください。クライアント ID と同じ値は指定できません。

この項目は、必ず指定してください。

エンドポイント

サーバ企業から通知された、接続先サーバの URL を指定します。

この項目は、必ず指定してください。

3.3 ログの設定をする

ここでは、[簡易環境設定] 画面の [ログ] タブについて説明します。

[簡易環境設定] 画面の [ログ] タブでは、トレースログ、エラーログ、通信ログについて、出力先やファイル数などを設定します。

[簡易環境設定] 画面の [ログ] タブを次に示します。

図 3-4 [簡易環境設定] 画面の [ログ] タブ



トレースログの情報

出力ディレクトリ

トレースログを出力するディレクトリを絶対パスで指定します。200 バイト以内の文字列で指定してください。デフォルトは、"<CMS Light クライアントイ

3. 簡易環境設定 GUI

インストールディレクトリ >¥log" です。[参照] ボタンをクリックすると、ツリー表示されたディレクトリ構成から、出力ディレクトリを指定できます。

出力ファイル数

トレースログファイルの出力ファイル数を指定します。1 ~ 64 の整数値で指定してください。デフォルトは 4 です。

出力ファイルサイズ

トレースログファイルの最大サイズをキロバイトで指定します。4 ~ 16,384 の整数値で指定してください。デフォルトは、8,192 (8 メガバイト) です。

エラーログの情報

出力ディレクトリ

エラーログを出力するディレクトリを絶対パスで指定します。200 バイト以内の文字列で指定してください。デフォルトは、"<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥log" です。[参照] ボタンをクリックすると、ツリー表示されたディレクトリ構成から、出力ディレクトリを指定できます。

出力ファイル数

エラーログファイルの出力ファイル数を指定します。1 ~ 64 の整数値で指定してください。デフォルトは 4 です。

出力ファイルサイズ

エラーログファイルの最大サイズをキロバイトで指定します。4 ~ 16,384 の整数値で指定してください。デフォルトは、8,192 (8 メガバイト) です。

通信ログの情報

出力ディレクトリ

通信ログを出力するディレクトリを絶対パスで指定します。200 バイト以内の文字列で指定してください。デフォルトは、"<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥log" です。[参照] ボタンをクリックすると、ツリー表示されたディレクトリ構成から、出力ディレクトリを指定できます。

出力ファイル数

通信ログファイルの出力ファイル数を指定します。1 ~ 64 の整数値で指定してください。デフォルトは 4 です。

出力ファイルサイズ

通信ログファイルの最大サイズをキロバイトで指定します。4 ~ 16,384 の整数値で指定してください。デフォルトは、8,192 (8 メガバイト) です。

3.4 セキュリティの設定をする

ここでは、[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブについて説明します。

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブでは、使用する認証方式と、ユーザー名、パスワードなどの認証に必要な情報について設定します。

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブを次に示します。

図 3-5 [簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブ

HTTP ベーシック認証の情報

HTTP ベーシック認証を使用する

HTTP ベーシック認証を使用するかどうかを指定します。

3. 簡易環境設定 GUI

チェックボックスをチェックして、必要な項目に値を入力した場合、HTTP ベーシック認証を使用します。なお、" ユーザ名 " と " パスワード " を指定しなくても、チェックボックスをチェックすれば、HTTP ベーシック認証を使用することができます。

デフォルトは、チェックされていません。チェックしている場合だけ、" ユーザ名 "、" パスワード " が活性になります。チェックを外して非活性になっても、すでに設定している値は保持されます。

ユーザ名

HTTP ベーシック認証で使用する、ユーザー名を指定します。デフォルトは設定されていません。指定するユーザー名情報はサーバ企業から送付されます。" パスワード " と同時に指定してください。

パスワード

HTTP ベーシック認証で使用する、パスワードを指定します。デフォルトは設定されていません。指定するパスワードの情報はサーバ企業から送付されます。" ユーザ名 " と同時に指定してください。

クライアント認証の情報

クライアント認証を使用する

SSL クライアント認証を使用するかどうかを指定します。

チェックボックスをチェックして、必要な項目に値を入力した場合、SSL クライアント認証を使用します。

デフォルトは、チェックされていません。チェックしている場合だけ、" 証明書ファイル "、および " 参照 " が活性になります。

証明書ファイル

SSL クライアント認証で使用する、証明書ファイルの絶対パスを指定します。デフォルトは設定されていません。証明書ファイルは、あらかじめ自マシンにインストールしたクライアント証明書から、DER エンコードでエクスポートした X.509 形式のファイルを作成して取得してください。証明書のエクスポートの方法については、OS のドキュメントを参照してください。

[参照] ボタンをクリックすると、ツリー表示されたディレクトリ構成から、証明書ファイルを指定できます。

HTTP プロキシサーバの情報

HTTP プロキシサーバを使用する

HTTP プロキシサーバを使用するかどうかを指定します。チェックボックスをチェックして、" アドレス "、" ポート "、" ユーザ名 "、および " パスワード " を指定した場合、プロキシサーバを経由して SSL 非対応の接続先サーバにアクセスします。チェックボックスにチェックしても、" アドレス "、" ポート " を指定しない場合は、プロキシサーバを使用しません。

デフォルトは、チェックされていません。チェックしている場合だけ、" ユーザ

名", "パスワード", "アドレス", および "ポート" が活性になります。
 チェックを外して非活性になっても, すでに設定している値は保持されます。

アドレス

HTTP プロトコルでメッセージを送信するときに使用する, HTTP プロキシサーバのアドレスを指定します。デフォルトは設定されていません。
 "ポート" と同時に指定してください。

ポート

HTTP プロトコルでメッセージを送信するときに使用する, HTTP プロキシサーバのポート番号を指定します。0 ~ 65,535 の整数値で指定してください。
 デフォルトは設定されていません。
 "アドレス" と同時に指定してください。

ユーザ名

HTTP プロキシサーバで接続ユーザー認証をする場合に使用する, ユーザー名を指定します。デフォルトは設定されていません。指定するユーザー名の情報は該当するプロキシサーバの管理者から送付されます。
 "パスワード" と同時に指定してください。

パスワード

HTTP プロキシサーバで接続ユーザー認証をする場合に使用する, パスワードを指定します。デフォルトは設定されていません。指定するパスワードの情報は該当するプロキシサーバの管理者から送付されます。
 "ユーザ名" と同時に指定してください。

HTTPS プロキシサーバの情報

HTTPS プロキシサーバを使用する

HTTPS プロキシサーバを使用するかどうかを指定します。チェックボックスをチェックして, "アドレス", "ポート", "ユーザ名", および "パスワード" を指定した場合, プロキシサーバを経由して SSL 対応の接続先サーバにアクセスします。チェックボックスにチェックしても, "アドレス", "ポート" を指定しない場合は, プロキシサーバを使用しません。
 デフォルトは, チェックされていません。チェックしている場合だけ, "ユーザ名", "パスワード", "アドレス", および "ポート" が活性になります。
 チェックを外して非活性になっても, すでに設定している値は保持されます。
 なお, 接続先サーバと SSL 通信をする方法については, 「付録 A 接続先サーバと SSL 通信をするための手順」を参照してください。

アドレス

HTTPS プロトコルでメッセージを送信するときに使用する, HTTPS プロキシサーバのアドレスを指定します。デフォルトは設定されていません。
 "ポート" と同時に指定してください。

ポート

HTTPS プロトコルでメッセージを送信するときに使用する, HTTPS プロキシ

3. 簡易環境設定 GUI

サーバのポート番号を指定します。0 ~ 65,535 の整数値で指定してください。
デフォルトは設定されていません。
"アドレス" と同時に指定してください。

ユーザ名

HTTPS プロキシサーバで接続ユーザー認証をする場合に使用する、ユーザー名を指定します。デフォルトは設定されていません。指定するユーザー名の情報は該当するプロキシサーバの管理者から送付されます。
"パスワード" と同時に指定してください。

パスワード

HTTPS プロキシサーバで接続ユーザー認証をする場合に使用する、パスワードを指定します。デフォルトは設定されていません。指定するパスワードの情報は該当するプロキシサーバの管理者から送付されます。
"ユーザ名" と同時に指定してください。

3.5 受信の設定をする

ここでは、[簡易環境設定] 画面の [受信] タブについて説明します。

[簡易環境設定] 画面の [受信] タブでは、受信するドキュメントについての情報を設定します。

[簡易環境設定] 画面の [受信] タブを次に示します。

図 3-6 [簡易環境設定] 画面の [受信] タブ

uCosminexus Message Service Client Light for ebXML 簡易環境設定

アカウント | ログ | セキュリティ | 受信 | 送信

受信情報を設定してください。

受信情報

ドキュメント受信者識別子

受信成功ディレクトリ(S) 参照(Y)...

受信失敗ディレクトリ(E) 参照(Z)...

受信済みファイル名に使用する項目を決めてください

受信日付 ドキュメント送信者識別子(O)

ドキュメント形式(P) ドキュメント種別(Q)

受信最大ファイル数(N)

リトライ回数(R) 回

リトライ間隔(D) 秒

詳細な受信条件を表示する(X)

受信条件一覧(T)

請求データ

新規(U)...

編集(V)...

削除(W)

OK キャンセル 適用(A)

3. 簡易環境設定 GUI

ドキュメント受信者識別子

ドキュメント受信者識別子として、[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブで指定している、クライアント ID が表示されます。この項目は編集できません。クライアント ID が指定されていない場合は何も表示されません。

受信成功ディレクトリ

受信成功ファイルの格納ディレクトリを絶対パスで指定します。120 バイト以内の文字列で指定してください。デフォルトは、"<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥data¥receive_success" です。[参照] ボタンをクリックすると、ツリー表示されたディレクトリ構成から、受信成功ディレクトリを指定できます。

受信失敗ディレクトリ

受信失敗ファイルの格納ディレクトリを絶対パスで指定します。120 バイト以内の文字列で指定してください。デフォルトは、"<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥data¥receive_error" です。[参照] ボタンをクリックすると、ツリー表示されたディレクトリ構成から、受信失敗ディレクトリを指定できます。

受信済みファイル名に使用する項目を決めてください

受信済みファイルの名称規則を指定します。チェックボックスで表示されている項目は、次の四つです。

1. 受信日付 (非活性)
2. ドキュメント送信者識別子
3. ドキュメント形式
4. ドキュメント種別

チェックボックスにチェックした項目を、上記の番号順でファイル名に採用します。受信日付はファイル名として必ず付与されます。

受信最大ファイル数

ドキュメント受信を 1 回実行することで受信できるファイル数の最大値を指定します。1 ~ 128 の整数値で指定してください。デフォルトは 32 です。

リトライ回数

ドキュメント受信のリトライ回数を指定します。0 ~ 32 の整数値で指定してください。デフォルトは 3 です。

リトライ間隔

ドキュメント受信のリトライ間隔を秒で指定します。10 ~ 3,600 の整数値で指定してください。デフォルトは 90 です。

詳細な受信条件を表示する

受信条件一覧を表示するかどうかを指定します。

チェックボックスをチェックした場合、受信条件一覧が表示されます。

デフォルトは、チェックされていません。チェックを外して受信条件一覧が表示さ

れなくなっても、すでに設定している受信条件は保持されます。

詳細な受信条件を設定した受信を行う場合、受信条件一覧に受信条件を設定する必要があります。

詳細な受信条件を設定した受信を行わない場合、受信条件一覧に受信条件を設定する必要がありません。

詳細な受信条件の設定については、「3.5.1 受信の詳細を設定する」を参照してください。

受信条件一覧

受信条件が一覧で表示されます。

[新規] ボタン

クリックすると、[受信条件の設定] 画面が表示されて、受信条件を新規に設定できるようになります。

[編集] ボタン

クリックすると、[受信条件の設定] 画面が表示されて、受信条件一覧で選択された受信条件が編集できるようになります。

[削除] ボタン

クリックすると、受信条件一覧で選択された受信条件を受信条件一覧から削除します。

3.5.1 受信の詳細を設定する

ここでは、[受信条件の設定] 画面について説明します。[受信条件の設定] 画面は、[受信] タブで設定した受信するドキュメントについての情報を元に、より詳細な受信条件を設定する場合に使用します。設定できる詳細な受信条件としては、以下のものがあります。

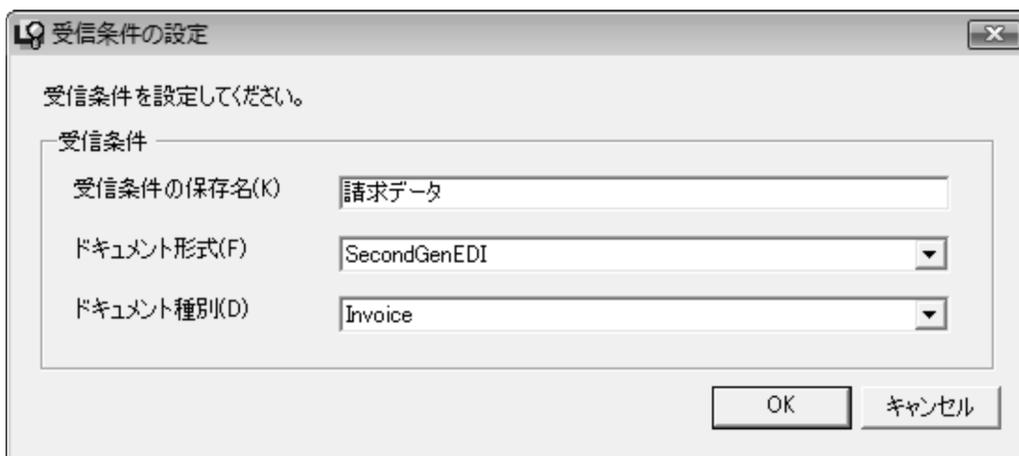
ドキュメント形式とドキュメント種別を指定して受信する

ドキュメント形式とドキュメント種別を限定して、接続先サーバからドキュメントを受信できます。指定したドキュメント形式とドキュメント種別でないドキュメントは受信されません。その他の受信条件は、[受信] タブで設定した受信するドキュメントについての情報と同じになります。

[受信条件の設定] 画面は、[簡易環境設定] 画面の [受信] タブの受信条件一覧の [新規] ボタンまたは [編集] ボタンをクリックすると表示されます。

[受信条件の設定] 画面を次に示します。

図 3-7 [受信条件の設定]画面



受信条件の保存名

設定した受信ドキュメント条件を保存する名前を指定します。64 バイト以内の文字列で指定してください。Windows のファイル名に使用できない文字、または予約デバイス名は指定できません。指定した名前は [簡易環境設定] 画面の [受信] タブの受信条件一覧に表示されます。

ドキュメント形式

ドキュメント形式を指定します。サーバ企業と取り決める項目です。次の五つから選択できます。

- SecondGenEDI (SecondGenEDI 形式)
- JEDICOS-XML (JEDICOS-XML 形式)
- JEDICOS (JEDICOS 形式)
- J Protocol (JCA 形式)
- Mutuality defined (相互定義 : 双方間の合意の下で使用する任意の形式)

この項目は、必ず指定してください。

ドキュメント種別

ドキュメント種別を指定します。サーバ企業と取り決める項目です。ドキュメント形式に "Mutuality defined" 以外の値を指定した場合、ドキュメント形式に対応するドキュメントの種別がコンボボックスに表示されます。

ドキュメント形式が "Mutuality defined" の場合、255 バイト以内の文字列でドキュメント種別を指定してください。なお、ドキュメント種別に何も指定しなくても問題ありません。

ドキュメント形式が "Mutuality defined" でない場合は、この項目を必ず指定してください。

[OK] ボタン

クリックすると、入力した情報で受信条件を設定して [受信条件の設定] 画面を終

了し、[簡易環境設定] 画面の [受信] タブに戻ります。
受信条件の保存名が、[簡易環境設定] 画面の [受信] タブの受信条件一覧にすでにある場合、上書き保存するかどうかを確認するダイアログが表示されます。

[キャンセル] ボタン

クリックすると、入力した情報を破棄して [受信条件の設定] 画面を終了し、[簡易環境設定] 画面の [受信] タブに戻ります。

3.6 送信の設定をする

ここでは、[簡易環境設定] 画面の [送信] タブについて説明します。

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブでは、送信するドキュメントについての情報を設定します。

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブを次に示します。

図 3-8 [簡易環境設定] 画面の [送信] タブ



送信情報一覧

送信情報が一覧で表示されます。

[新規] ボタン

クリックすると,[送信情報の設定]画面が表示されて,送信情報を新規に設定できるようになります。

[編集]ボタン

クリックすると,[送信情報の設定]画面が表示されて,送信情報一覧で選択された送信情報が編集できるようになります。

[削除]ボタン

クリックすると,送信情報一覧で選択された送信情報を送信情報一覧から削除します。

3.6.1 送信の詳細を設定する

ここでは,[送信情報の設定]画面について説明します。[送信情報の設定]画面は,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの[新規]ボタンまたは[編集]ボタンをクリックすると表示されます。

[送信情報の設定]画面を次に示します。

図 3-9 [送信情報の設定]画面

送信情報を設定してください。

送信情報

送信情報の保存名(K)

ドキュメント送信者識別子

ドキュメント受信者識別子

ドキュメント形式(F)

ドキュメント種別(D)

ドキュメント圧縮形式(C)

送信ディレクトリ(T) 参照(X)...

送信成功ディレクトリ(S) 参照(Y)...

送信失敗ディレクトリ(E) 参照(Z)...

送信済みファイル名に使用する項目を決めてください

送信日付 ドキュメント受信者識別子(O)

ドキュメント形式(P) ドキュメント種別(Q)

送信最大ファイル数(N)

送信最大ファイルサイズ(M) KB

リトライ回数(R) 回

リトライ間隔(I) 秒

OK キャンセル

送信情報の保存名

設定した送信ドキュメント情報を保存する名前を指定します。64 バイト以内の文字列で指定してください。Windows のファイル名に使用できない文字、または予約デバイス名は指定できません。指定した名前は [簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信情報一覧に表示されます。

ドキュメント送信者識別子

ドキュメント送信者識別子として、[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブで指定している、クライアント ID が表示されます。ユーザーは編集できません。クライアント ID が指定されていない場合は何も表示されません。

ドキュメント受信者識別子

ドキュメント受信者識別子として、[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブで指定しているサーバ ID が表示されます。ユーザーは編集できません。サーバ ID が指定されていない場合は何も表示されません。

ドキュメント形式

ドキュメント形式を指定します。サーバ企業と取り決める項目です。次の五つから選択できます。

- SecondGenEDI (SecondGenEDI 形式)
- JEDICOS-XML (JEDICOS-XML 形式)
- JEDICOS (JEDICOS 形式)
- J Protocol (JCA 形式)
- Mutuality defined (相互定義：双方間の合意の下で使用する任意の形式)

この項目は、必ず指定してください。

ドキュメント種別

ドキュメント種別を指定します。サーバ企業と取り決める項目です。ドキュメント形式に "Mutuality defined" 以外の値を指定した場合、ドキュメント形式に対応するドキュメントの種別がコンボボックスに表示されます。

ドキュメント形式が "Mutuality defined" の場合、255 バイト以内の文字列でドキュメント種別を指定してください。なお、ドキュメント種別に何も指定しなくても問題ありません。

ドキュメント形式が "Mutuality defined" でない場合は、この項目を必ず指定してください。

ドキュメント圧縮形式

ドキュメント圧縮形式を指定します。サーバ企業と取り決める項目です。63 バイト以内の文字列で指定してください。IANA によって管理されている MIME メディアタイプかどうかのチェックはされません。

送信ディレクトリ

送信ファイルの格納ディレクトリを絶対パスで指定します。247 バイト以内の文字列で指定してください。デフォルトは設定されていません。[参照] ボタンをクリックすると、ツリー表示されたディレクトリ構成から、送信ディレクトリを指定できます。

送信ディレクトリ下に格納されている送信対象のファイルは、ドキュメント送信コマンドの実行時に送信成功ディレクトリまたは送信失敗ディレクトリに移動されます。したがって、送信ディレクトリとして Windows ディレクトリなどを指定するとシステムが壊れるおそれがあるため、指定するディレクトリには十分注意してください。

この項目は、必ず指定してください。

送信成功ディレクトリ

送信成功ファイルの格納ディレクトリを絶対パスで指定します。120 バイト以内の文字列で指定してください。デフォルトは、"<CMS Light クライアントインストー

3. 簡易環境設定 GUI

ルディレクトリ >¥data¥send_success" です。[参照] ボタンをクリックすると、ツリー表示されたディレクトリ構成から、送信成功ディレクトリを指定できます。

送信失敗ディレクトリ

送信失敗ファイルの格納ディレクトリを絶対パスで指定します。120 バイト以内の文字列で指定してください。デフォルトは、"<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥data¥send_error" です。[参照] ボタンをクリックすると、ツリー表示されたディレクトリ構成から、送信失敗ディレクトリを指定できます。

送信済みファイル名に使用する項目を決めてください

送信済みファイルの名称規則を指定します。チェックボックスで表示されている項目は、次の四つです。

1. 送信日付 (非活性)
2. ドキュメント受信者識別子
3. ドキュメント形式
4. ドキュメント種別

チェックボックスにチェックした項目を、上記の番号順でファイル名に採用します。送信日付はファイル名として必ず付与されます。

送信最大ファイル数

ドキュメント送信 1 回の実行で送信できるファイル数の最大値を指定します。1 ~ 128 の整数値で指定してください。デフォルトは 32 です。

送信最大ファイルサイズ

送信するファイルのデータサイズの最大値をキロバイトで指定します。10 ~ 51,200 の整数値で指定してください。デフォルトは 10,240 です。

リトライ回数

ドキュメント送信のリトライ回数を指定します。0 ~ 32 の整数値で指定してください。デフォルトは 3 です。

リトライ間隔

ドキュメント送信のリトライ間隔を秒で指定します。10 ~ 3,600 の整数値で指定してください。デフォルトは 90 です。

[OK] ボタン

クリックすると、入力した情報で送信情報を設定して [送信情報の設定] 画面を終了し、[簡易環境設定] 画面の [送信] タブに戻ります。
送信情報の保存名が、[簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信情報一覧にすでにある場合、上書き保存するかどうかを確認するダイアログが表示されます。

[キャンセル] ボタン

クリックすると、入力した情報を破棄して [送信情報の設定] 画面を終了し、[簡易環境設定] 画面の [送信] タブに戻ります。

4

履歴表示 GUI

この章では、送受信したドキュメントの履歴を表示する履歴表示 GUI について説明します。

4.1 最大履歴保存件数を設定する

4.2 履歴一覧を表示する

4.3 送受信の成功・失敗の確認をする

4.1 最大履歴保存件数を設定する

送受信したドキュメントを保存する最大件数（最大履歴保存件数）を設定します。

最大履歴保存件数は [環境設定] 画面で設定します。

[環境設定] 画面を表示するには、スタートメニューから [すべてのプログラム] - [uCosminexus Message Service Client Light for ebXML] - [伝送履歴] - [環境設定] をクリックします。

[環境設定] 画面を次に示します。

図 4-1 [環境設定] 画面



表示項目およびボタンを次に示します。

最大履歴保存件数

最大履歴保存件数を、1 ~ 9,999 の整数値で指定します。デフォルトは 1,000 です。履歴を保存しない場合、0 を指定します。

注意

最大履歴保存件数を以前に設定した値よりも小さくした場合、小さくした件数分の履歴が古い方から順に破棄されます。

過去の履歴を保管したい場合は、ドキュメントの送受信処理が行われていないときに、Windows のエクスプローラなどを使用して、次に示す履歴ファイルを退避してください。

```
<CMS Light クライアントインストールディレクトリ  
>¥History¥HSRCTransHistData.chf
```

なお、退避したファイルの名称は任意に変更できますが、拡張子 ".chf" は変更しないでください。拡張子を変更すると、GUI での履歴表示ができなくなります。

[OK] ボタン

クリックすると、最大履歴保存件数が入力した値に変更され、[環境設定] 画面が閉じます。

なお、履歴ファイルの再編成が発生した場合、履歴ファイルの再編成が完了したあと、[環境設定] 画面を終了します。

[キャンセル] ボタン

クリックすると、入力した値が破棄され、[環境設定] 画面が閉じます。伝送履歴ファイルの再編成処理実施中の場合は、実行できません。

再編成進行状況

最大履歴保存件数を以前に設定した値よりも小さくした場合、履歴ファイルが再編成されます。また、最大履歴保存件数を以前に設定した値よりも大きくした場合にも再編成処理が実行される場合があります。ここでは、履歴ファイルの再編成の進行状況 (%) が表示されます。再編成が完了するまでは、[OK] ボタンや [キャンセル] ボタンをクリックしたり、[環境設定] 画面を閉じたりすることはできません。

注意

再編成の途中で、ドキュメント送信コマンドおよびドキュメント受信コマンドは実行しないでください。

再編成が完了するまでは、履歴ファイルへの書き込みができないため、送受信の履歴が保存できません。

4.2 履歴一覧を表示する

送受信したドキュメントの伝送履歴は [履歴表示] 画面に表示されます。

[履歴表示] 画面を表示するには、スタートメニューから [すべてのプログラム] - [uCosminexus Message Service Client Light for ebXML] - [伝送履歴] - [履歴表示] をクリックします。

[履歴表示] 画面を次に示します。

図 4-2 [履歴表示] 画面

伝送日	伝送時刻	伝送番号	送受信区別	警告情報	送受信ファイル名	ドキュメント送信者識別子	ドキュメント受信者識別子	ドキュメント識別子
2008/01/30	21:44:...	94	√ 受信		[20080130214416]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	93	△ 送信		[20080130214415]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	92	√ 受信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	91	△ 送信		[20080130214415]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	90	√ 受信		[20080130214414]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	89	△ 送信	△	[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	88	√ 受信		[20080130214413]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	87	△ 送信		[20080130214413]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	86	√ 受信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	85	△ 送信		[20080130214412]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	84	√ 受信		[20080130214412]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	83	△ 送信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	82	√ 受信		[20080130214411]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	81	△ 送信		[20080130214411]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	80	√ 受信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	79	△ 送信		[20080130214410]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	78	√ 受信	△	[20080130214410]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	77	△ 送信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	76	√ 受信		[20080130214409]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	75	△ 送信		[20080130214409]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	74	√ 受信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	73	△ 送信		[20080130214408]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	72	√ 受信		[20080130214407]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	71	△ 送信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	70	√ 受信		[20080130214407]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	69	△ 送信		[20080130214406]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	68	√ 受信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	67	△ 送信	△	[20080130214405]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	66	√ 受信		[20080130214405]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	65	△ 送信		[ERR]_[200801302]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	64	√ 受信		[20080130214404]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...
2008/01/30	21:44:...	63	△ 送信		[20080130214404]...	S00000000000000	C000000000000001	200801302144...

メニュー項目を次に示します。

[ファイル] - [最新の状態で更新]

履歴ファイルを再度読み込み、[履歴表示] 画面の表示内容を更新します。

また、右クリックで表示されるポップアップメニューの [最新の状態で更新] を選択しても同様の操作ができます。ユーザーが退避した履歴ファイルの内容を表示している場合は、非活性となります。

[ファイル] - [履歴ファイル]

[履歴表示] 画面の表示内容を元に戻します。

このメニューは、[ファイル] - [開く] を使用して、ユーザーが退避した履歴ファイルの内容を表示している場合に、[履歴表示] 画面に表示する内容を元に戻すため

に使用します。

また、右クリックで表示されるポップアップメニューの [履歴ファイル] を選択しても同様の操作ができます。ユーザーが退避した履歴ファイルの内容を表示していない場合は、非活性となります。

[ファイル] - [詳細情報]

選択している伝送履歴の詳細情報を [詳細情報] 画面に表示します。

なお、伝送履歴を複数件選択していた場合、いちばん上の伝送履歴の詳細情報が表示されます。

[詳細情報] 画面については、「4.3 送受信の成功・失敗の確認をする」を参照してください。

また、次のどちらかを実施することでも同様の操作ができます。

- [履歴表示] 画面で伝送履歴を一つ選択し、ダブルクリックする
- [履歴表示] 画面で伝送履歴を一つ選択し、右クリックで表示されるポップアップメニューから [詳細表示] を選択する

伝送履歴が選択されていない場合は、非活性となります。

[ファイル] - [開く]

ユーザーが退避した履歴ファイルの内容を表示します。

このメニューは、ユーザーが退避した履歴ファイルの内容を表示したい場合に使用します。

メニューを選択したあとに、表示したい履歴ファイル (*.chf) を指定します。

[ファイル] - [アプリケーションの終了]

[履歴表示] 画面を終了します。

[ヘルプ] - [バージョン情報]

バージョン情報画面を表示します。

表示項目を次に示します。

伝送日

ドキュメントの伝送日が、YYYY/MM/DD 形式で表示されます。

また、この項目の左端にはドキュメント送信、またはドキュメント受信を示すアイコンが表示されます。



: 受信を表しています。



: 送信を表しています。

アイコンの色の意味を次に示します。

青: ドキュメントの送受信状態が成功であることを表しています。

赤: ドキュメントの送受信状態が異常であることを表しています。

黄: ドキュメントの送受信状態が不確定であることを表しています。

白: ドキュメントが 0 バイトであることを表しています。

4. 履歴表示 GUI

伝送時刻

ドキュメントの伝送時刻が、hh:mm:ss 形式で表示されます。

hh：時間

mm：分

ss：秒

伝送番号

ドキュメントの伝送番号が表示されます。

送受信区別

ドキュメントの送受信区別が次のように表示されます。

送信：ドキュメントの送信を表しています。

受信：ドキュメントの受信を表しています。

警告情報

警告情報の有無を示します。警告情報がある場合は " " が表示されます。警告情報がない場合は何も表示されません。

送受信ファイル名称

ドキュメントのファイル名称が表示されます。

ドキュメント送信者識別子

ドキュメントの送信者識別子が表示されます。

ドキュメント受信者識別子

ドキュメントの受信者識別子が表示されます。

ドキュメント識別子

受信したドキュメント識別子が表示されます。

4.3 送受信の成功・失敗の確認をする

ドキュメント送受信の成功・失敗は [詳細情報] 画面で確認できます。ドキュメントの送受信に失敗してしまった場合については、「8. トラブルシュート」を参照してください。

[詳細情報] 画面を表示するには、次のどれかを実施します。

- [履歴表示] 画面で伝送履歴を一つ選択し、メニューから [ファイル] - [開く] をクリックする
- [履歴表示] 画面で伝送履歴を一つ選択し、右クリックで表示されるポップアップメニューから [詳細情報] を選択する
- [履歴表示] 画面で伝送履歴を一つ選択し、ダブルクリックする

[詳細情報] 画面を次に示します。

図 4-3 [詳細情報] 画面

送受信状態	<input type="checkbox"/> 正常	<input checked="" type="checkbox"/> 異常	<input type="checkbox"/> 不確定
送受信区別	<input checked="" type="checkbox"/> 送信	<input type="checkbox"/> 受信	
伝送番号	89		
伝送日時	2008/01/30	21:44:14	
送受信ファイル名称	%data#send_error#[ERR]_[20080130214414]_[C000000000000001]		
ドキュメント送信者識別子	S0000000000000000		
ドキュメント受信者識別子	C00000000000000001		
ドキュメント識別子	20080130214414-77c34058-5892-4571-ab1a-e8906dd8ed0d@S0000		
ドキュメント形式	SecondGenEDI		
ドキュメント種別	Order		
ドキュメント圧縮形式	iso		
ファイルサイズ	31535	バイト	
エラー種別	soapenv:Server		
エラー詳細情報	KDSR10002-E uCosminexus Message Service Server Light for ebX		
警告詳細情報	サーバに送信、またはサーバから受信したドキュメントファイルのディレクトリへの移動に失敗しました。		

表示項目を次に示します。

送受信状態

4. 履歴表示 GUI

ドキュメントの送受信状態が表示されます。" 正常 ", " 異常 ", " 不確定 " のどれかにチェックされます。

送受信区別

ドキュメントの送受信区別が表示されます。" 送信 ", " 受信 " のどちらかにチェックされます。

伝送番号

ドキュメントの伝送番号が表示されます。

伝送日時

ドキュメントの伝送日時が表示されます。

送受信ファイル名称

ドキュメントのファイル名称が、絶対パスで表示されます。

ドキュメント送信者識別子

ドキュメントの送信者識別子が表示されます。

ドキュメント受信者識別子

ドキュメントの受信者識別子が表示されます。

ドキュメント識別子

ドキュメントの識別子が表示されます。

ドキュメント形式

ドキュメントの形式が表示されます。

ドキュメント種別

ドキュメントの種別が表示されます。

ドキュメント圧縮形式

ドキュメントの圧縮形式が表示されます。

ファイルサイズ

ドキュメントのファイルサイズが、バイト換算で表示されます。

エラー種別

ドキュメントのエラー種別が表示されます。

エラーの原因がクライアントの場合 "Client" が表示されます。接続先サーバの場合、"Server" が表示されます。

送受信に成功している場合は、非活性状態となり、何も表示されません。

エラー詳細情報

ドキュメントのエラー詳細情報が表示されます。

送受信に成功している場合は、非活性状態となり、何も表示されません。

警告詳細情報

[履歴表示] 画面で警告情報が " " の場合、" サーバに送信、またはサーバから受

信したドキュメントファイルのディレクトリへの移動に失敗しました。" というメッセージが表示されます。警告情報がない場合は、何も表示されません。

[OK] ボタン

クリックすると、[詳細情報] 画面が終了し、[履歴表示] 画面に戻ります。

5

コマンドを使用してドキュメントを送受信する手順

CMS Light クライアントの主な機能は、ドキュメントの送受信です。この章では、コマンドを使用してドキュメントを送受信する手順、および送受信したドキュメントの確認手順について説明します。

簡易環境設定 GUI と履歴表示 GUI を使用してドキュメントを送受信する手順については、「第2編 基本操作編」を参照してください。

5.1 コマンドの操作でドキュメントを送受信するまでの手順

5.2 コマンドの操作でドキュメントを送受信したあとの確認手順

5.1 コマンドの操作でドキュメントを送受信するまでの手順

コマンドプロンプトを利用したドキュメントの送受信の手順について示します。

1. 定義ファイルを設定します。

定義ファイルの格納先を次に示します。

- クライアント共通定義ファイルの格納先ディレクトリ
<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥conf¥HSRCCCommon.xml
- クライアント引数情報ファイルの格納先ディレクトリ
ファイルの格納先、ファイル名は任意です。

定義ファイルの詳細については、「6. 定義ファイル」を参照してください。

2. [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト] をクリックします。

コマンドプロンプトが表示されます。

3. コマンドを実行します。

コマンドプロンプトに絶対パスでコマンドを入力し、必要な引数を指定します。ドキュメントが送受信されます。なお、コマンドの詳細については、「7. コマンド」を参照してください。

送信コマンドの実行例

```
"C:¥Program files¥Hitachi¥ebxml¥mscl¥bin¥HSRCMessageService.exe" -mode=send  
-infofile="C:¥Program files¥Hitachi¥ebxml¥mscl¥conf¥send_info¥入荷予定データ伝票  
.xml"
```

受信コマンドの実行例

```
"C:¥Program files¥Hitachi¥ebxml¥mscl¥bin¥HSRCMessageService.exe" -mode=receive
```

5.2 コマンドの操作でドキュメントを送受信したあとの確認手順

履歴表示 GUI で送受信の確認をする手順について説明します。

1. [すべてのプログラム] - [uCosminexus Message Service Client Light for ebXML] - [伝送履歴] - [履歴表示] をクリックします。
[履歴表示] 画面が表示されます。

図 5-1 [履歴表示] 画面 (コマンドの操作でドキュメントを送受信したあとの確認手順)

伝送日	伝送時刻	伝送番号	送受信区別	警告情報	送受信ファイル名称	ドキュメント送信者識別子	ドキュメント受信者識別子	ドキュメント識別子
2008/01/30	21:44:...	94	√ 受信		[20080130214416]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	93	△ 送信		[20080130214415]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	92	√ 受信		[ERR]_[200801302]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	91	△ 送信		[20080130214415]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	90	√ 受信		[20080130214414]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	89	△ 送信	△	[ERR]_[200801302]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	88	√ 受信		[20080130214413]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	87	△ 送信		[20080130214413]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	86	√ 受信		[ERR]_[200801302]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	85	△ 送信		[20080130214412]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	84	√ 受信		[20080130214412]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	83	△ 送信		[ERR]_[200801302]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	82	√ 受信		[20080130214411]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	81	△ 送信		[20080130214411]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	80	√ 受信		[ERR]_[200801302]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	79	△ 送信		[20080130214410]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	78	√ 受信	△	[20080130214410]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	77	△ 送信		[ERR]_[200801302]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	76	√ 受信		[20080130214409]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	75	△ 送信		[20080130214409]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	74	√ 受信		[ERR]_[200801302]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	73	△ 送信		[20080130214408]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	72	√ 受信		[20080130214407]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	71	△ 送信		[ERR]_[200801302]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	70	√ 受信		[20080130214407]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	69	△ 送信		[20080130214406]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	68	√ 受信		[ERR]_[200801302]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	67	△ 送信	△	[20080130214405]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	66	√ 受信		[20080130214405]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	65	△ 送信		[ERR]_[200801302]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	64	√ 受信		[20080130214404]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	63	△ 送信		[20080130214404]...	S0000000000000000	C000000000000001	200801302144:

[履歴表示] 画面は、ユーザーが送受信したドキュメントの伝送履歴情報を、伝送実行順に一括して表示します。[履歴表示] 画面の詳細については、「4.2 履歴一覧を表示する」を参照してください。

2. [履歴表示] 画面で該当する履歴情報を選択して、メニューの [ファイル] - [詳細情報] をクリックします。
[詳細情報] 画面が表示されます。

5. コマンドを使用してドキュメントを送受信する手順

図 5-2 [詳細情報] 画面 (コマンドの操作でドキュメントを送受信したあとの確認手順)

詳細情報

送受信状態 正常 異常 不確定

送受信区別 送信 受信

伝送番号

伝送日時

送受信ファイル名称

ドキュメント送信者識別子

ドキュメント受信者識別子

ドキュメント識別子

ドキュメント形式

ドキュメント種別

ドキュメント圧縮形式

ファイルサイズ バイト

エラー種別

エラー詳細情報

警告詳細情報

OK

3. [詳細情報] 画面で、ドキュメント送受信の成功・失敗を確認します。
[詳細情報] 画面の詳細については、「4.3 送受信の成功・失敗の確認をする」を参照してください。
確認した結果、正しくドキュメントが送受信されていない場合の対処については、「8. トラブルシュート」を参照してください。
4. [OK] ボタンをクリックします。
5. [履歴表示] 画面のメニューの [ファイル] - [アプリケーションの終了] をクリックします。
[履歴表示] 画面が終了します。

6

定義ファイル

この章では、CMS Light クライアントのシステムで使用する定義ファイルの形式、定義する項目などについて説明します。

-
- 6.1 定義ファイル一覧
 - 6.2 定義ファイルの形式
 - 6.3 クライアント共通定義ファイル
 - 6.4 クライアント引数情報ファイル
-

6.1 定義ファイル一覧

CMS Light クライアントのシステムで使用する定義ファイルの一覧を、次の表に示します。

表 6-1 定義ファイル一覧

項番	定義ファイル名	格納先
1	クライアント共通定義ファイル	<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥conf¥HSRCCCommon.xml
2	クライアント引数情報ファイル	ファイルの格納先、ファイル名は任意です。

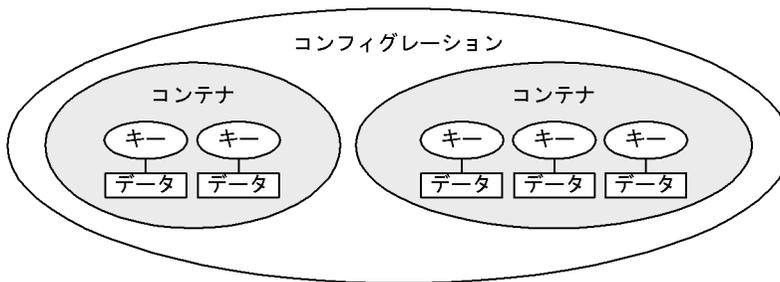
6.2 定義ファイルの形式

CMS Light クライアントの定義ファイルの構成，および記述形式について説明します。

6.2.1 定義ファイルの基本構成

CMS Light クライアントで使用する定義ファイルは XML 形式であり，名前空間（<http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/mscl/conf/HSRCConfig.xsd>）に属します。定義ファイルの基本構成を，次の図に示します。

図 6-1 定義ファイルの基本構成



コンフィグレーションは複数のコンテナを持ち，コンテナは複数のキーを持ちます。また，データは，キー要素のテキストデータとして記述されます。

定義ファイルを構成する要素を次の表に示します。

表 6-2 定義ファイルを構成する要素

項番	要素	XML タグ名	要素が持つ情報
1	コンフィグレーション	Configuration	コンテナ要素，キー要素，データ
2	コンテナ	Container	キー要素，データ
3	キー	Key	データ

6.2.2 定義ファイルの記述形式

CMS Light クライアントの定義ファイルは XML 形式で記述するため，直接記述できない文字や使用できない文字があります。

(1) XML 形式で直接記述できない文字を使いたい場合

定義ファイルのデータに XML 形式で直接記述できない文字を使いたい場合，置換する必要があります。

定義ファイルに記述するときに置換する必要がある文字の一覧を次の表に示します。

6. 定義ファイル

表 6-3 置換する必要がある文字一覧

項番	文字	置換文字
1	&	&
2	<	<
3	>	>
4	"	"
5	'	'

(2) 定義ファイルに使用できない文字

定義ファイルのデータに記述できない文字は、記述しないでください。ファイルパスにも使用しないでください。

定義ファイルに使用できない文字の一覧を次に示します。

図 6-2 定義ファイルに使用できない文字の一覧

記号	機種依存文字	その他
●長音記号 (ー)	●NEC拡張文字	●環境変数として解釈できる文字 (%PATH%など)
●波記号 (～)	(①②③, I II III, (株), 明治大昭和平成, ミリ*ロなど)	●タブ文字, 改行文字
●並行符 ()	●NEC選定IBM拡張文字 (i ii iii など)	●Windows Vistaでサポートされた JIS X0213:2004
●ハイフン (ー)	●IBM拡張文字 (No., Ⅲなど)	

(3) 半角スペース文字とタブ文字の入力値

各タブで、入力された値の前後に半角スペース・タブがある場合、入力された値の前後の半角スペース・タブを除いた値が設定値になります。

入力された値の前後に半角スペースがある場合の例を、次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<Configuration
xmlns=" http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/mscl/conf/HSRCCConfig.xsd"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">
  <Container id="ACCOUNT">
    <Key id="CLIENT"> cliuri.co.jp </Key>
  </Container>
</Configuration>
```

注

ACCOUNT コンテナの CLIENT キーの設定値は " cliuri.co.jp " です (は半角スペースを示します)。入力された値の前後に半角スペースが入っていますが、設定値は入力された値の前後の半角スペースおよびタブを除いた "cliuri.co.jp" となります。

6.3 クライアント共通定義ファイル

クライアント共通定義ファイルは、CMS Light クライアントの実行環境を定義するファイルです。

ここでは、クライアント共通定義ファイルの形式、ファイルの格納先、定義する項目について説明します。

(1) 形式

XML 形式です。記述形式の詳細については、「6.2 定義ファイルの形式」を参照してください。

(2) ファイルの格納先

<CMS Light クライアントインストールディレクトリ>\¥conf¥HSRCCCommon.xml

(3) 定義できるコンテナ

クライアント共通定義ファイルで定義できるコンテナの一覧を、次の表に示します。

表 6-4 クライアント共通定義ファイルで定義できるコンテナ一覧

項番	コンテナ	説明	必須 / 任意
1	AUTHOR	オーサー情報	必須
2	PARTNER	パートナー情報	
3	ACCOUNT	アカウント情報	
4	TRANSPORT	トランスポート情報	任意
5	BASIC	HTTP ベーシック認証情報	
6	CLIENTCERTIFICATE	SSL クライアント認証情報	
7	TRACE_LOG	トレースログの出力設定	
8	ERROR_LOG	エラーログの出力設定	任意
9	MESSAGE_LOG	通信ログの出力設定	
10	PUTDOCUMENT	ドキュメント送信コマンドの引数情報	
11	GETDOCUMENT	ドキュメント受信コマンドの引数情報	

注

通常はコマンドの引数として指定するクライアント引数情報ファイルに記述しますが、クライアント共通定義ファイルにも定義できます。これらのコンテナに定義で

6. 定義ファイル

きるキーについては、「6.4 クライアント引数情報ファイル」を参照してください。
 なお、PUTDOCUMENT（ドキュメント送信コマンドの引数情報）コンテナがクライアント共通定義ファイルに定義されている場合、簡易環境設定 GUI でクライアント共通定義ファイルを読み込み、[OK] ボタンおよび [適用] ボタンでファイルが上書きされると、該当するコンテナは削除されます。

簡易環境設定 GUI でクライアント共通定義ファイルを読み込むために、必ず GETDOCUMENT（ドキュメント受信コマンドの引数情報）コンテナを、クライアント共通定義ファイルに定義してください。

（４）定義できるキー

クライアント共通定義ファイルで定義できるキー要素の一覧を、次の表に示します。

表 6-5 クライアント共通定義ファイルで定義できるキー要素一覧

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
1	AUTHOR (オーサー情報)	AUTH_ID (クライアント ID)	サーバ企業から通知された、クライアントを認識するための識別子を、63 バイト以内の文字列で指定します。 AUTH_ID (クライアント ID) は複数指定できます。	なし。	必須
2	PARTNER (パートナー情報)	PARTNER_ID (サーバ ID)	サーバ企業から通知された、取引先を認識するための識別子を、63 バイト以内の文字列で指定します。 PARTNER_ID (サーバ ID) は複数指定できます。	なし。	必須
3	ACCOUNT (アカウント情報)	CLIENT_URI (CMS Light クライアントの URI)	サーバ企業から通知された、CMS Light クライアントの URI を、255 バイト以内の文字列で指定します。	なし。	必須
4		SERVER_URI (接続先サーバの URI)	サーバ企業から通知された、接続先サーバの URI を、255 バイト以内の文字列で指定します。	なし。	必須
5		ENDPOINT (接続先サーバのエンドポイント)	サーバ企業から通知された、接続先サーバの URL を指定します。	なし。	必須
6	TRANSPORT (トランスポート情報)	PROXY_ADDRESS (HTTP プロキシアドレス)	HTTP プロトコルを使用してメッセージを送信する場合に、HTTP プロキシサーバのアドレスを指定します。	なし。	任意

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
7		PROXY_PORT (HTTP プロキシポート)	HTTP プロトコルを使用してメッセージを送信する場合に、HTTP プロキシサーバのポート番号を、0 ~ 65,535 の整数値で指定します。	なし。	任意
8		AUTH_USER (HTTP プロキシ認証ユーザー)	HTTP プロキシサーバで接続ユーザー認証をする場合に、該当するプロキシサーバの管理者から通知された、ユーザー名を指定します。ユーザー名を指定します。	なし。	任意
9		AUTH_PASSWORD (HTTP プロキシ認証パスワード)	HTTP プロキシサーバで接続ユーザー認証をする場合、該当するプロキシサーバの管理者から通知された、パスワードを指定します。	なし。	任意
10		SSL_PROXY_ADDRESS (HTTPS プロキシアドレス)	HTTPS プロトコルを使用してメッセージを送信する場合に、HTTPS プロキシサーバのアドレスを指定します。	なし。	任意
11		SSL_PROXY_PORT (HTTPS プロキシポート)	HTTPS プロトコルを使用してメッセージを送信する場合に、HTTPS プロキシサーバのポート番号を、0 ~ 65,535 の整数値で指定します。	なし。	任意
12		SSL_AUTH_USER (HTTPS プロキシ認証ユーザー)	HTTPS プロキシサーバで接続ユーザー認証をする場合に、該当するプロキシサーバの管理者から通知された、ユーザー名を指定します。	なし。	任意
13		SSL_AUTH_PASSWORD (HTTPS プロキシ認証パスワード)	HTTPS プロキシサーバで接続ユーザー認証をする場合に、該当するプロキシサーバの管理者から通知された、パスワードを指定します。	なし。	任意
14	BASIC (HTTP ベーシック認証情報)	AUTH_USER (HTTP ベーシック認証ユーザー)	HTTP ベーシック認証をする場合に、サーバ企業から通知された、ユーザー名を指定します。	なし。	必須
15		AUTH_PASSWORD (HTTP ベーシック認証パスワード)	HTTP ベーシック認証をする場合に、サーバ企業から通知された、パスワードを指定します。	なし。	必須

6. 定義ファイル

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
16	CLIENTCERTIFICATE (SSLクライアント認証情報)	CERTIFICATE_FILE 1 (クライアント証明書ファイル)	SSLクライアント認証をする場合に、クライアント証明書ファイルの絶対パスを指定します。	なし。	必須
17	TRACE_LOG (トレースログの出力設定)	DIR_PATH 2 (トレースログファイル保存先ディレクトリ)	トレースログファイルを保存するディレクトリの絶対パスを、200バイト以内の文字列で指定します。 なお、指定したディレクトリがない場合、指定したパスにディレクトリが作成されます。	<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥log	任意
18		OUTPUT_FILE_MAX_VALUE (トレースログファイル数)	トレースログファイルの出力ファイル数を、1 ~ 64の整数値で指定します。 トレースログファイルが指定したファイル数を超えた場合、ラップアラウンド形式で保存されます。	4	任意
19		FILE_SIZE_MAX_VALUE (トレースログファイルの最大サイズ)	個々のトレースログファイルの最大サイズ(バイト)を、4,096 ~ 16,777,216の整数値で指定します。 トレースログファイルのサイズが指定したサイズを超えた場合、新しいトレースログファイルが作成されます。	8,388,608	任意
20	ERROR_LOG (エラーログの出力設定)	DIR_PATH 2 (エラーログファイル保存先ディレクトリ)	エラーログファイルを保存するディレクトリの絶対パスを、200バイト以内の文字列で指定します。 省略した場合、デフォルト値に示すディレクトリに格納されます。 なお、指定したディレクトリがない場合、指定したパスにディレクトリが作成されます。	<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥log	任意
21		OUTPUT_FILE_MAX_VALUE (エラーログファイル数)	エラーログファイルの出力ファイル数を、1 ~ 64の整数値で指定します。 エラーログファイルが指定したファイル数を超えた場合、ラップアラウンド形式で保存されます。	4	任意
22		FILE_SIZE_MAX_VALUE (エラーログファイルの最大サイズ)	個々のエラーログファイルの最大サイズ(バイト)を、4,096 ~ 16,777,216の整数値で指定します。 エラーログファイルのサイズが指定したサイズを超えた場合、新しいエラーログファイルが作成されます。	8,388,608	任意

項番	コンテナ	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
23	MESSAGE_LOG (通信ログの出力設定)	DIR_PATH ₂ (通信ログファイル保存先ディレクトリ)	通信ログファイルを保存するディレクトリの絶対パスを、200 バイト以内の文字列で指定します。 なお、指定したディレクトリがない場合、指定したパスにディレクトリが作成されます。	<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥log	任意
24		OUTPUT_FILE_MAX_VALUE (通信ログファイル数)	通信ログファイルの出力ファイル数を、1 ~ 64 の整数値で指定します。 通信ログファイルが指定したファイル数を超えた場合、ラップアラウンド形式で保存されます。	4	任意
25		FILE_SIZE_MAX_VALUE (通信ログファイルの最大サイズ)	個々の通信ログファイルの最大サイズ (バイト) を、4,096 ~ 16,777,216 の整数値で指定します。 通信ログファイルのサイズが指定したサイズを超えた場合、新しい通信ログファイルが作成されます。	8,388,608	任意

注 1

SSL クライアント認証を使用する場合、クライアント証明書、およびクライアント証明書を認証する CA 証明書またはクライアント証明書を認証する CA 証明書チェーンのインストールが必要です。クライアント証明書ファイルは、あらかじめ自マシンにインストールしたクライアント証明書から、DER エンコードでエクスポートした X.509 形式のファイルを作成して取得してください。証明書のエクスポートの方法については、OS のドキュメントを参照してください。

注 2

ログファイルの出力先にネットワーク上の共有ファイルシステムは指定できません。

注意

- TRANSPORT コンテナ, TRACE_LOG コンテナ, ERROR_LOG コンテナ, および MESSAGE_LOG コンテナに対応するキーの定義はすべて任意ですが、キーをすべて省略し、コンテナだけを記述する場合はエラーとなります。
- BASIC コンテナ, および CLIENTCERTIFICATE コンテナの定義は任意ですが、これらのコンテナを定義する場合は、対応するキーの定義が必須になります。

(a) TRANSPORT (トランスポート情報) について

トランスポート情報について、エンドポイントが HTTP と HTTPS の場合に分けて説明します。

接続先サーバのエンドポイントが HTTP の場合

- TRANSPORT コンテナの PROXY_ADDRESS キーと PROXY_PORT キーが存在するときは、それらをプロキシサーバ情報として使用します。さらに、

6. 定義ファイル

AUTH_USER キーと AUTH_PASSWORD キーが存在するときは、プロキシ認証も行います。

- TRANSPORT コンテナの PROXY_ADDRESS キーと PROXY_PORT キーが存在しないときは、プロキシサーバは使用しません。

注意

TRANSPORT コンテナの PROXY_ADDRESS キーと PROXY_PORT キーを指定するとき、または AUTH_USER キーと AUTH_PASSWORD キーを指定するときは、同時に指定する必要があります。どちらか一方を指定したときは、定義内容のエラーとなります。

接続先サーバのエンドポイントが HTTPS の場合

- TRANSPORT コンテナの SSL_PROXY_ADDRESS キーと SSL_PROXY_PORT キーが存在するときは、それらをプロキシサーバ情報として使用します。さらに、SSL_AUTH_USER キーと SSL_AUTH_PASSWORD キーが存在するときは、プロキシ認証も行います。
- TRANSPORT コンテナの SSL_PROXY_ADDRESS キーと SSL_PROXY_PORT キーが存在しないときは、プロキシサーバは使用しません。

注意

SSL_PROXY_ADDRESS キーと SSL_PROXY_PORT キーを指定するとき、または SSL_AUTH_USER キーと SSL_AUTH_PASSWORD キーを指定するときは、同時に指定する必要があります。どちらか一方を指定したときは、定義内容のエラーとなります。

なお、接続先サーバと SSL 通信をする方法については、「付録 A 接続先サーバと SSL 通信をするための手順」を参照してください。

(5) 定義例

クライアント共通定義ファイルの定義例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<Configuration
xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/mscl/conf/HSRCCConfig.xsd"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">

  <Container id="ACCOUNT">
    <Key id="CLIENT_URI">cliuri.co.jp</Key>
    <Key id="SERVER_URI">svruri.co.jp</Key>
    <Key id="ENDPOINT">http://www.svruri.co.jp/edi-service</Key>
  </Container>

  <Container id="TRACE_LOG">
    <Key id="DIR_PATH">C:\Program files\Hitachi\ebxml\mscl\log</Key>
    <Key id="OUTPUT_FILE_MAX_VALUE">4</Key>
    <Key id="FILE_SIZE_MAX_VALUE">8388608</Key>
  </Container>

  <Container id="ERROR_LOG">
    <Key id="DIR_PATH">C:\Program files\Hitachi\ebxml\mscl\log</Key>
    <Key id="OUTPUT_FILE_MAX_VALUE">4</Key>
    <Key id="FILE_SIZE_MAX_VALUE">8388608</Key>
  </Container>

  <Container id="MESSAGE_LOG">
    <Key id="DIR_PATH">C:\Program files\Hitachi\ebxml\mscl\log</Key>
    <Key id="OUTPUT_FILE_MAX_VALUE">4</Key>
    <Key id="FILE_SIZE_MAX_VALUE">8388608</Key>
  </Container>

  <Container id="AUTHOR">
    <Key id="AUTH_ID">4569951110016</Key>
  </Container>

  <Container id="PARTNER">
    <Key id="PARTNER_ID">4912345000019</Key>
  </Container>

</Configuration>
```

6.4 クライアント引数情報ファイル

クライアント引数情報ファイルは、CMS Light クライアントのコマンドを実行するために必要な情報を定義するファイルです。

クライアント引数情報ファイルには、次の 2 種類があります。

- ドキュメント送信コマンドで使用するクライアント引数情報ファイル
- ドキュメント受信コマンドで使用するクライアント引数情報ファイル

ここでは、それぞれのクライアント引数情報ファイルについて、形式、ファイルの格納先、定義する項目について説明します。

なお、通常は必須のコンテナはクライアント引数情報ファイルに定義しますが、クライアント共通定義ファイルにも定義できます。クライアント引数情報ファイルに必須のコンテナが定義されていない場合は、クライアント共通定義ファイルに定義してください。

ドキュメント送信コマンドで使用するクライアント引数情報ファイルについての注意

- PUTDOCUMENT (ドキュメント送信コマンドの引数情報) 以外のコンテナがドキュメント送信コマンドで使用するクライアント引数情報ファイルに定義されている場合、簡易環境設定 GUI で該当するクライアント引数情報ファイルを読み込み、[OK] ボタンおよび [適用] ボタンでファイルが上書きされると、該当するコンテナは削除されます。
- 簡易環境設定 GUI がドキュメント送信コマンドで使用するクライアント引数情報ファイルを読み込むために、必ず PUTDOCUMENT (ドキュメント送信コマンドの引数情報) コンテナを、該当するクライアント引数情報ファイルに定義してください。

ドキュメント受信コマンドで使用するクライアント引数情報ファイルについての注意

- GETDOCUMENT (ドキュメント受信コマンドの引数情報) 以外のコンテナがドキュメント受信コマンドで使用するクライアント引数情報ファイルに定義されている場合、簡易環境設定 GUI で該当するクライアント引数情報ファイルを読み込み、[OK] ボタンおよび [適用] ボタンでファイルが上書きされると、該当するコンテナは削除されます。
- 簡易環境設定 GUI がドキュメント受信コマンドで使用するクライアント引数情報ファイルを読み込むために、必ず GETDOCUMENT (ドキュメント受信コマンドの引数情報) コンテナを、該当するクライアント引数情報ファイルに定義してください。

6.4.1 ドキュメント送信コマンドを使用する場合

(1) 形式

XML 形式です。記述形式の詳細については、「6.2 定義ファイルの形式」を参照してください。

(2) ファイルの格納先

ファイルの格納先，ファイル名は任意です。

(3) 定義できるコンテナ

PUTDOCUMENT (ドキュメント送信コマンドの引数情報)

(4) 定義できるキー

ドキュメント送信コマンド用のクライアント引数情報ファイルで定義できるキー要素の一覧を，次の表に示します。

表 6-6 クライアント引数情報ファイルで定義できるキー要素一覧 (ドキュメント送信コマンドを使用する場合)

項番	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
1	SENDER_ID (ドキュメント送信者識別子)	ドキュメント送信者識別子を，63 バイト以内の文字列で指定します。 省略した場合，クライアント共通定義ファイルの AUTHOR (オーサー情報) に記述されている識別子が使用されます。 クライアント共通定義ファイルに識別子が複数記述されている場合，最初に記述されている識別子が使用されます。 ドキュメント送信者識別子は，クライアント共通定義ファイルの AUTHOR (オーサー情報) コンテナの AUTH_ID (クライアント ID) として記述されている必要があります。	なし。	任意
2	RECEIVER_ID (ドキュメント受信者識別子)	ドキュメント受信者識別子を，63 バイト以内の文字列で指定します。省略した場合，クライアント共通定義ファイルの PARTNER (パートナー情報) に記述されている識別子が使用されます。クライアント共通定義ファイルに識別子が複数記述されている場合，最初に記述されている識別子が使用されます。ドキュメント受信者識別子は，クライアント共通定義ファイルの PARTNER (パートナー情報) コンテナの PARTNER_ID (サーバ ID) として記述されている必要があります。	なし。	任意
3	FORMAT_TYPE (ドキュメント形式)	サーバ企業と取り決めたドキュメント形式を，次の五つのどれかで指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • SecondGenEDI (SecondGenEDI 形式) • JEDICOS-XML (JEDICOS-XML 形式) • JEDICOS (JEDICOS 形式) • J Protocol (JCA 形式) • Mutuality defined (相互定義：双方間の合意の下で使用する任意の形式) 	なし。	必須

6. 定義ファイル

項番	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
4	DOCUMENT_TYPE (ドキュメント種別)	サーバ企業と取り決めたドキュメント種別を、255バイト以内の文字列で指定します。 FORMAT_TYPE (ドキュメント形式) に Mutuality defined 以外を指定した場合、「表 6-7 ドキュメント種別とドキュメント形式の組み合わせ (定義ファイル)」に従ってドキュメント種別を指定してください。	なし。	必須
5	COMPRESS_TYPE (ドキュメント圧縮形式)	サーバ企業と取り決めたドキュメント圧縮形式を、63バイト以内の文字列で指定します。 ドキュメントを圧縮している場合、圧縮形式をIANAによって管理されているMIMEメディアタイプで指定します。 ただし、IANAによって管理されているMIMEメディアタイプかどうかのチェックはされません。	なし。	任意
6	SEND_FILE_MAX_NUM (ドキュメント送信の最大数)	1回のドキュメント送信コマンドで、送信するファイル数の最大値を、1～128の整数値で指定します。	32	任意
7	SEND_FILE_MAX_SIZE (送信ファイルの最大データサイズ)	送信するファイルの最大サイズ(バイト)を、10,240～52,428,800の整数値で指定します。	10,485,760	任意
8	SEND_DATA (送信ファイルのパス)	送信するファイルの格納ディレクトリの絶対パス、または送信するファイルの絶対パスを、247バイト以内の文字列で指定します。	なし。	必須
9	SEND_SUCCESS_DIR (送信成功ディレクトリパス)	送信に成功したファイルの格納ディレクトリの絶対パスを、120バイト以内の文字列で指定します。	<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥data¥send_success	任意
10	SEND_ERROR_DIR (送信失敗ディレクトリパス)	送信に失敗したファイルの格納ディレクトリの絶対パスを、120バイト以内の文字列で指定します。	<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥data¥send_error	任意

項番	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
11	SEND_FILE_NAME_n (送信済みファイルの名称規則)	<p>送信済みファイルを送信成功ディレクトリ、または送信失敗ディレクトリに格納するときのファイルの名称規則を指定します。ファイル名称に付与できるのは、次に示すキー要素のデータです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DATE (ドキュメントの送信時刻) • RECEIVER_ID (ドキュメント受信者識別子) • FORMAT_TYPE (ドキュメント形式) • DOCUMENT_TYPE (ドキュメント種別) <p>上記の四つのデータを、SEND_FILE_NAME_n と対にして記述します。</p> <p>n には、ファイル名称に付与したいデータの数に応じて、1 ~ 4 の整数値を昇順に指定します。同じ番号は重複して指定できません。例えば、SEND_FILE_NAME_n に対して、DATE, FORMAT_TYPE, DOCUMENT_TYPE, RECEIVER_ID の順序でデータを指定した場合、ファイル名称の例は次のとおりです。</p> <p>[20040313123817]_[JEDICOS-XML]_[Despatch Advice Slip]_[4912345000019].xml</p> <p>なお、送信失敗ファイルは上記のファイル名称の前に "[ERR]_" が付加されます。ファイル名称の例は次のとおりです。</p> <p>[ERR]_[20040313123817]_[JEDICOS-XML]_[Despatch Advice Slip]_[4912345000019].xml</p> <p>なお、DATE (ドキュメントの送信時刻) は SEND_FILE_NAME_1 ~ 4 のどれかに必ず指定してください。</p>	なし。	必須
12	PUT_RETRIES (ドキュメント送信のリトライ回数)	<p>ドキュメント送信のリトライ回数 (回) を、0 ~ 32 の整数値で指定します。</p> <p>ドキュメント送信を実行してから、リトライ間隔 (PUT_RETRY_INTERVAL に指定した時間) が経過した場合にリトライされる回数の最大値です。</p> <p>再試行しない場合、0 を指定します。</p>	3	任意
13	PUT_RETRY_INTERVAL (ドキュメント送信のリトライ間隔)	<p>ドキュメント送信のリトライ間隔 (秒) を、10 ~ 3,600 の整数値で指定します。</p> <p>ドキュメント送信を実行してから、次のドキュメント送信を実行するまでの間隔です。</p>	90	任意

注 ファイル名称は、次の規則に従って付与されます。

- データは "[" , "]" で囲まれます。
- データを複数指定した場合、n に指定した番号順に "_" で区切られます。
- 次に示す文字制限があるので、最大バイト数を超えた文字列は切り捨てられます。

6. 定義ファイル

RECEIVER_ID (ドキュメント受信者識別子): 文字列の最初から 30 バイトまで。

DOCUMENT_TYPE (ドキュメント種別): 文字列の最初から 40 バイトまで。

- 送信成功ディレクトリ,または送信失敗ディレクトリに同名のファイルがある場合,ファイル名の最後に "_[n]" (n は 2 ~ 999 の整数値) が番号順に付加されます。

なお, "_[999]" が付加されたファイルがある場合, "_[1000]" がファイル名の最後に付加され,以後は "_[1000]" が付加されたファイルが上書きされます。

- Windows でファイル名に使用できない文字は, "_" に置換します。

表 6-7 ドキュメント種別とドキュメント形式の組み合わせ (定義ファイル)

項番	ドキュメント種別	ドキュメント形式			
		SecondGenEDI	JEDICOS-XML	JEDICOS	J-Protocol
1	Order		×	×	×
2	Shipment Notification		×	×	×
3	Package Shipment Notification		×	×	×
4	Non-associated Package Shipment Notification		×	×	×
5	Receiving Notification		×	×	×
6	Payment		×	×	×
7	Return Notification		×	×	×
8	Price/Sales Catalogue	×			×
9	Purchase Order	×			
10	Purchase Order Response	×	×		×
11	Inventory Report	×			×
12	Shelf Allocation Report	×	×		×
13	POS Report	×			×
14	Order Recommendation	×	×		×
15	Despatch Advice Slip	×			×
16	Despatch Advice Carton	×			×
17	Arrival Notice	×			×
18	Confirmation of Delivery	×	×		×
19	Purchasing Advice	×			×
20	Invoice				
21	Remittance Advice	×			

項番	ドキュメント種別	ドキュメント形式			
		SecondGenE DI	JEDICOS-X ML	JEDICOS	J-Protocol
22	Remittance Detail	×	×		×
23	Announcement for Returns	×			×
24	Sales Promotion Plan	×		×	×
25	Payment Order	×	×		×
26	Financial Statement	×	×		×
27	Price Tag		×	×	×
28	Fresh Order		×	×	×
29	Fresh Shipment Notification		×	×	×
30	Fresh Receiving Notification		×	×	×
31	Fresh Return Notification		×	×	×
32	Picking List		×	×	×

(凡例)

- : 対応しています。
 - ×
- ×

(5) 定義例

クライアント引数情報ファイルの定義例を次に示します。

6. 定義ファイル

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<Configuration
xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/mscl/conf/HSRCConfig.xsd"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">

  <Container id="PUTDOCUMENT">
    <Key id="SENDER_ID">4912345000019</Key>
    <Key id="RECEIVER_ID">4569951110016</Key>
    <Key id="FORMAT_TYPE">JEDICOS-XML</Key>
    <Key id="DOCUMENT_TYPE">Despatch Advice Slip</Key>
    <Key id="COMPRESS_TYPE">application/zip</Key>
    <Key id="SEND_FILE_MAX_NUM">32</Key>
    <Key id="SEND_FILE_MAX_SIZE">10485760</Key>
    <Key id="SEND_DATA">C:¥Program
files¥Hitachi¥ebxml¥mscl¥data¥JEDICOS-XML¥Despatch Advice Slip</Key>
    <Key id="SEND_SUCCESS_DIR">C:¥Program
files¥Hitachi¥ebxml¥mscl¥data¥send_success</Key>
    <Key id="SEND_ERROR_DIR">C:¥Program
files¥Hitachi¥ebxml¥mscl¥data¥send_error</Key>
    <Key id="SEND_FILE_NAME_1">DATE</Key>
    <Key id="SEND_FILE_NAME_2">RECEIVER_ID</Key>
    <Key id="SEND_FILE_NAME_3">FORMAT_TYPE</Key>
    <Key id="SEND_FILE_NAME_4">DOCUMENT_TYPE</Key>
    <Key id="PUT_RETRIES">3</Key>
    <Key id="PUT_RETRY_INTERVAL">90</Key>
  </Container>
</Configuration>
```

6.4.2 ドキュメント受信コマンドを使用する場合

(1) 形式

XML形式です。記述形式の詳細については、「6.2 定義ファイルの形式」を参照してください。

(2) ファイルの格納先

ファイルの格納先，ファイル名は任意です。

(3) 定義できるコンテナ

GETDOCUMENT (ドキュメント受信コマンドの引数情報)

(4) 定義できるキー

ドキュメント受信コマンド用のクライアント引数情報ファイルで定義できるキー要素の一覧を，次の表に示します。

表 6-8 クライアント引数情報ファイルで定義できるキー要素一覧（ドキュメント受信コマンドを使用する場合）

項番	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
1	RECEIVER_ID (ドキュメント受信者識別子)	ドキュメント受信者識別子を、63 バイト以内の文字列で指定します。 省略した場合、クライアント共通定義ファイルの AUTHOR (オーサー情報) に記述されている識別子が使用されます。 クライアント共通定義ファイルに識別子が複数記述されている場合、最初に記述されている識別子が使用されます。 ドキュメント受信者識別子は、クライアント共通定義ファイルの AUTHOR (オーサー情報) コンテナの AUTH_ID (クライアント ID) として記述されている必要があります。	なし。	任意
2	FORMAT_TYPE (ドキュメント形式)	サーバ企業と取り決めたドキュメント形式を、次の五つのどれかで指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • SecondGenEDI (SecondGenEDI 形式) • JEDICOS-XML (JEDICOS-XML 形式) • JEDICOS (JEDICOS 形式) • J Protocol (JCA 形式) • Mutuality defined (相互定義：双方間の合意の下で使用する任意の形式) 	なし。	任意
3	DOCUMENT_TYPE (ドキュメント種別)	サーバ企業と取り決めたドキュメント種別を、255 バイト以内の文字列で指定します。 FORMAT_TYPE (ドキュメント形式) に Mutuality defined 以外を指定した場合、「表 6-7 ドキュメント種別とドキュメント形式の組み合わせ (定義ファイル)」に従ってドキュメント種別を指定してください。	なし。	任意
4	RECEIVE_FILE_MAX_NUM (ドキュメント受信の最大数)	1 回のドキュメント受信コマンドで、受信するファイル数の最大値を、1 ~ 128 の整数値で指定します。	32	任意
5	RECEIVE_SUCCESS_DIR (受信成功ファイルの格納ディレクトリパス)	受信に成功したファイルの格納ディレクトリの絶対パスを、120 バイト以内の文字列で指定します。	<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥data¥receive_success	任意
6	RECEIVE_ERROR_DIR (受信失敗ファイルの格納ディレクトリパス)	受信に失敗したファイルの格納ディレクトリの絶対パスを、120 バイト以内の文字列で指定します。	<CMS Light クライアントインストールディレクトリ >¥data¥receive_error	任意

6. 定義ファイル

項番	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
7	RECEIVE_FILE_NAME_n (受信済みファイルの名称規則)	<p>受信済みファイルを受信成功ディレクトリ、または受信失敗ディレクトリに格納するときのファイルの名称規則を指定します。ファイル名称に付与できるのは、次に示すキー要素のデータです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DATE (ドキュメントの送信時刻) • SENDER_ID (ドキュメント送信者識別子) • FORMAT_TYPE (ドキュメント形式) • DOCUMENT_TYPE (ドキュメント種別) <p>上記の四つのデータを、RECEIVE_FILE_NAME_n と対にして記述します。</p> <p>n には、ファイル名称に付与したいデータの数に応じて、1 ~ 4 の整数値を昇順に指定します。同じ番号は重複して指定できません。例えば、RECEIVE_FILE_NAME_n に対して、DATE, FORMAT_TYPE, DOCUMENT_TYPE, SENDER_ID の順序でデータを指定した場合、ファイル名称の例は次のとおりです。</p> <p>[20040313123817]_[JEDICOS-XML]_[Purchase Order]_[4569951110016]</p> <p>なお、受信失敗ファイルは上記のファイル名称の前に "[ERR]_" が付加されます。ファイル名称の例は次のとおりです。</p> <p>[ERR]_[20040313123817]_[JEDICOS-XML]_[Purchase Order]_[4569951110016]</p> <p>なお、DATE (ドキュメントの送信時刻) は SEND_FILE_NAME_1 ~ 4 のどれかに必ず指定してください。</p>	なし。	必須
8	GET_RETRIES (ドキュメント受信のリトライ回数)	<p>ドキュメント受信のリトライ回数 (回) を、0 ~ 32 の整数値で指定します。</p> <p>ドキュメント受信を実行してから、リトライ間隔 (GET_RETRY_INTERVAL に指定した時間) が経過した場合にリトライされる回数の最大値です。</p> <p>リトライしない場合、0 を指定します。</p>	3	任意
9	GET_RETRY_INTERVAL (ドキュメント受信のリトライ間隔)	<p>ドキュメント受信のリトライ間隔 (秒) を、10 ~ 3,600 の整数値で指定します。</p> <p>ドキュメント受信を実行してから、次のドキュメント受信を実行するまでの間隔です。</p>	90	任意
10	CONFIRM_RETRIES (ドキュメント取得通知のリトライ回数)	<p>ドキュメント取得通知のリトライ回数 (回) を、0 ~ 32 の整数値で指定します。</p> <p>ドキュメント取得通知を実行してから、リトライ間隔 (CONFIRM_RETRY_INTERVAL に指定した時間) が経過した場合にリトライされる回数の最大値です。</p> <p>リトライしない場合、0 を指定します。</p>	3	任意

項番	キー	説明	デフォルト値	必須 / 任意
11	CONFIRM_RETRY_INTERVAL (ドキュメント取得通知のリトライ間隔)	ドキュメント取得通知のリトライ間隔(秒)を、10 ~ 3,600 の整数値で指定します。 ドキュメント取得通知を実行してから、次のドキュメント取得通知を実行するまでの間隔です。	90	任意

注 ファイル名称は、次の規則に従って付与されます。

- データは "[,]" で囲まれます。
- データを複数指定した場合、n に指定した番号順に "_" で区切られます。
- 次に示す文字制限があるので、最大バイト数を超えた文字列は切り捨てられます。
SENDER_ID : 文字列の最初から 30 バイトまで。
DOCUMENT_TYPE : 文字列の最初から 40 バイトまで。
- 送信成功ディレクトリ、または送信失敗ディレクトリに同名のファイルがある場合、ファイル名の最後に "_[n]" (n は 2 ~ 999 の整数値) が番号順に付加されます。
なお、"_[999]" が付加されたファイルがある場合、"_[1000]" がファイル名の最後に付加され、以後は "_[1000]" が付加されたファイルが上書きされます。
- Windows でファイル名に使用できない文字および制御文字は、 "_" に置換します。これらの文字は、サーバから送信されてくる SOAP メッセージに含まれていることがあります。
- 受信ファイル名に拡張子は付加しません。
- FORMAT_TYPE キーと DOCUMENT_TYPE キーを指定するときは、同時に指定する必要があります。どちらか一方を指定したときは、定義内容のエラーとなります。

(5) 定義例

クライアント引数情報ファイルの定義例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<Configuration
xmlns="http://www.hitachi.co.jp/soft/xml/ebxml/mscl/conf/HSRCCConfig.xsd"
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance">

  <Container id="GETDOCUMENT">
    <Key id="RECEIVER_ID">4912345000019</Key>
    <Key id="FORMAT_TYPE">SecondGenEDI</Key>
    <Key id="DOCUMENT_TYPE">Invoice</Key>
    <Key id="RECEIVE_FILE_MAX_NUM">32</Key>
    <Key id="RECEIVE_SUCCESS_DIR">C:\¥Program
files¥Hitachi¥ebxml¥mscl¥data¥receive_success</Key>
    <Key id="RECEIVE_ERROR_DIR">C:\¥Program
files¥Hitachi¥ebxml¥mscl¥data¥receive_error</Key>
    <Key id="RECEIVE_FILE_NAME_1">DATE</Key>
    <Key id="RECEIVE_FILE_NAME_2">SENDER_ID</Key>
    <Key id="RECEIVE_FILE_NAME_3">FORMAT_TYPE</Key>
    <Key id="RECEIVE_FILE_NAME_4">DOCUMENT_TYPE</Key>
    <Key id="GET_RETRIES">3</Key>
    <Key id="GET_RETRY_INTERVAL">90</Key>
    <Key id="CONFIRM_RETRIES">3</Key>
    <Key id="CONFIRM_RETRY_INTERVAL">90</Key>
  </Container>

</Configuration>
```


7

コマンド

この章では、CMS Light クライアントのシステムで使用するコマンドの形式、実行例などについて説明します。

7.1 コマンドを使用する前に

7.2 コマンド一覧

7.3 ドキュメント送信コマンド (HSRCMessageService -mode=send)

7.4 ドキュメント受信コマンド (HSRCMessageService -mode=receive)

7.1 コマンドを使用する前に

コマンドの説明で使用する見出し、コマンドの入力形式、およびコマンド実行時の注意事項について説明します。

7.1.1 コマンドの説明で使用する見出し

ここでは、コマンドの説明で使用する、各見出しについて説明します。

(1) 形式

コマンドの入力形式を示します。

(2) 機能

コマンドの機能について説明します。

(3) オプション

コマンドの引数およびオプションについて説明します。

(4) 戻り値

コマンドの戻り値について説明します。

(5) 注意事項

コマンドを実行する上での注意事項について説明します。

(6) 実行例

オプションを選択し、オプションの引数に具体値を入力したコマンド実行例を示します。

7.1.2 コマンドの入力形式

コマンドの入力形式を次に示します。

コマンド名称 [オプション ...]

各項目について説明します。なお、ここではコマンドプロンプトを "\$"、コマンド名称を "cmd" と表記します。

(1) コマンド名称

実行するコマンドのファイル名を指定します。

半角スペースを含むパスを指定してコマンドを実行する場合、パス全体を "" で囲む必要

があります。

- 正しい指定例

```
$ "C:\Program Files\Hitachi\ebxml\mscl\bin\cmd"
```

- 誤った指定例

```
$ C:\Program Files\Hitachi\ebxml\mscl\bin\cmd
```

(2) オプション

実行するコマンドのオプションを指定します。オプションの入力形式および指定規則を次に示します。

(a) オプションの入力形式

オプションは、"-" (ハイフン) で始まる文字列で、引数を指定できます。オプションの入力形式を次に示します。

```
$ cmd -オプションフラグ=オプション引数
```

- オプションフラグ

コマンドごとに決められた半角英数字です。大文字と小文字が区別されます。

- オプション引数

オプションフラグに対する引数で、識別子やファイル名などを指定します。大文字と小文字が区別されます。

(b) オプションの指定規則

オプションの指定規則を次に説明します。

- "-" とオプションフラグの間、オプションフラグと "=" の間、"=" とオプション引数の間に、半角スペースまたはタブを入れないでください。

例を次に示します (は半角スペースまたはタブを示します)。

- 正しい指定例

```
$ cmd -オプションフラグ=オプション引数
```

- 誤った指定例

```
$ cmd -オプションフラグ =オプション引数
```

```
$ cmd - オプションフラグ=オプション引数
```

```
$ cmd -オプションフラグ= オプション引数
```

- オプション引数に指定する文字列に半角スペースを含む場合、文字列を "" で囲んで指定してください。

- オプション引数に指定する文字列を "" で囲んだ場合、文字列の前後の半角スペースおよびタブを除いた部分がオプション引数になります。

次の例に示す 部分が除外されます (は半角スペースまたはタブを示します)。

(例) \$ cmd -オプションフラグ=" オプション引数 "

7. コマンド

- オプション全体を "" で囲んだ場合、"" で囲まれたオプションの前後の半角スペースおよびタブを除いた部分がオプション引数になります。
次の例に示す部分が除外されます（ は半角スペースまたはタブを示します）。
(例) \$ cmd " -オプションフラグ=オプション引数 "
- "*" や "?" など、ワイルドカードは使用しないでください。
- 一つのコマンドに同じオプションを複数指定しないでください。
- オプションを複数指定する場合、各オプションの間は半角スペースまたはタブで空けてください。
- 各オプションの定義は順不同です。ただし、オプションフラグとオプション引数は対で指定してください。
- オプション引数にファイル名またはディレクトリ名を指定するとき、次のことを確認してください。
 - 指定したファイル（またはディレクトリ）があるか
 - ファイル（またはディレクトリ）であるか
 - コマンドを実行するユーザーに対して読み込み権限があるか
 - ファイル名（またはディレクトリ）が Windows の予約デバイス名でないか

上記の条件を満たさない場合、エラーになります。

(c) オプション省略時に仮定される値

オプションの指定を省略すると、クライアント引数定義ファイル、クライアント共通定義ファイルに記述されている値が仮定されます。これらの定義ファイルを作成している場合、オプションを省略してコマンドを実行できます。

オプションの省略時に仮定される値の優先度は、次のとおりです。

1. コマンド引数オプション
2. 1. が存在しない場合は、クライアント引数情報ファイル
3. 2. も存在しない場合は、クライアント共通定義ファイル

7.2 コマンド一覧

CMS Light クライアントのシステムで使用するコマンドの一覧を、次の表に示します。

コマンドには、ドキュメント送信コマンド、ドキュメント受信コマンドがあります。コマンドの名称は、HSRCMessageService です。オプションフラグの動作モード (-mode) のあとにオプション引数の送信 (send), 受信 (receive) を指定して使い分けます。

表 7-1 CMS Light クライアントのシステムで使用するコマンドの一覧

項番	コマンド名	説明
1	ドキュメント送信コマンド (HSRCMessageService -mode=send)	接続先サーバに対して、ドキュメントを送信します。
2	ドキュメント受信コマンド (HSRCMessageService -mode=receive)	接続先サーバから、ドキュメントを受信します。

7.3 ドキュメント送信コマンド (HSRCMessageService -mode=send)

(1) 形式

```
HSRCMessageService    -mode=send
                      [-infile=クライアント引数情報ファイルの絶対パス]
                      [-sender=ドキュメント送信者識別子]
                      [-formattype=ドキュメント形式]
                      [-documenttype=ドキュメント種別]
                      [-compresstype=圧縮タイプ]
                      [-datapath={送信ディレクトリパス|送信ファイルパス}]
                      [-count=送信ファイル数]
```

(2) 機能

接続先サーバに対して、ドキュメントを送信します。

(3) オプション

-mode=send

動作モードを指定します。値には、ドキュメント送信を示す `send` を指定してください。

この項目は、必ず指定してください。

-infile= クライアント引数情報ファイルの絶対パス

クライアント引数情報ファイルの絶対パスを、255 バイト以内の文字列で指定します。クライアント引数情報ファイルには、動作モードの `send` に応じた引数情報が記述されている必要があります。

このオプションを省略した場合、クライアント共通定義ファイルに動作モードの `send` に応じた引数情報が記述されているときは、その値が設定されます。

なお、クライアント共通定義ファイルに動作モードの `send` に応じた引数情報が記述されていたとしても、このオプションが指定されている場合は、クライアント引数情報ファイルに記述された情報が引数情報として使用されます。

指定されたファイルが存在しない場合、エラーとなります。

-sender= ドキュメント送信者識別子

ドキュメント送信者識別子を、63 バイト以内の文字列で指定します。

ドキュメント送信者識別子は、クライアント共通定義ファイルのオーサー情報に記述されている必要があります。

なお、クライアント共通定義ファイル、またはクライアント引数情報ファイルに該当する識別子が記述されていたとしても、この引数で指定された値がドキュメント送信者識別子として使用されます。

ドキュメント送信者識別子を省略して、かつ "-infile= クライアント引数情報ファ

イルの絶対パス"を省略した場合

- クライアント共通定義ファイルのオーサー情報に記述されたクライアント ID が使用されます。
- クライアント共通定義ファイルのクライアント ID が複数記述されている場合は、最も上位に記述された識別子が使用されます。
- クライアント共通定義ファイルのオーサー情報にクライアント ID が記述されていない場合は、エラーになります。

-formattype= ドキュメント形式

ドキュメント形式を次のどれかの形式で指定します。

- SecondGenEDI (SecondGenEDI 形式)
- JEDICOS-XML (JEDICOS-XML 形式)
- JEDICOS (JEDICOS 形式)
- J Protocol (JCA 形式)
- Mutuality defined (相互定義：双方間の合意の下で使用する任意の形式)

このオプションは、-documenttype オプションと同時に指定します。

-documenttype= ドキュメント種別

ドキュメント種別を、255 バイト以内の文字列で指定します。このオプションは、-formattype オプションと同時に指定します。

ドキュメント種別は、伝送ドキュメント種別で定義されるドキュメント種別要素を使用して指定します。-formattype オプションのドキュメント形式に Mutuality defined 以外を指定した場合、次の表に従ってドキュメント種別を指定してください。

表 7-2 ドキュメント種別とドキュメント形式の組み合わせ (コマンド)

項番	ドキュメント種別	ドキュメント形式			
		SecondGenEDI	JEDICOS-XML	JEDICOS	J-Protocol
1	Order		x	x	x
2	Shipment Notification		x	x	x
3	Package Shipment Notification		x	x	x
4	Non-associated Package Shipment Notification		x	x	x
5	Receiving Notification		x	x	x
6	Payment		x	x	x
7	Return Notification		x	x	x
8	Price/Sales Catalogue	x			x
9	Purchase Order	x			

7. コマンド

項番	ドキュメント種別	ドキュメント形式			
		SecondGenEDI	JEDICOS-XML	JEDICOS	J-Protocol
10	Purchase Order Response	x	x		x
11	Inventory Report	x			x
12	Shelf Allocation Report	x	x		x
13	POS Report	x			x
14	Order Recommendation	x	x		x
15	Despatch Advice Slip	x			x
16	Despatch Advice Carton	x			x
17	Arrival Notice	x			x
18	Confirmation of Delivery	x	x		x
19	Purchasing Advice	x			x
20	Invoice				
21	Remittance Advice	x			
22	Remittance Detail	x	x		x
23	Announcement for Returns	x			x
24	Sales Promotion Plan	x		x	x
25	Payment Order	x	x		x
26	Financial Statement	x	x		x
27	Price Tag		x	x	x
28	Fresh Order		x	x	x
29	Fresh Shipment Notification		x	x	x
30	Fresh Receiving Notification		x	x	x
31	Fresh Return Notification		x	x	x
32	Picking List		x	x	x

(凡例)

: 対応しています。

x : 対応していません。

-compresstype= 圧縮タイプ

ドキュメント圧縮形式を、63 バイト以内の文字列で指定します。

ドキュメントを圧縮している場合、圧縮形式を IANA によって管理されている MIME メディアタイプで指定します。ただし、IANA によって管理されている MIME メディアタイプかどうかのチェックはされません。

-datapath={ 送信ディレクトリパス | 送信ファイルパス }

送信するドキュメントの格納ディレクトリ, または送信するドキュメントのファイルの絶対パスを, 247 バイト以内の文字列で指定します。ただし, ネットワーク上の共有ファイルシステムのパスは指定できません。

送信ディレクトリ下に格納されている送信対象のファイルは, ドキュメント送信コマンドの実行時に送信成功ディレクトリまたは送信失敗ディレクトリに移動されます。したがって, 送信ディレクトリとして Windows ディレクトリなどを指定するとシステムが壊れるおそれがあるため, 指定するディレクトリには十分注意してください。

-count= 送信ファイル数

1 回のドキュメント送信コマンドで, 送信するファイル数の最大値を指定します。指定できる値は, 1 ~ 65,535 の整数値です。

(4) 戻り値

戻り値	内容
0	正常終了 ドキュメント送信コマンドのすべての処理が正常に終了しました。送信ディレクトリに, 送信対象サイズのファイルが存在しない場合も含まれます。
1	警告付き正常終了 1 回以上のドキュメント送信に成功しましたが, コマンドの処理を継続できるエラー (ネットワーク障害など) が発生しました。
2	警告付き正常終了 1 回以上のドキュメント送信には成功しましたが, コマンドの処理を継続できないエラーが発生しました。 継続できないエラーの例を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • ファイル内容の異常が検出されました。 • 送信ファイル, または送信ディレクトリへのアクセスが拒否されました。
3	警告付き正常終了 1 回以上のドキュメント送信には成功しましたが, 送信ディレクトリに送信対象外のサイズのファイルが含まれています。
9	異常終了 (実行時エラー) 接続先サーバから受信したドキュメントに誤りがあります。
-1	異常終了 (引数エラー) ドキュメント送信コマンドの実行時の引数に過不足があるか, 引数の指定方法に誤りがあります。
-2	異常終了 (定義内容エラー) クライアント共通定義ファイル, クライアント引数情報ファイルの記述内容や, コマンド引数に指定された引数の内容に誤りがあります。
-3	異常終了 (実行時エラー) 1 回目のドキュメント送信時にコマンドの処理を継続できるエラー (ネットワーク障害など) が発生しました。

7. コマンド

戻り値	内容
-4	異常終了（実行時エラー） 1回目のドキュメント送信時にコマンドの処理を継続できないエラーが発生しました。 継続できないエラーの例を次に示します。 <ul style="list-style-type: none">• ファイル内容の異常が検出されました。• 送信ファイル、または送信ディレクトリへのアクセスが拒否されました。
-999	コマンドを強制終了しました。

（5）注意事項

複数のファイルを送信する場合、ドキュメントの送信処理の途中でエラーが発生すると、後続のドキュメントが送信されないまま、コマンドが終了します。エラーの要因を解決したあと、送信されなかったドキュメントに対して、コマンドを再実行してください。なお、送信処理対象外のサイズのファイルを検出した場合、該当するファイルを無視して送信処理を続けます。

（6）実行例

クライアント引数情報ファイル（入荷予定データ伝票.xml）を指定して、コマンドを実行する場合の実行例を次に示します。

```
" C:¥Program files¥Hitachi¥ebxml¥mscl¥bin¥HSRCMessageService.exe " -mode=send  
-infofile=" C:¥Program files¥Hitachi¥ebxml¥mscl¥conf¥send_info¥入荷予定データ伝票  
.xml "
```

7.4 ドキュメント受信コマンド (HSRCMessageService -mode=receive)

(1) 形式

```
HSRCMessageService      -mode=receive
                        [-infofile=クライアント引数情報ファイルの絶対パス]
                        [-receiver=ドキュメント受信者識別子]
                        [-formattype=ドキュメント形式
                        -documenttype=ドキュメント種別]
                        [-datapath=受信成功ディレクトリパス]
                        [-count=受信ファイル数]
```

(2) 機能

接続先サーバから、ドキュメントを受信します。

(3) オプション

-mode=receive

動作モードを指定します。値には、ドキュメント受信を示す receive を指定してください。

この項目は、必ず指定してください。

-infofile= クライアント引数情報ファイルの絶対パス

クライアント引数情報ファイルの絶対パスを、255 バイト以内の文字列で指定します。クライアント引数情報ファイルには、動作モードの receive に応じた引数情報が記述されている必要があります。

このオプションを省略した場合、クライアント共通定義ファイルに動作モードの receive に応じた引数情報が記述されているときは、その値が設定されます。

なお、クライアント共通定義ファイルに動作モードの receive に応じた引数情報が記述されていたとしても、このオプションが指定されている場合は、クライアント引数情報ファイルに記述された情報が引数情報として使用されます。

指定されたファイルが存在しない場合、エラーとなります。

-receiver= ドキュメント受信者識別子

ドキュメント受信者識別子を、63 バイト以内の文字列で指定します。

ドキュメント受信者識別子は、クライアント共通定義ファイルのオーサー情報に記述されている必要があります。

なお、クライアント共通定義ファイルまたはクライアント引数情報ファイルに該当する識別子が記述されていたとしても、この引数で指定された値がドキュメント受信者識別子として使用されます。

ドキュメント受信者識別子を省略して、かつ "-infofile= クライアント引数情報ファイルの絶対パス" を省略した場合

7. コマンド

- クライアント共通定義ファイルのオーサー情報に記述されたクライアント ID が使用されます。
- クライアント共通定義ファイルのクライアント ID が複数存在する場合は、最も上位に記述された識別子が使用されます。
- クライアント共通定義ファイルにクライアント ID が記述されていない場合は、エラーになります。

-formattype= ドキュメント形式

ドキュメント形式を次のどれかの形式で指定します。

- SecondGenEDI (SecondGenEDI 形式)
- JEDICOS-XML (JEDICOS-XML 形式)
- JEDICOS (JEDICOS 形式)
- J Protocol (JCA 形式)
- Mutuality defined (相互定義 : 双方間の合意の下で使用する任意の形式)

このオプションは、-documenttype オプションと同時に指定します。

-documenttype= ドキュメント種別

ドキュメント種別を、255 バイト以内の文字列で指定します。このオプションは、-formattype オプションと同時に指定します。

ドキュメント種別は、伝送ドキュメント種別で定義されるドキュメント種別要素を使用して指定します。-formattype オプションのドキュメント形式に Mutuality defined 以外を指定した場合、「表 7-2 ドキュメント種別とドキュメント形式の組み合わせ (コマンド)」に従ってドキュメント種別を指定してください。

-datapath= 受信成功ディレクトリパス

受信に成功したドキュメントを格納するディレクトリの絶対パスを、120 バイト以内の文字列で指定します。

ただし、ネットワーク上の共有ファイルシステムのパスは指定できません。

-count= 受信ファイル数

1 回のドキュメント受信コマンドで、受信するファイル数の最大値を指定します。指定できる値は、1 ~ 65,535 の整数値です。

(4) 戻り値

戻り値	内容
0	正常終了 ドキュメント受信コマンドのすべての処理が正常に終了しました。
1, 2	警告付き正常終了 1 回以上ドキュメントの受信に成功している状態で、後続のドキュメント受信に失敗しました。 後続のドキュメント受信の失敗タイミングによって、1 または 2 のどちらかになります。

戻り値	内容
9	異常終了（実行時エラー） 接続先サーバから受信したドキュメントに誤りがあります。
-1	異常終了（引数エラー） ドキュメント受信コマンドの実行時の引数に過不足があるか、引数の指定方法に誤りがあります。
-2	異常終了（定義内容エラー） クライアント共通定義ファイル、クライアント引数情報ファイルの記述内容や、コマンド引数に指定された引数の内容に誤りがあります。
-3, -4	異常終了（実行時エラー） 1回目のドキュメント受信に失敗しました。 ドキュメント受信の失敗タイミングによって、-3または-4のどちらかになります。
-999	コマンドを強制終了しました。

（5）注意事項

複数のファイルを受信する場合、ドキュメントの受信処理の途中でエラーが発生すると、後続のドキュメントが受信されないまま、コマンドが終了します。エラーの要因を解決したあと、受信されなかったドキュメントに対して、コマンドを再実行してください。

（6）実行例

受信するドキュメントのファイル数に 64 を指定して、コマンドを実行する場合の実行例を次に示します。

```
"C:\Program files\Hitachi\ebxml\mscl\bin\HSRCMessageService.exe" -mode=receive -count=64
```


8

トラブルシュート

この章では、CMS Light クライアントのシステムに障害が発生した場合の対処について説明します。

8.1 トラブルシュートの手順

8.2 問い合わせに必要な資料

8.1 トラブルシュートの手順

CMS Light クライアントのシステムに障害が発生した場合のトラブルシュートの方法について説明します。ここでは、障害が発生したタイミングごとに、次のように分けて説明します。

- GUI 実行時
- コマンド実行時
- 履歴表示 GUI の確認時（警告情報がない場合）
履歴表示 GUI の [履歴表示] 画面で警告情報に " " が表示されていない場合です。
- 履歴表示 GUI の確認時（警告情報がある場合）
履歴表示 GUI の [履歴表示] 画面で警告情報に " " が表示されていた場合です。

なお、説明の中で " サーバの管理者に連絡 " と記載している場合、接続先サーバのシステム管理者へ問い合わせることを示します。" 保守員に連絡 " と記載している場合、購入時の契約に基づいて、弊社問い合わせ窓口へ問い合わせることを示しています。サーバの管理者および保守員への問い合わせに必要な資料については、「8.2 問い合わせに必要な資料」を参照してください。

履歴表示 GUI の [履歴表示] 画面を次に示します。

図 8-1 履歴表示 GUI の [履歴表示] 画面

伝送日	伝送時刻	伝送番号	送受信区別	警告情報	送受信ファイル名称	ドメイン送信者識別子	ドメイン受信者識別子	ドメイン識別子
2008/01/30	21:44:...	94	✓ 受信		[20080130214416]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	93	△ 送信		[20080130214415]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	92	✓ 受信		[ERR]_[200801302...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	91	△ 送信		[20080130214415]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	90	✓ 受信		[20080130214414]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	89	△ 送信	△	[ERR]_[200801302...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	88	✓ 受信		[20080130214413]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	87	△ 送信		[20080130214413]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	86	✓ 受信		[ERR]_[200801302...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	85	△ 送信		[20080130214412]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	84	✓ 受信		[20080130214412]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	83	△ 送信		[ERR]_[200801302...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	82	✓ 受信		[20080130214411]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	81	△ 送信		[20080130214411]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	80	✓ 受信		[ERR]_[200801302...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	79	△ 送信		[20080130214410]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	78	✓ 受信	△	[20080130214410]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	77	△ 送信		[ERR]_[200801302...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	76	✓ 受信		[20080130214409]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	75	△ 送信		[20080130214409]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	74	✓ 受信		[ERR]_[200801302...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	73	△ 送信		[20080130214408]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	72	✓ 受信		[20080130214407]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	71	△ 送信		[ERR]_[200801302...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	70	✓ 受信		[20080130214407]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	69	△ 送信		[20080130214406]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	68	✓ 受信		[ERR]_[200801302...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	67	△ 送信	△	[20080130214405]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	66	✓ 受信		[20080130214405]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	65	△ 送信		[ERR]_[200801302...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	64	✓ 受信		[20080130214404]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:
2008/01/30	21:44:...	63	△ 送信		[20080130214404]...	S000000000000000	C0000000000000001	200801302144:

8.1.1 GUI 実行時のトラブルシュート

簡易環境設定 GUI、履歴表示 GUI を実行したときに障害が発生した場合、メッセージボックスに表示されるメッセージを参照して、対処してください。メッセージ ID ごとの説明および対処については、「9. メッセージ」を参照してください。

8.1.2 コマンド実行時のトラブルシュート

コマンドを実行したときに障害が発生した場合、コマンドプロンプトに表示されるメッセージ、またはエラーログに出力されるメッセージを参照して対処してください。メッセージ ID ごとの説明および対処については、「9. メッセージ」を参照してください。

エラーログの出力先はクライアント共通定義ファイルで設定します。クライアント共通定義ファイルの詳細については、「6.3 クライアント共通定義ファイル」を参照してください。

8.1.3 履歴表示 GUI の確認時のトラブルシュート（警告情報がない場合）

履歴表示 GUI の [履歴表示] 画面に警告情報がなかった場合（警告情報に " " が表示

8. トラブルシュート

されていなかった場合)のトラブルシュートについて説明します。履歴表示 GUI の [詳細情報] 画面で確認したドキュメントの送受信状態によって障害の対処方法が異なります。[詳細情報] 画面を次に示します。履歴表示 GUI の詳細については、「4. 履歴表示 GUI」を参照してください。

図 8-2 履歴表示 GUI の [詳細情報] 画面

送受信状態	<input type="checkbox"/> 正常	<input checked="" type="checkbox"/> 異常	<input type="checkbox"/> 不確定
送受信区別	<input checked="" type="checkbox"/> 送信	<input type="checkbox"/> 受信	
伝送番号	<input type="text" value="89"/>		
伝送日時	<input type="text" value="2008/01/30"/>	<input type="text" value="21:44:14"/>	
送受信ファイル名称	<input type="text" value="X\data%send_error%[ERR]_[20080130214414]_[C000000000000001]_"/>		
ドキュメント送信者識別子	<input type="text" value="S0000000000000000"/>		
ドキュメント受信者識別子	<input type="text" value="C00000000000000001"/>		
ドキュメント識別子	<input type="text" value="20080130214414-77c34058-5892-4571-ab1a-e8906dd8ed0d@S0000"/>		
ドキュメント形式	<input type="text" value="SecondGenEDI"/>		
ドキュメント種別	<input type="text" value="Order"/>		
ドキュメント圧縮形式	<input type="text" value="iso"/>		
ファイルサイズ	<input type="text" value="31535"/>	バイト	
エラー種別	<input type="text" value="soapenv:Server"/>		
エラー詳細情報	<input type="text" value="KDSR10002-E uCosminexus Message Service Server Light for ebX"/>		
警告詳細情報	<input type="text" value="サーバに送信,またはサーバから受信したドキュメントファイルのディレクトリへの移動に失敗しました。"/>		

OK

各対処方法を次に説明します。

(1) 送受信状態が " 正常 " だった場合

履歴表示 GUI の [詳細情報] 画面で確認した結果、送受信状態が " 正常 " で送受信ファイル名称の先頭に "ERR" が付加されているとき、サーバの管理者に連絡してください。サーバの管理者に連絡する際に必要な資料については、「8.2.1 サーバの管理者に問い合わせる場合に必要な資料」を参照してください。

送受信ファイル名称の先頭に "ERR" が付加されていないとき、対処は不要です。

(2) 送受信状態が " 異常 " だった場合

履歴表示 GUI の [詳細情報] 画面で確認した結果、送受信状態が " 異常 " だった場合に

ついて説明します。この場合、履歴表示 GUI の [詳細情報] 画面のエラー種別が "Server" か "Client" かによって対処が異なります。

対処方法を次に示します。

(a) エラー種別が "Server" だったとき

エラーの原因は接続先サーバです。サーバの管理者に連絡してください。サーバの管理者に連絡する際に必要な資料については、「8.2.1 サーバの管理者に問い合わせる場合に必要な資料」を参照してください。

(b) エラー種別が "Client" だったとき

エラーの原因は CMS Light クライアントです。[詳細情報] 画面のエラー詳細情報を参照して対処してください。

対処できないときは、サーバの管理者に連絡して、クライアント側で発生した問題を特定してください。サーバの管理者に連絡する際に必要な資料については、「8.2.1 サーバの管理者に問い合わせる場合に必要な資料」を参照してください。

(3) 送受信状態が " 不確定 " だった場合

履歴表示 GUI の [詳細情報] 画面で確認した結果、送受信状態が " 不確定 " だった場合、" 不確定 " となっているドキュメントが送信ドキュメントか、受信ドキュメントかによって対処が異なります。対処方法を次に示します。

(a) 対象が送信ドキュメントだったとき

" 不確定 " となっているドキュメントが送信ドキュメントだったとき、簡易環境設定 GUI、またはクライアント共通定義ファイルで指定した接続先サーバの URL に誤りがないか確認してください。次の場合は、定義内容や環境を確認してください。

- プロキシサーバを経由して送信するとき
プロキシサーバが正常に動作しているか確認してください。プロキシサーバで、接続ユーザー認証をする場合は、ユーザー名とパスワードの設定内容の確認も必要です。
- 接続先サーバと HTTP ベーシック認証を行うとき
ユーザー名とパスワードを確認してください。
- 接続先サーバと SSL 通信を行うとき
自マシンに接続先サーバの CA 証明書が正しくインストールされているか確認してください。

定義内容や環境に問題があったときは、問題を取り除いたあとにドキュメントを再送信してください。ドキュメントの再送信手順は送信手順と同様です。送信手順の詳細については、「5.1 コマンドの操作でドキュメントを送受信するまでの手順」を参照してください。

定義内容や環境に問題がなかったときは、" 不確定 " だったドキュメントのドキュメント識別子が接続先サーバに存在するかどうかをサーバの管理者に連絡して、確認してくだ

8. トラブルシュート

さい。確認したあとの対処を次に示します。

- ドキュメント識別子が接続先サーバに存在したとき
送信ディレクトリから該当するドキュメントを削除するか、別ディレクトリに移動してください。
- ドキュメント識別子が接続先サーバに存在しなかったとき
サーバの管理者に連絡して、接続先サーバが正常に動作しているか、接続先サーバのセキュリティ通信の設定に問題はないかを確認してください。その後、該当するドキュメントを再送信してください。ドキュメントの再送信手順は送信手順と同様です。送信手順の詳細については、「5.1 コマンドの操作でドキュメントを送受信するまでの手順」を参照してください。

(b) 対象が受信ドキュメントだったとき

"不確定"となっているドキュメントが受信ドキュメントだったとき、ドキュメント受信コマンドを再実行します。再実行したときの最初に受信したドキュメントの識別子によって対処が異なります。

- 前回と同じ識別子のドキュメントを受信して、送受信状態が"正常"になったとき
対処は必要ありません。
- 前回と同じ識別子のドキュメントを受信して、送受信状態が"不確定"になったとき
ドキュメント受信コマンドを再実行してください。
- 前回と異なる識別子のドキュメントを受信したとき
送受信状態が"正常"だった場合と同様の対処をしてください。詳細については、「8.1.3(1) 送受信状態が"正常"だった場合」を参照してください。また、前回不確定となったときに受信失敗ディレクトリに出力されたドキュメントを受信に成功したドキュメントとして扱う必要があります。

(4) 履歴表示 GUI に表示されない場合

送受信したドキュメントが履歴表示 GUI の [詳細情報] 画面に表示されない場合、メッセージボックス・コマンドプロンプトで表示されたメッセージ、またはエラーログに出力されたメッセージを参照して対処してください。エラーログの出力先はクライアント共通定義ファイルで設定します。クライアント共通定義ファイルの詳細については、「6.3 クライアント共通定義ファイル」を参照してください。

対処できない場合、保守員に連絡してください。保守員に連絡する際に必要な資料については、「8.2 問い合わせに必要な資料」を参照してください。

8.1.4 履歴表示 GUI の確認時のトラブルシュート (警告情報がある場合)

履歴表示 GUI の [履歴表示] 画面に警告情報があった場合 (警告情報に " " が表示されていた場合) のトラブルシュートについて説明します。

警告情報があった場合、エラーログを参照してファイルの移動に失敗した原因を取り除

く必要があります。その後は [詳細情報] 画面で確認したドキュメントの送受信状態によって障害の対処方法が異なります。履歴表示 GUI の詳細については、「4. 履歴表示 GUI」を参照してください。

(1) 送受信状態が " 正常 " だった場合

(a) 対象が送信ドキュメントだったとき

" 正常 " となっているドキュメントが送信ドキュメントだったとき、[詳細情報] 画面の送受信ファイル名称に表示されているファイルを送信成功ディレクトリに移動してください。

(b) 対象が受信ドキュメントだったとき

" 正常 " となっているドキュメントが受信ドキュメントだったとき、[詳細情報] 画面の送受信ファイル名称に表示されているファイルを受信成功ディレクトリに移動してください。

(2) 送受信状態が " 異常 " だった場合

[詳細情報] 画面の送受信ファイル名称に表示されているファイルを送信失敗ディレクトリに移動してください。その後、送受信状態が " 異常 " だった場合の手順を実施します。手順の詳細については、「8.1.3(2) 送受信状態が " 異常 " だった場合」を参照してください。

8.2 問い合わせに必要な資料

CMS Light クライアントのシステムに障害が発生して、サーバの管理者または保守員に問い合わせる場合、ログなどの資料を採取する必要があります。

採取が必要な資料について説明します。

8.2.1 サーバの管理者に問い合わせる場合に必要な資料

サーバの管理者に問い合わせる場合、採取する資料を次に示します。

- エラーログ
エラーメッセージが出力されます。
エラーログの出力先はクライアント共通定義ファイルで設定します。クライアント共通定義ファイルの詳細については、「6.3 クライアント共通定義ファイル」を参照してください。
- トレースログ
エラーメッセージおよびインフォメーションメッセージが出力されます。
トレースログの出力先はクライアント共通定義ファイルで設定します。クライアント共通定義ファイルの詳細については、「6.3 クライアント共通定義ファイル」を参照してください。
- 通信ログ
接続先サーバのシステムから受信した SOAP メッセージおよび接続先サーバのシステムに送信する SOAP メッセージが出力されます。
通信ログの出力先は、クライアント共通定義ファイルで設定します。クライアント共通定義ファイルの詳細については、「6.3 クライアント共通定義ファイル」を参照してください。
- 履歴表示 GUI の画面情報
履歴表示 GUI の画面のハードコピーなどです。画面に表示されている履歴情報（メッセージ識別子やエラー詳細情報など）が必要です。

8.2.2 保守員に問い合わせる場合に必要な資料

保守員に問い合わせる場合、採取する資料を次に示します。

- エラーログ
エラーメッセージが出力されます。
エラーログの出力先はクライアント共通定義ファイルで設定します。クライアント共通定義ファイルの詳細については、「6.3 クライアント共通定義ファイル」を参照してください。
- トレースログ
エラーメッセージおよびインフォメーションメッセージが出力されます。
トレースログの出力先はクライアント共通定義ファイルで設定します。クライアント

共通定義ファイルの詳細については、「6.3 クライアント共通定義ファイル」を参照してください。

- 通信ログ

接続先サーバのシステムから受信した SOAP メッセージおよび接続先サーバのシステムに送信する SOAP メッセージが出力されます。

通信ログの出力先は、クライアント共通定義ファイルで設定します。クライアント共通定義ファイルの詳細については、「6.3 クライアント共通定義ファイル」を参照してください。
- 伝送履歴ファイル

ドキュメントの送受信の履歴（履歴表示 GUI で確認する履歴情報）が出力されます。

伝送履歴ファイルの出力先は次のとおりです。

```
<CMS Lightクライアントインストールディレクトリ
>¥History¥HSRCTransHistData.chf
```
- メッセージボックスで表示されているメッセージの内容

GUI 実行時にメッセージボックスで表示されているメッセージの内容です。
- クライアント共通定義ファイル

クライアント共通定義ファイルについては、「6.3 クライアント共通定義ファイル」を参照してください。
- クライアント引数情報ファイル

クライアント引数情報ファイルについては、「6.4 クライアント引数情報ファイル」を参照してください。
- 製品のバージョン情報

CMS Light クライアントのバージョン情報です。
- Windows システムの情報

OS 名、バージョンなどの情報です。
- CLR のバージョン情報

Microsoft .NET Framework のバージョン情報です。
- CLR が出力するダイアログボックス

アプリケーション中で発生した例外に対する適切な処理が行われなかった場合に出力されます。出力されている場合、採取してください。
- ワトソンログ

出力されている場合、採取してください。
- クラッシュダンプ

出力されている場合、採取してください。
- コマンドプロンプトに表示されているメッセージ

トレースログ、またはエラーログに出力できない場合に出力されます。出力されている場合、採取してください。

9

メッセージ

この章では、CMS Light クライアントが出力するメッセージの出力先、記述形式、および記述内容について説明します。

9.1 メッセージの概要

9.2 KDCR10000 ~ KDCR13999 (ドキュメント送受信コマンドのメッセージ)

9.3 KDCR15000 ~ KDCR15999 (トレースログのメッセージ)

9.4 KDCR20000 ~ KDCR20999 (簡易環境設定 GUI のメッセージ)

9.5 KDCR80000 ~ KDCR89999 (履歴表示 GUI のメッセージ)

9.1 メッセージの概要

ここでは、CMS Light クライアントが出力するメッセージの出力先、および記述形式について説明します。

9.1.1 メッセージの出力先

メッセージは、次に示すログ情報として出力されます。ログの出力先はクライアント共通定義ファイルで設定します。クライアント共通定義ファイルについては、「6.3 クライアント共通定義ファイル」を参照してください。

- エラーログ
- トレースログ

また、メッセージは GUI・コマンドの実行時に、GUI・コマンドプロンプトにも表示されます。

9.1.2 メッセージの記述形式

このマニュアルでのメッセージの記述形式、メッセージ ID の記述形式について説明します。

(1) メッセージの記述形式

メッセージの記述形式について説明します。なお、ここで説明する「可変値に関する説明」、「説明」および「対処」はメッセージによって記述しない場合があります。

KDCRnnnnn-Y

メッセージテキスト

可変値について説明します。

説明

メッセージが出力された要因、およびシステムの動作について説明します。

対処

ユーザーが実施する対処について説明します。

なお、対処方法の「保守員に連絡してください」とは、購入時の契約に基づいて、弊社問い合わせ窓口へ連絡することを示します。

(2) メッセージ ID の記述形式

メッセージ ID の記述形式の詳細について説明します。

KDCR

CMS Light クライアントのメッセージプレフィックスで、固定値です。

nnnnn

メッセージ ID の通し番号を示します。

Y

メッセージの種別を表します。メッセージの種別は英字 1 文字で示します。

メッセージの種別を示す文字とその意味を次に示します。

E : エラー

W : 警告

I : 通知

9.2 KDCR10000 ~ KDCR13999 (ドキュメント送受信コマンドのメッセージ)

KDCR10001-I

HSRCMessageService.exe を開始します。引数 ={{0}}

{{0}} : ドキュメント送受信コマンドに指定した引数

説明

ドキュメント送受信コマンドを実行しました。

KDCR10002-I

HSRCMessageService.exe を終了しました。リターン ={{0}}

{{0}} : ドキュメント送受信コマンドのリターン値

説明

ドキュメント送受信コマンドが終了しました。

KDCR10003-W

HSRCMessageService.exe に指定した引数の形式に誤りがあります。引数 ={{0}}

{{0}} : ドキュメント送受信コマンドに指定した引数

説明

ドキュメント送受信コマンドに指定した引数の形式に誤りがあります。

対処

正しい引数を指定して、再度実行してください。

KDCR10004-W

HSRCMessageService.exe に指定した引数の内容に誤りがあります。引数 ={{0}}

{{0}} : ドキュメント送受信コマンドに指定した引数

説明

ドキュメント送受信コマンドに指定した引数の内容に誤りがあります。

対処

引数の内容を確認して、再度実行してください。

KDCR10005-W

「-mode オプション」に指定した内容に誤りがあります。指定した内容 ={{0}}

{{0}} : 「-mode オプション」に指定した値

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-mode オプション」に指定した内容に誤りがあり

ます。

対処

引数の内容を確認して、再度実行してください。

KDCR10006-W

「-infofile オプション」に指定したファイルは存在しません。ファイル ={{0}}

{{0}} : 「-infofile オプション」に指定したファイル名

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-infofile オプション」に指定したファイルがありません。

対処

適切なファイルパスを指定するか、または指定したパスに該当するファイルを作成し、再度実行してください。

KDCR10007-W

「-infofile オプション」に指定したパスが 255 バイトを超えています。

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-infofile オプション」に指定したファイルパスが 255 バイトを超えています。

対処

ファイルパスを 255 バイト以内で指定して、再度実行してください。

KDCR10008-W

「-initfile オプション」に指定したパスが 127 バイトを超えています。

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-initfile オプション」に指定したファイルパスが 127 バイトを超えています。

対処

ファイルパスを 127 バイト以内で指定して、再度実行してください。

KDCR10009-W

「-initfile オプション」に指定したファイルは存在しません。ファイル ={{0}}

{{0}} : 「-initfile オプション」に指定したファイル名

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-initfile オプション」に指定したファイルがありません。

対処

9. メッセージ

適切なファイルパスを指定するか、または <CMS Light クライアントインストールディレクトリ>\¥conf の直下に該当するファイルを作成し、再度実行してください。

KDCR10012-W

「-sender オプション」に指定したドキュメント送信者識別子が、クライアント共通定義ファイルに存在しません。ドキュメント送信者識別子 =[{0}]

{0}: 「-sender オプション」に指定したドキュメント送信者識別子

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-sender オプション」に指定したドキュメント送信者識別子が、クライアント共通定義ファイルで定義されていません。

対処

適切なドキュメント送信者識別子を指定するか、またはクライアント共通定義ファイルの内容を変更して、再度実行してください。

KDCR10013-W

「-sender オプション」に指定したドキュメント送信者識別子が、63 バイトを超えています。

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-sender オプション」に指定したドキュメント送信者識別子が、63 バイトを超えました。

対処

ドキュメント送信者識別子を 63 バイト以内で指定して、再度実行してください。

KDCR10014-W

「-receiver オプション」に指定したドキュメント受信者識別子が、クライアント共通定義ファイルに存在しません。ドキュメント受信者識別子 =[{0}]

{0}: -receiver に指定したドキュメント受信者識別子

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-receiver オプション」に指定したドキュメント受信者識別子が、クライアント共通定義ファイルで定義されていません。

対処

適切なドキュメント受信者識別子を指定するか、またはクライアント共通定義ファイルの内容を変更して、再度実行してください。

KDCR10015-W

「-receiver オプション」に指定したドキュメント受信者識別子が、63 バイトを超えています。

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-receiver オプション」に指定したドキュメント受信者識別子が、63 バイトを超えました。

対処

ドキュメント受信者識別子を 63 バイト以内で指定して、再度実行してください。

KDCR10016-W

「-formattype オプション」に指定したドキュメント形式に誤りがあります。ドキュメント形式={0}

{0} : 「-formattype オプション」に指定したドキュメント形式

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-formattype オプション」に指定したドキュメント形式に誤りがあります。

対処

適切なドキュメント形式を指定して、再度実行してください。

KDCR10017-W

「-documenttype オプション」に指定したドキュメント種別が 255 バイトを超えています。

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-documenttype オプション」に指定したドキュメント種別が 255 バイトを超えています。

対処

ドキュメント種別を 255 バイト以内で指定して、再度実行してください。

KDCR10018-W

「-formattype オプション」が指定されましたが、「-documenttype オプション」は指定されませんでした。

説明

ドキュメント送受信コマンドに「-formattype オプション」が指定されましたが、「-documenttype オプション」が指定されませんでした。

対処

「-formattype オプション」と「-documenttype オプション」を同時に指定するか、または「-formattype オプション」を指定しないで、再度実行してください。

KDCR10019-W

「-documenttype オプション」が指定されましたが、「-formattype オプション」は指定されませんでした。

説明

ドキュメント送受信コマンドに「-documenttype オプション」が指定されましたが、「-formattype オプション」が指定されませんでした。

対処

9. メッセージ

「-formattype オプション」と「-documenttype オプション」を同時に指定するか、または「-documenttype オプション」を指定しないで、再度実行してください。

KDCR10020-W

「-compresstype オプション」に指定したドキュメント圧縮形式が 63 バイトを超えています。

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-compresstype オプション」に指定したドキュメント圧縮形式が 63 バイトを超えています。

対処

ドキュメント圧縮形式を 63 バイト以内で指定して、再度実行してください。

KDCR10021-W

「-datapath オプション」に指定したディレクトリパスが 247 バイトを超えています。

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-datapath オプション」に指定したディレクトリパスが 247 バイトを超えています。

対処

ディレクトリパスを 247 バイト以内で指定して、再度実行してください。

KDCR10022-W

「-count オプション」に指定したファイル数に誤りがあります。ファイル数 ={{0}}

{{0}} : 「-count オプション」に指定したファイル数

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-count オプション」に指定したファイル数が範囲外または誤った内容です。

対処

適切なファイル数を指定して、再度実行してください。

KDCR10023-W

「-datapath オプション」に指定したディレクトリにアクセスできませんでした。ディレクトリ ={{0}}

{{0}} : 「-datapath オプション」に指定したディレクトリパス

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-datapath オプション」に指定したディレクトリにアクセスできませんでした。

対処

指定したディレクトリに書き込み権限、または参照権限があるか確認して、再度実行してください。

KDCR10024-W

「-datapath オプション」に指定したディレクトリパスが 120 バイトを超えています。

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-datapath オプション」に指定したディレクトリパスが 120 バイトを超えています。

対処

ディレクトリパスを 120 バイト以内で指定して、再度実行してください。

KDCR10028-W

「-messageid オプション」に指定したドキュメント識別子が 255 バイトを超えています。

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-messageid オプション」に指定したドキュメント識別子が 255 バイトを超えています。

対処

ドキュメント識別子を 255 バイト以内で指定して、再度実行してください。

KDCR10029-W

HSRCMessageService.exe に引数が指定されていません。

説明

ドキュメント送受信コマンドに引数が指定されませんでした。

対処

正しい引数を指定して、再度実行してください。

KDCR10030-W

「-datapath オプション」に指定したディレクトリは存在しません。ディレクトリ={0}
{0}:「-datapath オプション」に指定したディレクトリパス

説明

ドキュメント送受信コマンドの「-datapath オプション」に指定したディレクトリがありません。

対処

すでにあるディレクトリパスを指定するか、または指定したディレクトリパスを作成し、再度実行してください。

KDCR10031-E

内部ファイルの読み込みでエラーが発生しました。内部ファイル名={0}

{0}: 内部ファイル名

説明

9. メッセージ

内部ファイルの内容に誤りがあります。

対処

CMS Light クライアントが環境不正であるおそれがあるため、再インストールしてください。

KDCR10034-W

「-documenttype オプション」が指定されましたが、「-formattype オプション」で指定したドキュメント形式に対応していません。ドキュメント形式 ={{0}} ドキュメント種別 ={{1}}

{0} : 「-formattype オプション」に指定したドキュメント形式

{1} : 「-documenttype オプション」に指定したドキュメント種別

説明

「-documenttype オプション」に指定したドキュメント種別が「-formattype オプション」で指定したドキュメント形式に対応していません。

対処

「-formattype オプション」で指定したドキュメント形式に対応するドキュメント種別を「-documenttype オプション」に指定してください。

または、「-documenttype オプション」で指定したドキュメント種別に対応するドキュメント形式を「-formattype オプション」に指定してください。

KDCR10035-W

クライアント共通定義ファイルが存在しません。クライアント共通定義ファイル名 ={{0}}

{0} : クライアント共通定義ファイル名

説明

<CMS Light クライアントインストールディレクトリ>%conf の直下にクライアント共通定義ファイルがありません。

対処

<CMS Light クライアントインストールディレクトリ>%conf の直下に該当するファイルを作成し、再度実行してください。

KDCR11012-W

XML ファイルの検証でエラーが発生しました。モジュール名 ={{0}} 要因 ={{1}}

{0} : モジュール名

{1} : 要因

説明

XML ファイルのスキーマ検証を実行時、エラーが発生しました。または受信した SOAP メッセージの XML スキーマ検証を実行時、エラーが発生しました。

対処

クライアント共通定義ファイル、またはクライアント引数情報ファイルに指定した

XML ファイルの内容を確認してください。通信ログを出力して内容を確認してください。

KDCR11013-W

XML ファイルの内容に誤りがあります。モジュール名 ={{0}} ファイル名 ={{1}} 内容 ={{2}}

{{0}} : モジュール名

{{1}} : XML ファイル名

{{2}} : 不正個所の内容

説明

XML ファイルの内容に誤りがあります。

対処

クライアント共通定義ファイル, またはクライアント引数情報ファイルに指定した XML ファイルの内容を確認してください。

KDCR11014-E

XML ファイルからのデータ生成でエラーが発生しました。モジュール名 ={{0}} Container id={{1}}

Key id={{2}} Value={{3}} 例外名 ={{4}} 例外要因 ={{5}} スタックトレース ={{6}}

{{0}} : モジュール名

{{1}} : 構築しようとしたコンテナ識別子

{{2}} : 構築しようとしたキー識別子

{{3}} : 構築しようとしたデータ

{{4}} : 例外名

{{5}} : 例外要因

{{6}} : スタックトレース

説明

XML ファイルの内容からデータ構築しましたが, 例外が発生して生成に失敗しました。

対処

標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから, 保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は, ログファイルを取得してから, 保守員に連絡してください。

KDCR11015-E

XML ファイルの作成でエラーが発生しました。モジュール名 ={{0}} ファイル名 ={{1}} 例外名 ={{2}} 例外要因 ={{3}} スタックトレース ={{4}}

{{0}} : モジュール名

{{1}} : 作成する XML ファイル名

{{2}} : 例外名

{{3}} : 例外要因

9. メッセージ

{4} : スタックトレース

説明

XML ファイルの作成で例外が発生して失敗しました。

対処

作成先のディレクトリに該当するファイルが存在するか確認してください。また、ディレクトリに書き込み権限があるか確認して、再度実行してください。

問題が再発する場合は、標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11016-W

XML ファイルの検証でエラーが発生しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}] スタックトレース =[{3}]

{0} : モジュール名

{1} : 例外名

{2} : 例外要因

{3} : スタックトレース

説明

XML ファイルのスキーマ検証を実行時、エラーが発生しました。または受信した SOAP メッセージの XML スキーマ検証に失敗しました。

対処

次のことを確認してください。

- クライアント共通定義ファイル、またはクライアント引数情報ファイルに指定した XML ファイルの内容が正しいか
- 接続先サーバが起動中か

それでも解決しない場合は、通信ログを出力して内容を確認してください。

KDCR11017-E

XML ファイルの読み込みに失敗しました。モジュール名 =[{0}] ファイル名 =[{1}] 例外名 =[{2}] 例外要因 =[{3}] スタックトレース =[{4}]

{0} : モジュール名

{1} : オープンしようとした XML ファイル名

{2} : 例外名

{3} : 例外要因

{4} : スタックトレース

説明

XML ファイルの読み込みに失敗しました。

対処

ファイルに参照権限があるか確認して再度実行してください。
 問題が再発する場合は、標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11018-E

XML ファイルからのデータ生成でエラーが発生しました。モジュール名 =[{0}] Container id=[{1}]
 例外名 =[{2}] 例外要因 =[{3}] スタックトレース =[{4}]

- {0} : モジュール名
- {1} : 構築しようとしたコンテナ識別子
- {2} : 例外名
- {3} : 例外要因
- {4} : スタックトレース

説明

XML ファイルの内容からデータ構築しましたが、例外が発生して生成に失敗しました。

対処

標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11019-E

XML ファイルからのデータ生成でエラーが発生しました。モジュール名 =[{0}] Container id=[{1}]
 Key id=[{2}] 例外名 =[{3}] 例外要因 =[{4}] スタックトレース =[{5}]

- {0} : モジュール名
- {1} : 構築しようとしたコンテナ識別子
- {2} : 構築しようとしたキー識別子
- {3} : 例外名
- {4} : 例外要因
- {5} : スタックトレース

説明

XML ファイルの内容からデータ構築しましたが、例外が発生して生成に失敗しました。

対処

標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11020-E

XML ファイルからのデータ生成でエラーが発生しました。モジュール名 ={{0}} 例外名 ={{1}} 例外要因 ={{2}} スタックトレース ={{3}}

{0} : モジュール名

{1} : 例外名

{2} : 例外要因

{3} : スタックトレース

説明

XML ファイルの内容からデータ構築しましたが、例外が発生して生成に失敗しました。

対処

標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11021-E

XML データ処理中にエラーが発生しました。モジュール名 ={{0}} Container id={{1}} Key id={{2}} 例外名 ={{3}} 例外要因 ={{4}} スタックトレース ={{5}}

{0} : モジュール名

{1} : アクセスしようとしたコンテナ識別子

{2} : アクセスしようとしたキー識別子

{3} : 例外名

{4} : 例外要因

{5} : スタックトレース

説明

コンテナ識別子とキー識別子を用いた XML データの処理中に例外が発生して生成に失敗しました。

対処

標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11022-E

XML データ処理中にエラーが発生しました。モジュール名 ={{0}} Container id={{1}} 例外名 ={{2}} 例外要因 ={{3}} スタックトレース ={{4}}

{0} : モジュール名

{1} : アクセスしようとしたコンテナ識別子

{2} : 例外名

{3} : 例外要因

{4} : スタックトレース

説明

コンテナ識別子を用いた XML データの処理中に例外が発生して生成に失敗しました。

対処

標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11023-E

XML ファイルからのデータ生成でエラーが発生しました。モジュール名={0} Key id={1} 例外名={2} 例外要因={3} スタックトレース={4}

{0} : モジュール名

{1} : 構築しようとしたキー識別子

{2} : 例外名

{3} : 例外要因

{4} : スタックトレース

説明

キー識別子を用いた XML ファイルの内容からデータ構築しましたが、例外が発生して生成に失敗しました。

対処

標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11024-E

XML データ処理中にエラーが発生しました。モジュール名={0} Key id={1} 例外名={2} 例外要因={3} スタックトレース={4}

{0} : モジュール名

{1} : アクセスしようとしたキー識別子

{2} : 例外名

{3} : 例外要因

{4} : スタックトレース

説明

キー識別子を用いた XML データの処理中に例外が発生して生成に失敗しました。

対処

標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11025-E

XML ファイルからのデータ生成でエラーが発生しました。モジュール名 =[{0}] Key id=[{1}] Value=[{2}] 例外名 =[{3}] 例外要因 =[{4}] スタックトレース =[{5}]

- {0} : モジュール名
- {1} : 構築しようとしたキー識別子
- {2} : 構築しようとしたデータ
- {3} : 例外名
- {4} : 例外要因
- {5} : スタックトレース

説明

キー識別子とデータを用いた XML ファイルの内容からデータ構築しましたが、例外が発生して生成に失敗しました。

対処

標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11026-E

XML データ処理中にエラーが発生しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}] スタックトレース =[{3}]

- {0} : モジュール名
- {1} : 例外名
- {2} : 例外要因
- {3} : スタックトレース

説明

インデックスを用いた XML データの処理中に例外が発生して生成に失敗しました。

対処

標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11027-E

XML ファイルの読み込み時に例外が発生しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}] スタックトレース =[{3}]

- {0} : モジュール名
- {1} : 例外名
- {2} : 例外要因
- {3} : スタックトレース

説明

XML ファイルの読み込みで例外が発生しました。

対処

標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11028-E

プログラム実行中に内部エラーが発生しました。モジュール名 ={{0}} 例外名 ={{1}} 例外要因 ={{2}} スタックトレース ={{3}}

{{0}} : モジュール名

{{1}} : 例外名

{{2}} : 例外要因

{{3}} : スタックトレース

説明

GUI およびコマンドの共通処理を実行時、例外が発生しました。

対処

標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11029-E

SOAP メッセージの解析中に例外が発生しました。モジュール名 ={{0}} 例外要因 ={{1}}

{{0}} : モジュール名

{{1}} : デバッグ情報

説明

SOAP メッセージの解析中に例外が発生しました。

対処

ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11030-E

予期しない障害が発生しました。例外要因 ={{0}}

{{0}} : 例外要因

説明

該当するプログラムで障害が発生しました。

対処

1. このエラーメッセージに先立ち、ほかのエラーメッセージが出力されている場合は、そちらのエラーメッセージの対処方法に従ってください。
2. 例外要因を取り除いて、再度実行してください。それでも解決しない場合は、標

9. メッセージ

準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11031-E

{0} ファイルを長時間使用しているプロセスがあります。モジュール名={1} 排他オブジェクト名={2} タイムアウト値={3}

{0} : ファイル名

{1} : モジュール名

{2} : 排他オブジェクト名

{3} : タイムアウト値

説明

定義ファイルの読み込み時に、排他解除待ちで時間を超過しました。

対処

簡易環境設定 GUI を終了させたあと、ドキュメント送受信コマンドを実行してください。

KDCR11032-W

ディレクトリの作成に失敗しました。ドキュメント送受信コマンドを中断します。ディレクトリ名={0}

{0} : ディレクトリ名

説明

ディレクトリの作成に失敗しました。

対処

同じ名称のファイルがないか確認し、再度ドキュメント送受信コマンドを実行してください。

KDCR11033-E

予期しない障害が発生しました。モジュール名={0} 例外名={1} 例外要因={2} スタックトレース={3}

{0} : モジュール名

{1} : 例外名

{2} : 例外要因

{3} : スタックトレース

説明

該当するプログラムで障害が発生しました。

対処

1. このエラーメッセージに先立ち、ほかのエラーメッセージが出力されている場合は、そちらのエラーメッセージの対処方法に従ってください。

2. 例外要因を取り除いて、再度実行してください。それでも解決しない場合は、標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11034-E

レジストリからインストールパス名を取得できませんでした。モジュール名 ={{0}} レジストリ情報 ={{1}}

- {{0}} : モジュール名
- {{1}} : レジストリ情報

説明

レジストリからインストール先のパス名を取得できませんでした。

対処

標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。標準エラー出力に表示されない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11035-E

指定したファイル、またはディレクトリにアクセスできませんでした。モジュール名 ={{0}} 例外名 ={{1}} 例外要因 ={{2}} スタックトレース ={{3}}

- {{0}} : モジュール名
- {{1}} : 例外名
- {{2}} : 例外要因
- {{3}} : スタックトレース

説明

指定したファイル、またはディレクトリにアクセスできませんでした。

対処

次のことを確認したあと、ドキュメント送受信コマンドを再度実行してください。

- 指定したファイルまたはディレクトリに、書き込み権限と参照権限があるか
- ディスクに十分な空き領域があるか
- 指定したファイルが使用されていないか

KDCR11036-E

指定したディレクトリは存在しませんでした。ディレクトリ名 ={{0}}

- {{0}} : ディレクトリ名

説明

指定したディレクトリがありませんでした。

対処

指定したディレクトリを確認して、再度実行してください。

KDCR11037-E

ファイルの移動に失敗しました。モジュール名 =[{0}] 要因 =[{1}]

{0} : モジュール名

{1} : 要因

説明

送受信ファイルの移動に失敗しました。

対処

ファイルシステムを見直してください。それでも解決しない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR11038-W

指定されたファイルは処理対象外のサイズです。ファイル名 =[{0}] ファイルサイズ =[{1}]

{0} : ファイル名

{1} : ファイルサイズ

説明

処理対象外のサイズのファイルが指定されました。

対処

指定したファイルのサイズを確認して、再度実行してください。

KDCR11039-I

指定された送信ディレクトリには、処理対象外のサイズのファイルが含まれています。送信ディレクトリ名 =[{0}]

{0} : 送信ディレクトリ名

説明

指定した送信ディレクトリに処理対象外のサイズのファイルが含まれていました。

KDCR11040-W

HTTP プロキシの設定に失敗しました。要因 =[{0}]

{0} : 要因

説明

HTTP プロキシの設定に失敗しました。

対処

クライアント共通定義ファイルの HTTP プロキシの設定内容を確認し、再度実行してください。

KDCR11041-W

HTTPS プロキシの設定に失敗しました。要因 =[{0}]

{0} : 要因

説明

HTTPS プロキシの設定に失敗しました。

対処

クライアント共通定義ファイルの HTTPS プロキシの設定内容を確認し、再度実行してください。

KDCR11042-W

接続先サーバの URL の設定に失敗しました。要因 =[{0}]

{0} : 要因

説明

接続先サーバの URL の設定に失敗しました。

対処

クライアント共通定義ファイルの接続先サーバの URL の設定内容を確認し、再度実行してください。

KDCR11043-E

指定したファイルは存在しませんでした。ファイル名 =[{0}]

{0} : ファイル名

説明

指定したファイルは存在しませんでした。

対処

指定したファイルを確認して、再度実行してください。

KDCR11044-E

クライアント証明書データの取り込みに失敗しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}] スタックトレース =[{3}]

{0} : モジュール名

{1} : 例外名

{2} : 例外要因

{3} : スタックトレース

説明

クライアント証明書データの取り込みに失敗しました。

対処

次のことを確認して、送受信コマンドを再度実行してください。

- クライアント証明書ファイルが存在するか
- 適切なアクセス権限が付与されているか
- 証明書のデータ形式が正しいか

KDCR13002-I

ドキュメント送信に成功しました。ドキュメント名 =[{0}]

{0} : 送信したドキュメント名

説明

ドキュメント送信に成功しました。

KDCR13003-I

ドキュメント受信に成功しました。ドキュメント名 =[{0}]

{0} : 受信したドキュメント名

説明

ドキュメント受信に成功しました。

KDCR13004-E

PutDocument 実行時に通信エラーが発生しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}] 例外詳細要因 =[{3}] スタックトレース =[{4}]

{0} : モジュール名

{1} : 例外名

{2} : 例外要因

{3} : 例外詳細要因

{4} : スタックトレース

説明

PutDocument の実行で通信エラーが発生しました。

対処

通信エラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KDCR13005-E

PutDocument 実行時にエラーが発生しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}] スタックトレース =[{3}]

{0} : モジュール名

{1} : 例外名

{2} : 例外要因

{3} : スタックトレース

説明

PutDocument の実行でエラーが発生しました。

対処

エラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KDCR13010-I

GetDocument を開始します。モジュール名 ={{0}} リトライ回数 ={{1}}

{0} : モジュール名

{1} : GetDocument を実行するリトライ回数

説明

GetDocument を開始します。

KDCR13011-I

GetDocument を終了しました。モジュール名 ={{0}} 結果 ={{1}} ドキュメント識別子 ={{2}}

{0} : モジュール名

{1} : 実行結果

{2} : ドキュメント識別子

説明

GetDocument を終了します。

KDCR13012-I

PutDocument を開始します。モジュール名 ={{0}} リトライ回数 ={{1}}

{0} : モジュール名

{1} : PutDocument を実行するリトライ回数

説明

PutDocument を開始します。

KDCR13013-I

PutDocument を終了しました。モジュール名 ={{0}} 結果 ={{1}} ドキュメント識別子 ={{2}}

{0} : モジュール名

{1} : 実行結果

{2} : ドキュメント識別子

説明

PutDocument を終了します。

KDCR13014-I

ConfirmDocument を開始します。モジュール名 ={{0}} リトライ回数 ={{1}}

{0} : モジュール名

{1} : ConfirmDocument を実行するリトライ回数

説明

ConfirmDocument を開始します。

KDCR13015-I

ConfirmDocument を終了しました。モジュール名 =[{0}] 結果 =[{1}] ドキュメント識別子 =[{2}]

{0} : モジュール名

{1} : 実行結果

{2} : ドキュメント識別子

説明

ConfirmDocument を終了します。

KDCR13016-I

[{0}] [{1}]

{0} : SOAP メッセージの送信日時

{1} : 送信した SOAP メッセージ

説明

不正な SOAP メッセージを送信しました。なお、このメッセージは通信ログ用のメッセージのため、可変値部分しかありません。

KDCR13017-I

[{0}] [{1}]

{0} : SOAP メッセージの受信日時

{1} : 受信した SOAP メッセージ

説明

不正な SOAP メッセージを受信しました。なお、このメッセージは通信ログ用のメッセージのため、可変値部分しかありません。

KDCR13018-E

GetDocument 実行時に通信エラーが発生しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}] 例外詳細要因 =[{3}] スタックトレース =[{4}]

{0} : モジュール名

{1} : 例外名

{2} : 例外要因

{3} : 例外詳細要因

{4} : スタックトレース

説明

GetDocument の実行で通信エラーが発生しました。

対処

通信エラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KDCR13019-E

GetDocument 実行時にエラーが発生しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}]
スタックトレース =[{3}]

{0} : モジュール名

{1} : 例外名

{2} : 例外要因

{3} : スタックトレース

説明

GetDocument の実行でエラーが発生しました。

対処

エラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KDCR13020-E

ConfirmDocument 実行時に通信エラーが発生しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}] 例外詳細要因 =[{3}] スタックトレース =[{4}]

{0} : モジュール名

{1} : 例外名

{2} : 例外要因

{3} : 例外詳細要因

{4} : スタックトレース

説明

ConfirmDocument の実行で通信エラーが発生しました。

対処

通信エラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KDCR13021-E

ConfirmDocument 実行時にエラーが発生しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}] スタックトレース =[{3}]

{0} : モジュール名

{1} : 例外名

{2} : 例外要因

{3} : スタックトレース

説明

ConfirmDocument の実行でエラーが発生しました。

対処

エラーの要因を取り除いて、再度実行してください。

KDCR13022-E

送信ファイルの読み込みに失敗しました。モジュール名 =[{0}] ファイル名 =[{1}]

{0} : モジュール名

{1} : 送信ファイル名

説明

送信ファイルの読み込みに失敗しました。

対処

ファイルシステムを見直してください。それでも解決しない場合は、ログファイルを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR13023-I

指定した送信ディレクトリには、送信対象のファイルが存在しませんでした。送信ディレクトリ名 =[{0}]

{0} : 送信ディレクトリ名

説明

送信対象のファイルがありません。

対処

送信対象のファイルが存在する送信ディレクトリを指定してください。

9.3 KDCR15000 ~ KDCR15999 (トレースログのメッセージ)

KDCR15001-E

トレースログの初期化処理に失敗しました。API 関数名 ={{0}} API 関数の返却値 ={{1}} 詳細コード 1 ={{2}} 詳細コード 2 ={{3}}

- {0} : エラーリターンした API 関数名称
- {1} : 該当する API 関数の返却値
- {2} : エラーリターンした要因を示す詳細コード 1
- {3} : エラーリターンした要因を示す詳細コード 2

説明

トレースログ機能の初期化処理で、CMS Light クライアントが使用しているトレースライブラリの API 関数がエラーリターンしました。

対処

トレースログ、エラーログ、通信ログ出力ディレクトリに、読み取り権限と書き込み権限があるかどうかを確認してください。権限に問題がない場合、CMS Light クライアントを再インストールしてください。
それでも解決しない場合は、標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR15002-E

トレースログの出力処理に失敗しました。API 関数名 ={{0}} API 関数の返却値 ={{1}} 詳細コード 1 ={{2}} 詳細コード 2 ={{3}}

- {0} : エラーリターンした API 関数名称
- {1} : 該当する API 関数の返却値
- {2} : エラーリターンした要因を示す詳細コード 1
- {3} : エラーリターンした要因を示す詳細コード 2

説明

トレースログ機能の出力処理で、CMS Light クライアントが使用しているトレースライブラリの API 関数がエラーリターンしました。

対処

トレースログ、エラーログ、通信ログ出力ディレクトリに、読み取り権限と書き込み権限があるかどうか確認してください。
それでも解決しない場合は、標準エラー出力に表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

9.4 KDCR20000 ~ KDCR20999 (簡易環境設定 GUI のメッセージ)

KDCR20001-W

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのクライアント URI に入力された値が 255 バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのクライアント URI に入力された値が 255 バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのクライアント URI を 255 バイト以内で入力してください。

KDCR20002-W

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのクライアント URI の設定値が入力されていません。

説明

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのクライアント URI が入力されていません。

対処

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのクライアント URI を入力してください。

KDCR20003-W

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのクライアント URI の設定値とサーバ URI の設定値が同じです。設定値 =[{0}]

{0} : クライアント URI とサーバ URI に指定した設定値

説明

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのクライアント URI の設定値とサーバ URI の設定値が重複しています。

対処

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのクライアント URI の設定値とサーバ URI の設定値を重複させないで入力してください。

KDCR20004-W

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのクライアントIDに入力された値が63バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのクライアントIDに入力された値が63バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのクライアントIDを63バイト以内で入力してください。

KDCR20005-W

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのクライアントIDの設定値が入力されていません。

説明

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのクライアントIDが入力されていません。

対処

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのクライアントIDを入力してください。

KDCR20006-W

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのクライアントIDの設定値とサーバIDの設定値が同じです。設定値={0}

{0}: クライアントIDとサーバIDに指定した設定値

説明

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのクライアントIDの設定値とサーバIDの設定値が重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのクライアントIDの設定値とサーバIDの設定値を重複させないで入力してください。

KDCR20007-W

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのサーバURIに入力された値が255バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのサーバURIに入力された値が255バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのサーバURIを255バイト以内で入力してください。

KDCR20008-W

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのサーバ URI の設定値が入力されていません。

説明

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのサーバ URI が入力されていません。

対処

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのサーバ URI を入力してください。

KDCR20009-W

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのサーバ ID に入力された値が 63 バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのサーバ ID に入力された値が 63 バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのサーバ ID を 63 バイト以内で入力してください。

KDCR20010-W

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのサーバ ID の設定値が入力されていません。

説明

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのサーバ ID が入力されていません。

対処

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのサーバ ID を入力してください。

KDCR20011-W

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのエンドポイントに入力する接続先サーバの URL が入力されていません。

説明

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのエンドポイントに入力する接続先サーバの URL が入力されていません。

対処

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのエンドポイントに入力する接続先サーバの URL を入力してください。

KDCR20012-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: トレースログの出力ディレクトリと受信成功ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20013-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: トレースログの出力ディレクトリと受信失敗ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20014-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信情報設定画面の送信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: トレースログの出力ディレクトリと送信成功ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブから表示される[送信情報の設定]画面の送信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

9. メッセージ

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブから表示される[送信情報の設定]画面の送信成功ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20015-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}:トレースログの出力ディレクトリと送信失敗ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20016-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}:トレースログの出力ディレクトリと送信ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20018-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリに指定した内容に誤りがあります。絶対パスを正しく指定してください。ディレクトリ={0}

{0}:トレースログの出力ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリに絶対パス

以外、または使用できない文字が指定されました。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリに使用できる文字で絶対パスを指定してください。

KDCR20019-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: エラーログの出力ディレクトリと受信成功ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20020-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: エラーログの出力ディレクトリと受信失敗ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20021-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: エラーログの出力ディレクトリと送信成功ディレクトリに指定したディレクトリパス

9. メッセージ

ス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信成功ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20022-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: エラーログの出力ディレクトリと送信失敗ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20023-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: エラーログの出力ディレクトリと送信ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20025-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリに指定した内容に誤りがあります。絶対パスを正しく指定してください。ディレクトリ={0}

{0}: エラーログの出力ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリに絶対パス以外、または使用できない文字が指定されました。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリに使用できる文字で絶対パスを指定してください。

KDCR20026-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: 通信ログの出力ディレクトリと受信成功ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに入力されたディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20027-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: 通信ログの出力ディレクトリと受信失敗ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20028-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: 通信ログの出力ディレクトリと送信成功ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信成功ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20029-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: 通信ログの出力ディレクトリと送信失敗ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20030-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: 通信ログの出力ディレクトリと送信ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに入力されたディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20032-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリに指定した内容に誤りがあります。絶対パスを正しく指定してください。ディレクトリ={0}

{0}: 通信ログの出力ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリに絶対パス以外、または使用できない文字が指定されました。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの出力ディレクトリに使用できる文字で絶対パスを指定してください。

KDCR20033-E

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリに指定したディレクトリを作成できませんでした。ディレクトリ={0}

{0}: トレースログの出力ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリに指定したディレクトリの作成に失敗しました。

対処

次の内容を見直し、簡易環境設定 GUI で再度設定してください。

- [簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリに指定したディレクトリに、書き込み権限があるか
- [簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリに指定したディレクトリに、すでに同じ名称のファイルが存在していないか
- [簡易環境設定]画面の[ログ]タブのトレースログの出力ディレクトリに、指定したディレクトリに使用できない文字が含まれていないか

KDCR20034-E

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリに指定したディレクトリを作成できませんでした。ディレクトリ={0}

{0}: エラーログの出力ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリに指定したディレクトリの作成に失敗しました。

対処

次の内容を見直し、簡易環境設定 GUI で再度設定してください。

- [簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリに指定したディレクトリに、書き込み権限があるか
- [簡易環境設定]画面の[ログ]タブのエラーログの出力ディレクトリに指定した

9. メッセージ

ディレクトリに、すでに同じ名称のファイルが存在していないか

- [簡易環境設定] 画面の [ログ] タブのエラーログの出力ディレクトリに指定したディレクトリに使用できない文字が含まれていないか

KDCR20035-E

[簡易環境設定] 画面の [ログ] タブの通信ログの出力ディレクトリに指定したディレクトリを作成できませんでした。ディレクトリ ={{0}}

{0} : 通信ログの出力ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定] 画面の [ログ] タブの通信ログの出力ディレクトリに指定したディレクトリの作成に失敗しました。

対処

次の内容を見直し、簡易環境設定 GUI で再度設定してください。

- [簡易環境設定] 画面の [ログ] タブの通信ログの出力ディレクトリに指定したディレクトリに、書き込み権限があるか
- [簡易環境設定] 画面の [ログ] タブの通信ログの出力ディレクトリに指定したディレクトリに、すでに同じ名称のファイルが存在していないか
- または [簡易環境設定] 画面の [ログ] タブの通信ログの出力ディレクトリに指定したディレクトリに使用できない文字が含まれていないか

KDCR20036-W

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP プロキシサーバの情報でのポートに入力された値に誤りがあります。0 から 65535 までの整数を指定してください。設定値 ={{0}}

{0} : HTTP プロキシサーバの情報のポートに指定した設定値

説明

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP プロキシサーバの情報でのポートに入力された値が範囲内ではありません。または不正なデータが入力されています。

対処

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP プロキシサーバの情報でのポートに適切な数値を入力してください。

KDCR20037-W

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTPS プロキシサーバの情報でのポートに入力された値に誤りがあります。0 から 65535 までの整数を指定してください。設定値 ={{0}}

{0} : HTTPS プロキシサーバの情報のポートに指定した設定値

説明

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTPS プロキシサーバの情報でのポートに入力された値が範囲内ではありません。または不正なデータが入力されて

います。

対処

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブのHTTPSプロキシサーバの情報でのポートに適切な数値を入力してください。

KDCR20038-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブに入力された受信成功ディレクトリが120バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに入力された値が120バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに120バイト以内で入力してください。

KDCR20039-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}
{0}: 受信成功ディレクトリと送信成功ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信成功ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20040-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}
{0}: 受信成功ディレクトリと送信失敗ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリと,[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20041-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリと[送信]タブの送信ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: 受信成功ディレクトリと送信ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリと[送信]タブの送信ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリと[送信]タブの送信ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20043-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに指定した内容に誤りがあります。絶対パスを正しく指定してください。ディレクトリ={0}

{0}: 受信成功ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに絶対パス以外、または使用できない文字が指定されました。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに使用できる文字で絶対パスを指定してください。

KDCR20044-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブに入力された受信失敗ディレクトリが120バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリに入力された値が120バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリに120バイト以内で入力してください。

KDCR20045-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリと[送信]タブの送信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: 受信失敗ディレクトリと送信成功ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリと,[送信]タブの送信成功ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリと,[送信]タブの送信成功ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20046-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリと[送信]タブの送信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: 受信失敗ディレクトリと送信失敗ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリと,[送信]タブの送信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリと,[送信]タブの送信失敗ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20047-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリと[送信]タブの送信ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0}: 受信失敗ディレクトリと送信ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリと,[送信]タブの送信ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリと,[送信]タブの送信ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20049-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリに指定した内容に誤りがあります。絶対パスを正しく指定してください。ディレクトリ={0}

{0}: 受信失敗ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリに絶対パス以外,または使用できない文字が指定されました。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリに使用できる文字で絶対パスを指定してください。

KDCR20050-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリと受信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが同じです。ディレクトリ={0}

{0} : 受信成功ディレクトリと受信失敗ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリと受信失敗ディレクトリに入力されたディレクトリが重複しています。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリと受信失敗ディレクトリを重複させないで入力してください。

KDCR20051-W

[簡易環境設定]画面の[送信]タブに入力された送信情報の保存名が64バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信情報の保存名に入力された値が64バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信情報の保存名に64バイト以内で入力してください。

KDCR20052-W

送信情報設定画面に入力された送信情報の保存名に誤りがあります。指定した保存名={0}

{0} : 指定した保存名

説明

[簡易環境設定]画面の[送信]タブに入力された送信情報の保存名に使用できない文字列が含まれています。

対処

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信情報の保存名に使用できる文字列を入力してください。

KDCR20053-W

[簡易環境設定]画面の[送信]タブに入力されたドキュメント種別が255バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定]画面の[送信]タブのドキュメント種別に入力された値が255バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定]画面の[送信]タブのドキュメント種別に255バイト以内で入力してください。

KDCR20054-W

[簡易環境設定]画面の[送信]タブでドキュメント形式を指定した場合は、ドキュメント種別を選択してください。

説明

[簡易環境設定]画面の[送信]タブでドキュメント形式が指定されましたが、ドキュメント種別が指定されませんでした。

対処

[簡易環境設定]画面の[送信]タブで、ドキュメント形式とドキュメント種別の両方を指定してください。

KDCR20055-W

[簡易環境設定]画面の[送信]タブでドキュメント種別を指定した場合は、ドキュメント形式を選択してください。

説明

[簡易環境設定]画面の[送信]タブでドキュメント種別が指定されましたが、ドキュメント形式が指定されませんでした。

対処

[簡易環境設定]画面の[送信]タブで、ドキュメント形式とドキュメント種別の両方を指定してください。

KDCR20056-W

[簡易環境設定]画面の[送信]タブに入力されたドキュメント圧縮形式が63バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定]画面の[送信]タブのドキュメント圧縮形式に入力された値が63バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定]画面の[送信]タブのドキュメント圧縮形式に63バイト以内で入力します。

KDCR20057-W

[簡易環境設定]画面の[送信]タブに入力された送信ディレクトリが247バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに入力された値が247バイトを超えました。

9. メッセージ

対処

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに247バイト以内で入力してください。

KDCR20058-W

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに指定した内容に誤りがあります。絶対パスを正しく指定してください。ディレクトリ={0}

{0}:送信ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに絶対パス以外、または使用できない文字が指定されました。

対処

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに使用できる文字で絶対パスを指定してください。

KDCR20059-W

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリが入力されていません。絶対パスを指定してください。

説明

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリが絶対パスで指定されていません。

対処

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに使用できる文字で絶対パスを指定してください。

KDCR20060-W

[簡易環境設定]画面の[送信]タブに入力された送信成功ディレクトリが120バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信成功ディレクトリに入力された値が120バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信成功ディレクトリに120バイト以内で入力してください。

KDCR20062-W

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信成功ディレクトリに指定した内容に誤りがあります。絶対パスを正しく指定してください。ディレクトリ={0}

{0}:送信成功ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信成功ディレクトリに絶対パス以外、または使用できない文字が指定されました。

対処

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信成功ディレクトリに使用できる文字で絶対パスを指定してください。

KDCR20063-W

[簡易環境設定]画面の[送信]タブに入力された送信失敗ディレクトリが120バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリに入力された値が120バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリに120バイト以内で入力してください。

KDCR20065-W

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリに指定した内容に誤りがあります。絶対パスを正しく指定してください。ディレクトリ={0}

{0}:送信失敗ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリに絶対パス以外、または使用できない文字が指定されました。

対処

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信失敗ディレクトリに使用できる文字で絶対パスを指定してください。

KDCR20066-E

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに指定したディレクトリを作成できませんでした。ディレクトリ={0}

{0}:送信ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに指定したディレクトリの作成に失敗しました。

対処

次の内容を見直し、簡易環境設定 GUI で再度設定してください。

- [簡易環境設定]画面の[送信]タブの送信ディレクトリに指定したディレクトリに、書き込み権限があるか

9. メッセージ

- [簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信ディレクトリに指定したディレクトリに、すでに同じ名称のファイルがないか
- [簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信ディレクトリに指定したディレクトリに使用できない文字が含まれていないか

KDCR20067-E

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信成功ディレクトリに指定したディレクトリを作成できませんでした。ディレクトリ={0}

{0} : 送信成功ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信成功ディレクトリに指定したディレクトリの作成に失敗しました。

対処

次の内容を見直し、簡易環境設定 GUI で再度設定してください。

- [簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信成功ディレクトリに指定したディレクトリに、書き込み権限があるか
- [簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信成功ディレクトリに指定したディレクトリに、すでに同じ名称のファイルが存在していないか
- [簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信成功ディレクトリに指定したディレクトリに使用できない文字が含まれていないか

KDCR20068-E

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信失敗ディレクトリに指定したディレクトリを作成できませんでした。ディレクトリ={0}

{0} : 送信失敗ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信失敗ディレクトリに指定したディレクトリの作成に失敗しました。

対処

次の内容を見直し、簡易環境設定 GUI で再度設定してください。

- [簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信失敗ディレクトリに指定したディレクトリに、書き込み権限があるか
- [簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信失敗ディレクトリに指定したディレクトリに、すでに同じ名称のファイルが存在していないか
- [簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信失敗ディレクトリに指定したディレクトリに使用できない文字が含まれていないか

KDCR20069-W

送信情報の保存名が入力されていません。

説明

簡易環境設定 GUI の [送信情報の設定] 画面の送信情報の保存名が入力されていません。

対処

[送信情報の設定] 画面の送信情報の保存名にデータを入力してください。

KDCR20070-W

クライアント共通定義ファイルに設定されている内容に誤りがあります。クライアント共通定義ファイルの内容を破棄して、すべての内容をデフォルトに置き換えて起動しますか？ クライアント共通定義ファイル={0} 最初に見つかった誤った箇所={1}

{0}：クライアント共通定義ファイルのファイル名

{1}：クライアント共通定義ファイルに設定された情報で、最初に見つかった不正箇所

説明

簡易環境設定 GUI を起動した際、読み込んだクライアント共通定義ファイルの内容に誤りがありました。

対処

デフォルトに置き換えて簡易環境設定 GUI を起動する場合は、[はい] を選択してください。簡易環境設定 GUI を起動しない場合は [いいえ] を選択してください。

KDCR20071-W

クライアント引数情報ファイルに設定されている内容に誤りがあります。誤りが発生した引数情報ファイルに対応する送信情報の内容を破棄して、すべての内容をデフォルトに置き換えて起動しますか？ クライアント引数情報ファイル={0} 最初に見つかった誤った箇所={1}

{0}：クライアント引数情報ファイルのファイル名

{1}：クライアント引数情報ファイルに設定された情報で、最初に見つかった不正箇所

説明

簡易環境設定 GUI を起動した際、読み込んだクライアント引数情報ファイルの内容に誤りがありました。

対処

デフォルトに置き換えて簡易環境設定 GUI を起動する場合は、[はい] を選択してください。簡易環境設定 GUI を起動しない場合は [いいえ] を選択してください。

KDCR20072-E

ドキュメント送信コマンド用バッチファイルが生成できませんでした。ドキュメント送信コマンド用バッチファイル={0} 例外要因={1}

{0}：生成に失敗したバッチファイル名（絶対パス）

{1}：デバッグ情報

説明

ドキュメント送信コマンド用のバッチファイルの生成に失敗しました。

9. メッセージ

対処

次の内容を見直し、簡易環境設定 GUI で再度設定してください。

- バッチファイルが出力されるディレクトリに、書き込み権限があるか
- バッチファイルが出力されるディレクトリに、すでに同じ名称のディレクトリが存在していないか
- [簡易環境設定] 画面の [送信情報の設定] 画面の保存名に指定した保存名に使用できない文字が含まれていないか

KDCR20073-E

ドキュメント受信コマンド用バッチファイルが生成できませんでした。ドキュメント受信コマンド用バッチファイル ={{0}} 例外要因 ={{1}}

{0} : 生成に失敗したバッチファイル名 (絶対パス)

{1} : デバッグ情報

説明

ドキュメント受信コマンド用のバッチファイルの生成に失敗しました。

対処

次の内容を見直し、簡易環境設定 GUI で再度設定してください。

- バッチファイルが出力されるディレクトリに、書き込み権限があるか
- バッチファイルが出力されるディレクトリに、すでに同じ名称のディレクトリが存在していないか

KDCR20074-W

[簡易環境設定] 画面の [ログ] タブに入力されたトレースログの出力ディレクトリが 200 バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定] 画面の [ログ] タブのトレースログの情報の出力ディレクトリに入力された値が 200 バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定] 画面の [ログ] タブのトレースログの情報の出力ディレクトリに 200 バイト以内で入力してください。

KDCR20075-W

[簡易環境設定] 画面の [ログ] タブに入力されたエラーログの出力ディレクトリが 200 バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定] 画面の [ログ] タブのエラーログの情報の出力ディレクトリに入力された値が 200 バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定] 画面の [ログ] タブのエラーログの情報の出力ディレクトリに 200

バイト以内で入力してください。

KDCR20076-W

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブに入力された通信ログの出力ディレクトリが200バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの情報の出力ディレクトリに入力された値が200バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定]画面の[ログ]タブの通信ログの情報の出力ディレクトリに200バイト以内で入力してください。

KDCR20077-E

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに指定したディレクトリを作成できませんでした。ディレクトリ={0}

{0}: 受信成功ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに指定したディレクトリの作成に失敗しました。

対処

次の内容を見直し、簡易環境設定 GUI で再度設定してください。

- [簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに指定したディレクトリに、書き込み権限があるか
- [簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに指定したディレクトリに、すでに同じ名称のファイルが存在していないか
- [簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信成功ディレクトリに指定したディレクトリに使用できない文字が含まれていないか

KDCR20078-E

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリに指定したディレクトリを作成できませんでした。ディレクトリ={0}

{0}: 受信失敗ディレクトリに指定したディレクトリパス

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリに指定したディレクトリの作成に失敗しました。

対処

次の内容を見直し、簡易環境設定 GUI で再度設定してください。

- [簡易環境設定]画面の[受信]タブの受信失敗ディレクトリに指定したディレクトリに、書き込み権限があるか

9. メッセージ

- [簡易環境設定] 画面の [受信] タブの受信失敗ディレクトリに指定したディレクトリに、すでに同じ名称のファイルが存在していないか
- [簡易環境設定] 画面の [受信] タブの受信失敗ディレクトリに指定したディレクトリに使用できない文字が含まれていないか

KDCR20079-W

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブのドキュメント形式に誤りがあります。

説明

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブのドキュメント形式に誤りがあります。

対処

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブのドキュメント形式に、"SecondGenEDI", "JEDICOS-XML", "JEDICOS", "J Protocol", "Mutuality defined" のどれかを指定してください。

KDCR20080-W

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブのドキュメント形式とドキュメント種別が一致していません。

説明

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブのドキュメント形式とドキュメント種別が対応していません。

対処

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブのドキュメント形式に対応したドキュメント種別を指定してください。

KDCR20081-E

内部ファイルの読み込みでエラーが発生しました。インストール環境が壊れている可能性があるため、再インストールしてください。

説明

内部ファイルの内容が不正です。または内部ファイルが存在しません。

対処

環境が壊れているおそれがあるため、再インストールをしてください。

KDCR20082-E

ファイルの読み込み中に例外が発生しました。[簡易環境設定] 画面の起動を中止します。ファイル名 =[{0}] 例外要因 =[{1}]

{0} : 読み込みのファイル名

{1} : デバッグ情報

説明

ファイルの読み込み処理中に例外が発生しました。

対処

[簡易環境設定] 画面を再起動してください。それでも解決しない場合は、メッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR20083-E

クライアント共通定義ファイル，クライアント引数情報ファイル，または内部ファイルの書き込みに失敗しました。ファイル名 ={{0}} 例外要因 ={{1}}

{0} : 書き込みのファイル名

{1} : デバッグ情報

説明

ファイルの書き込み処理中に例外が発生しました。

対処

クライアント共通定義ファイル，クライアント引数情報ファイル，メッセージボックスに表示されたファイルの権限，およびファイルシステムを確認して再度実行してください。

それでも解決しない場合は、メッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR20084-W

[簡易環境設定] 画面は既に起動されています。

説明

[簡易環境設定] 画面が重複起動されました。

対処

すでに起動中の [簡易環境設定] 画面を用いて環境設定を実施してください。またはすでに起動中の [簡易環境設定] 画面を終了してください。

KDCR20085-E

[簡易環境設定] 画面で障害が発生しました。[簡易環境設定] 画面を終了します。例外要因 ={{0}}

{0} : デバッグ情報

説明

[簡易環境設定] 画面の起動または操作中に例外が発生しました。

対処

[簡易環境設定] 画面を再度実行し、環境設定を実施してください。それでも解決しない場合は、メッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR20086-E

[[0]] ファイルを長時間使用しているプロセスがあります。モジュール名=[[1]] 排他オブジェクト名=[[2]] タイムアウト値=[[3]]

{0} : ファイル名

{1} : モジュール名

{2} : 排他オブジェクト名

{3} : タイムアウト値

説明

[簡易環境設定] 画面の定義ファイルへの書き込み時に、排他解除待ちで時間を超過しました。

対処

ドキュメント送受信コマンドを終了させたあと、[簡易環境設定] 画面を再度実行し、環境設定を実施してください。

KDCR20087-I

指定した保存名は既に存在しています。指定した送信情報を上書きしますか？

説明

簡易環境設定 GUI の [送信情報の設定] 画面の保存名に、すでにある名称を指定しました。

対処

上書きする場合は、[はい] を選択してください。上書きしないで [簡易環境設定] 画面の [送信] タブに戻る場合は [いいえ] を選択してください。

KDCR20088-I

[[0]] は完全に削除されます。本当に削除しますか？

{0} : 削除する項目

説明

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブの送信情報一覧リストから項目を削除します。

対処

削除する場合は、[はい] を選択してください。削除しない場合は [いいえ] を選択してください。

KDCR20089-W

ネットワーク上のディレクトリは選択できません。ネットワーク上のディレクトリを選択する場合は、ディレクトリをネットワークドライブに設定してから、再度選択してください。

説明

[ディレクトリの指定] 画面でネットワーク上のディレクトリが選択されました。

対処

選択したディレクトリをネットワークドライブに設定してから、[ディレクトリの指定] 画面で選択してください。

KDCR20090-E

内部ファイルの読み込みでエラーが発生しました。送信情報が反映されていない [簡易環境設定] 画面を起動します。

説明

内部ファイルの内容に誤りがあります。

対処

CMS Light クライアントが環境不正であるおそれがあります。再インストール後、[簡易環境設定] 画面で送信情報を設定し直してください。

KDCR20091-E

[簡易環境設定] 画面で予期しない障害が発生しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}] スタックトレース =[{3}]

{0} : モジュール名

{1} : 例外名

{2} : 例外要因

{3} : スタックトレース

説明

[簡易環境設定] 画面の起動または操作中に例外が発生しました。

対処

[簡易環境設定] 画面を一度キャンセルして終了してください。ファイルシステムを見直したあと、[簡易環境設定] 画面を再度実行し、環境設定を実施してください。それでも解決しない場合は、メッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR20092-W

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP プロキシサーバの情報で設定に誤りがあります。要因 =[{0}]

{0} : 要因

説明

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP プロキシサーバの情報で設定に誤りがあります。

対処

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP プロキシサーバの情報でのポートに適切な数値を入力してください。

KDCR20093-W

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTPS プロキシサーバの情報で設定に誤りがあります。要因 ={{0}}

{0} : 要因

説明

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTPS プロキシサーバの情報で設定に誤りがあります。

対処

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTPS プロキシサーバの情報でのポートに適切な数値を入力してください。

KDCR20094-W

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブで、ドキュメント形式とドキュメント種別が指定されませんでした。ドキュメント形式とドキュメント種別を指定してください。

説明

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブでドキュメント形式とドキュメント種別が指定されませんでした。

対処

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブでドキュメント形式とドキュメント種別を同時に指定してください。

KDCR20095-W

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのクライアント URI に不正な文字が入力されていません。設定値 ={{0}}

{0} : クライアント URI に入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのクライアント URI にタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのクライアント URI にタブを除いた正しいデータを入力してください。

KDCR20096-W

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのクライアント ID に不正な文字が入力されていません。設定値 ={{0}}

{0} : クライアント ID に入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定] 画面の [アカウント] タブのクライアント ID にタブ文字が入力さ

れています。

対処

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのクライアントIDにタブを除いた正しいデータを入力してください。

KDCR20097-W

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのサーバURIに不正な文字が入力されています。設定値={0}

{0}:サーバURIに入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのサーバURIにタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのサーバURIにタブを除いた正しいデータを入力してください。

KDCR20098-W

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのサーバIDに不正な文字が入力されています。設定値={0}

{0}:サーバIDに入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのサーバIDにタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのサーバIDにタブを除いた正しいデータを入力してください。

KDCR20099-W

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのエンドポイントに不正な文字が入力されています。設定値={0}

{0}:エンドポイントに入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのエンドポイントにタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定]画面の[アカウント]タブのエンドポイントにタブを除いた正しいデータを入力してください。

KDCR20100-W

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP ベーシック認証情報のユーザ名に不正な文字が入力されています。設定値 =[{0}]

{0} : ユーザ名に入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP ベーシック認証情報のユーザ名にタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP ベーシック認証情報のユーザ名にタブを除いた正しいデータを入力してください。

KDCR20101-W

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP ベーシック認証情報のパスワードに不正な文字が入力されています。設定値 =[{0}]

{0} : パスワードに入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP ベーシック認証情報のパスワードにタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP ベーシック認証情報のパスワードにタブを除いた正しいデータを入力してください。

KDCR20102-W

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP プロキシサーバ情報のユーザ名に不正な文字が入力されています。設定値 =[{0}]

{0} : ユーザ名に入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP プロキシサーバ情報のユーザ名にタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP プロキシサーバ情報のユーザ名にタブを除いた正しいデータを入力してください。

KDCR20103-W

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTP プロキシサーバ情報のパスワードに不正な文字が入力されています。設定値 =[{0}]

{0} : パスワードに入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブのHTTPプロキシサーバ情報のパスワードにタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブのHTTPプロキシサーバ情報のパスワードにタブを除いた正しいデータを入力してください。

KDCR20104-W

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブのHTTPプロキシサーバ情報のアドレスに不正な文字が入力されています。設定値={0}

{0}: アドレスに入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブのHTTPプロキシサーバ情報のアドレスにタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブのHTTPプロキシサーバ情報のアドレスにタブを除いた正しいデータを入力してください。

KDCR20105-W

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブのHTTPSプロキシサーバ情報のユーザ名に不正な文字が入力されています。設定値={0}

{0}: ユーザ名に入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブのHTTPSプロキシサーバ情報のユーザ名にタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブのHTTPSプロキシサーバ情報のユーザ名にタブを除いた正しいデータを入力してください。

KDCR20106-W

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブのHTTPSプロキシサーバ情報のパスワードに不正な文字が入力されています。設定値={0}

{0}: パスワードに入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブのHTTPSプロキシサーバ情報のパスワードにタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブのHTTPSプロキシサーバ情報のパスワードにタブを除いた正しいデータを入力してください。

KDCR20107-W

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTPS プロキシサーバ情報のアドレスに不正な文字が入力されています。設定値 =[{0}]

{0} : アドレスに入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTPS プロキシサーバ情報のアドレスにタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定] 画面の [セキュリティ] タブの HTTPS プロキシサーバ情報のアドレスにタブを除いた正しいデータを入力してください。

KDCR20108-W

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブに入力されたドキュメント種別に不正な文字が入力されています。設定値 =[{0}]

{0} : ドキュメント種別に入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブのドキュメント種別にタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブのドキュメント種別にタブ文字を除いた正しいデータを 255 バイト以内で入力してください。

KDCR20109-W

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブに入力されたドキュメント圧縮形式に不正な文字が入力されています。設定値 =[{0}]

{0} : ドキュメント圧縮形式に入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブのドキュメント圧縮形式にタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定] 画面の [送信] タブのドキュメント圧縮形式にタブ文字を除いた正しいデータを 255 バイト以内で入力してください。

KDCR20110-W

ネットワーク上のファイルは選択できません。ネットワーク上のファイルを選択する場合は、ファイルを含むディレクトリをネットワークドライブに設定してから、再度選択してください。

説明

各画面で選択したファイルの指定先に、ネットワーク上のファイルが選択されてい

ます。

対処

選択したファイルを含むディレクトリをネットワークドライブに設定してから、ファイルの指定先に選択してください。

KDCR20111-W

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブのクライアント認証の情報の証明書ファイルに指定した内容に誤りがあります。絶対パスを正しく指定してください。ファイル={0}

{0}: 証明書ファイルに入力した設定値

説明

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブの証明書ファイルに設定した、クライアント証明書のファイルパスに誤りがあります。

対処

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブの証明書ファイルに、正しいクライアント証明書ファイルパスを入力してください。

KDCR20112-W

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブのクライアント認証の情報の証明書ファイルに不正な文字が入力されています。絶対パスを正しく指定してください。ファイル={0}

{0}: 証明書ファイルに入力した設定値

説明

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブの証明書ファイルに、タブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定]画面の[セキュリティ]タブの証明書ファイルに、タブ文字を除いた正しいデータを入力してください。

KDCR20113-E

内部ファイルの読み込みでエラーが発生しました。受信条件が反映されていない[簡易環境設定]画面を起動します。

説明

内部ファイルの内容に誤りがあります。

対処

CMS Light クライアントが環境不正であるおそれがあります。再インストール後、[簡易環境設定]画面で受信条件を設定し直してください。

KDCR20114-W

受信条件の保存名が入力されていません。

説明

9. メッセージ

簡易環境設定 GUI の [受信条件の設定] 画面の受信条件の保存名が入力されていません。

対処

[受信条件の設定] 画面の受信条件の保存名にデータを入力してください。

KDCR20115-W

[簡易環境設定] 画面の [受信] タブに入力された受信条件の保存名が 64 バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定] 画面の [受信] タブの受信条件の保存名に入力された値が 64 バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定] 画面の [受信] タブの受信条件の保存名に 64 バイト以内で入力してください。

KDCR20116-W

受信条件設定画面に入力された受信条件の保存名に誤りがあります。指定した保存名 ={{0}}
{0} : 指定した保存名

説明

[簡易環境設定] 画面の [受信] タブに入力された受信条件の保存名に使用できない文字列が含まれています。

対処

[簡易環境設定] 画面の [受信] タブの受信条件の保存名に使用できる文字列を入力してください。

KDCR20117-I

指定した保存名は既に存在しています。指定した受信条件を上書きしますか？

説明

簡易環境設定 GUI の [受信条件の設定] 画面の保存名に、すでにある名称を指定しました。

対処

上書きする場合は、[はい] を選択してください。上書きしないで [簡易環境設定] 画面の [受信] タブに戻る場合は [いいえ] を選択してください。

KDCR20118-W

[簡易環境設定] 画面の [受信] タブのドキュメント形式に誤りがあります。

説明

[簡易環境設定] 画面の [受信] タブのドキュメント形式に誤りがあります。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブのドキュメント形式に,"SecondGenEDI", "JEDICOS-XML", "JEDICOS", "J Protocol", "Mutuality defined"のどれかを指定してください。

KDCR20119-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブのドキュメント形式とドキュメント種別が一致していません。

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブのドキュメント形式とドキュメント種別が対応していません。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブのドキュメント形式に対応したドキュメント種別を指定してください。

KDCR20120-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブに入力されたドキュメント種別が255バイトを超えています。

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブのドキュメント種別に入力された値が255バイトを超えました。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブのドキュメント種別に255バイト以内で入力してください。

KDCR20121-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブに入力されたドキュメント種別に不正な文字が入力されています。設定値={0}

{0}: ドキュメント種別に入力されていた設定値

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブのドキュメント種別にタブ文字が入力されています。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブのドキュメント種別にタブ文字を除いた正しいデータを255バイト以内で入力してください。

KDCR20122-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブでドキュメント形式を指定した場合は、ドキュメント種別を選択してください。

9. メッセージ

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブでドキュメント形式が指定されましたが、ドキュメント種別が指定されませんでした。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブで、ドキュメント形式とドキュメント種別の両方を指定してください。

KDCR20123-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブでドキュメント種別を指定した場合は、ドキュメント形式を選択してください。

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブでドキュメント種別が指定されましたが、ドキュメント形式が指定されませんでした。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブで、ドキュメント形式とドキュメント種別の両方を指定してください。

KDCR20124-W

[簡易環境設定]画面の[受信]タブで、ドキュメント形式とドキュメント種別が指定されませんでした。ドキュメント形式とドキュメント種別を指定してください。

説明

[簡易環境設定]画面の[受信]タブでドキュメント形式とドキュメント種別が指定されませんでした。

対処

[簡易環境設定]画面の[受信]タブでドキュメント形式とドキュメント種別を同時に指定してください。

KDCR20125-W

クライアント引数情報ファイルに設定されている内容に誤りがあります。誤りが発生した引数情報ファイルに対応する受信条件の内容を破棄して、すべての内容をデフォルトに置き換えて起動しますか？ クライアント引数情報ファイル={0} 最初に見つかった誤った箇所={1}

{0}：クライアント引数情報ファイルのファイル名

{1}：クライアント引数情報ファイルに設定された情報で、最初に見つかった不正箇所

説明

簡易環境設定 GUI を起動した際、読み込んだクライアント引数情報ファイルの内容に誤りがありました。

対処

デフォルトに置き換えて簡易環境設定 GUI を起動する場合は、[はい]を選択してください。簡易環境設定 GUI を起動しない場合は[いいえ]を選択してください。

9.5 KDCR80000 ~ KDCR89999 (履歴表示 GUI のメッセージ)

KDCR80001-E

インストールディレクトリが取得できません。モジュール名 ={{0}}

{{0}} : このエラーが発生したモジュール名称

説明

CMS Light クライアントをインストールした際に設定した、レジストリキー以下にあるインストールディレクトリ情報の取得に失敗しました。

対処

CMS Light クライアントを再インストールしてください。それでも解決しない場合は、メッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR80002-W

伝送履歴ファイル名に誤りがあります。ファイル名 ={{0}}

{{0}} : 指定されたファイル名称

説明

指定された伝送履歴ファイル名に誤りがあります。考えられる要因を次に示します。

- ディレクトリ名やデバイスファイル名である
- 存在しないファイルである
- 読み取り権限がないファイルである

対処

読み取り権限がある、正しい伝送履歴ファイル名を指定してください。

KDCR80004-E

伝送履歴ファイルのオープンに失敗しました。モジュール名 ={{0}} 詳細コード ={{1}}

{{0}} : このエラーが発生したモジュール名称

{{1}} : このエラーの詳細コード

説明

伝送履歴ファイルのオープンに失敗しました。

対処

ファイルシステムを見直してください。それでも解決しない場合は、メッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR80005-W

伝送履歴情報はありません。

9. メッセージ

説明

伝送履歴ファイルが 0 バイトファイルでした。

対処

伝送履歴ファイルに伝送履歴が記録されたあとで、再度実行してください。

KDCR80006-E

伝送履歴ファイルサイズの取得に失敗しました。モジュール名 =[{0}] 詳細コード =[{1}]

{0} : このエラーが発生したモジュール名称

{1} : このエラーの詳細コード

説明

伝送履歴ファイルサイズの取得に失敗しました。

対処

ファイルシステムを見直してください。それでも解決しない場合は、メッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR80007-E

メモリの確保に失敗しました。モジュール名 =[{0}] バイト数 =[{1}]

{0} : このエラーが発生したモジュール名称

{1} : 確保しようとした領域サイズ

説明

主記憶領域の確保ができませんでした。

対処

不要なプロセス、サービスを終了してください。

設定されている最大履歴保存件数が大き過ぎるおそれがあるため、最大履歴保存件数を減らしてください。

搭載しているメモリ容量を確認し、必要であればメモリを増設してください。

それでも解決しない場合は、メッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR80008-E

伝送履歴情報の取得に失敗しました。モジュール名 =[{0}] 詳細コード =[{1}]

{0} : このエラーが発生したモジュール名称

{1} : このエラーの詳細コード

説明

伝送履歴ファイルから伝送履歴情報の読み込みに失敗しました。

対処

ファイルシステムを見直してください。それでも解決しない場合は、メッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR80009-E

該当する伝送履歴情報がありません。モジュール名 ={{0}} 伝送番号 ={{1}}

{{0}}：このエラーが発生したモジュール名称

{{1}}：該当する伝送番号

説明

読み込んだ伝送履歴情報の中に、該当する伝送番号を持つエントリはありません。

対処

メッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR80010-W

環境設定プログラム、または履歴表示プログラムは既に起動されています。モジュール名 ={{0}}

付加情報 1 ={{1}} 付加情報 2 ={{2}} 付加情報 3 ={{3}}

{{0}}：この警告が発生したモジュール名称

{{1}}：保守情報

{{2}}：保守情報

{{3}}：保守情報

説明

環境設定プログラムと履歴表示プログラム、複数の環境設定プログラム、複数の履歴表示プログラムを同時に起動しようとした。

対処

すでに起動中の環境設定プログラム、または履歴表示プログラムを終了してください。

KDCR80011-E

プロセス排他ハンドルの操作に失敗しました。モジュール名 ={{0}} 操作種別 ={{1}} 付加情報

1 ={{2}} 付加情報 2 ={{3}} 付加情報 3 ={{4}}

{{0}}：このエラーが発生したモジュール名称

{{1}}：プロセス排他ハンドルの操作種別

{{2}}：保守情報

{{3}}：保守情報

{{4}}：保守情報

説明

プロセス排他ハンドルの操作に失敗しました。

対処

特に対処しなくても運用上支障はありませんが、この現象が頻繁に発生する場合は、メッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR80012-E

ファイル排他ハンドルの操作に失敗しました。モジュール名 =[{0}] 操作種別 =[{1}] 付加情報 1 =[{2}] 付加情報 2 =[{3}] 付加情報 3 =[{4}]

- {0} : このエラーが発生したモジュール名称
- {1} : ファイル排他ハンドルの操作種別
- {2} : 保守情報
- {3} : 保守情報
- {4} : 保守情報

説明

ファイル排他ハンドルの操作に失敗しました。

対処

メッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR80998-E

プロセスの初期化に失敗しました。モジュール名 =[{0}] 操作種別 =[{1}] 付加情報 1 =[{2}] 付加情報 2 =[{3}] 付加情報 3 =[{4}]

- {0} : このエラーが発生したモジュール名称
- {1} : 該当するライブラリの操作種別
- {2} : 保守情報
- {3} : 保守情報
- {4} : 保守情報

説明

該当するアプリケーション実行に必要なライブラリが発見できません。または、ライブラリ内容に誤りがあります。

対処

メッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR81001-E

レジストリ情報が破損しています。モジュール名 =[{0}] キー名 =[{1}]

- {0} : このエラーが発生したモジュール名称
- {1} : 該当するレジストリキー名称

説明

CMS Light クライアントをインストールした際に設定したレジストリキー以下にある伝送履歴ファイル情報の取得に失敗しました。

対処

CMS Light クライアントを再インストールしてください。それでも解決しない場合

は、ログファイル、またはメッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR81002-E

レジストリの値に誤りがあります。モジュール名 ={{0}} キー名 ={{1}} 項目値 ={{2}}

{0} : このエラーが発生したモジュール名称

{1} : 該当するレジストリキー名称

{2} : 該当するレジストリ項目値

説明

該当するレジストリキー下のレジストリ項目値が設定範囲外です。

対処

CMS Light クライアントを再インストールしてください。それでも解決しない場合は、ログファイル、またはメッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR81003-E

内部矛盾が発生しました。モジュール名 ={{0}} 矛盾種別 ={{1}} 付加情報 1 ={{2}} 付加情報 2 ={{3}}

{0} : このエラーが発生したモジュール名称

{1} : 発生した矛盾種別

{2} : 保守情報

{3} : 保守情報

説明

内部矛盾が発生しました。

対処

ログファイル、またはメッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR81004-E

伝送履歴ファイルが壊れています。モジュール名 ={{0}} ファイル名 ={{1}}

{0} : このエラーが発生したモジュール名称

{1} : 該当する伝送履歴ファイル名称

説明

伝送履歴ファイルが所定のフォーマットではありません。

対処

壊れた伝送履歴ファイルは修復できないため、伝送履歴ファイルを削除してください。

KDCR81005-I

作業用の伝送履歴ファイルはすでに存在します。上書きしますか？ 作業用伝送履歴ファイル名 ={{0}}

{{0}}：該当する作業用伝送履歴ファイル名称

説明

伝送履歴ファイルの再編成処理で作業用伝送履歴ファイルを使用しましたが、伝送履歴ディレクトリにすでに同じ名称のファイルがありました。

対処

[はい] か [いいえ] を選択してください。[はい] を選択した場合は、既存の作業用伝送履歴ファイルを上書きして処理が続行されます。[いいえ] を選択した場合は、処理が中断します。

KDCR81006-I

今回の環境設定変更はキャンセルされました。あらかじめ、作業用の伝送履歴ファイルを削除することを推奨します。作業用伝送履歴ファイル名 ={{0}}

{{0}}：該当する作業用伝送履歴ファイル名称

説明

メッセージ KDCR81005-I で、[はい] を選択しませんでした。

対処

メッセージに従ってください。

KDCR81008-E

伝送履歴ファイルのファイルオフセット位置の変更に失敗しました。モジュール名 ={{0}} ファイルオフセット値 1 ={{1}} ファイルオフセット値 2 ={{2}}

{{0}}：このエラーが発生したモジュール名称

{{1}}：本来のファイルオフセット値

{{2}}：実際のファイルオフセット値

説明

伝送履歴ファイルのファイルオフセット位置の変更に失敗しました。

対処

ファイルシステムを見直してください。それでも解決しない場合は、ログファイル、またはメッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR81009-E

伝送履歴ファイルを長時間使用しているプロセスがあります。モジュール名 ={{0}} 排他オブジェクト名 ={{1}} タイムアウト値 ={{2}}

{{0}}：このエラーが発生したモジュール名称

{1} : 保守情報

{2} : 該当するプログラムで想定している最大待機時間 (ミリ秒)

説明

伝送履歴ファイルにアクセスするためのプロセス間排他制御が所定時間経過しても解除されませんでした。

対処

しばらく待ってから再試行してください。

KDCR81010-E

レジストリの値がありません。モジュール名 =[{0}] キー名 =[{1}] 項目名 =[{2}]

{0} : このエラーが発生したモジュール名称

{1} : 該当するレジストリキー名称

{2} : 該当するレジストリ項目名

説明

該当するレジストリキー下に指定されたレジストリ項目名はありませんでした。または、レジストリ項目名の属性に誤りがあります。

対処

CMS Light クライアントを再インストールしてください。それでも解決しない場合は、ログファイル、またはメッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR81011-E

伝送履歴ファイルの読み込みに失敗しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}]
スタックトレース =[{3}]

{0} : このエラーが発生したモジュール名称

{1} : 保守情報

{2} : 保守情報

{3} : 保守情報

説明

伝送履歴ファイルの読み込み処理に失敗しました。

対処

ファイルシステムを見直してください。それでも解決しない場合は、ログファイル、またはメッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR81012-E

伝送履歴ファイルの書き込みに失敗しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}]
スタックトレース =[{3}]

{0} : このエラーが発生したモジュール名称

9. メッセージ

{1} : 保守情報

{2} : 保守情報

{3} : 保守情報

説明

伝送履歴ファイルの書き込み処理に失敗しました。

対処

ファイルシステムを見直してください。それでも解決しない場合は、ログファイル、またはメッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR81013-E

伝送履歴ファイルの削除に失敗しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}] スタックトレース =[{3}]

{0} : このエラーが発生したモジュール名称

{1} : 保守情報

{2} : 保守情報

{3} : 保守情報

説明

伝送履歴ファイルの削除処理に失敗しました。

対処

ファイルシステムを見直してください。それでも解決しない場合は、ログファイル、またはメッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR81014-E

伝送履歴ファイルの移動に失敗しました。モジュール名 =[{0}] 例外名 =[{1}] 例外要因 =[{2}] スタックトレース =[{3}]

{0} : このエラーが発生したモジュール名称

{1} : 保守情報

{2} : 保守情報

{3} : 保守情報

説明

伝送履歴ファイルの移動処理に失敗しました。

対処

ファイルシステムを見直してください。それでも解決しない場合は、ログファイル、またはメッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR81015-I

伝送履歴ファイルの再編成処理が終了しました。

説明

伝送履歴ファイルの再編成処理が終了しました。

KDCR81016-W

伝送履歴管理情報が不整合になっているため、修復します。修復項目 ={{0}} 修復前値 ={{1}} 修復後値 ={{2}}

{{0}}：不整合のおそれがある伝送履歴管理情報

{{1}}：修復前の伝送履歴管理情報の値

{{2}}：修復後の伝送履歴管理情報の値

説明

伝送履歴ファイルに出力された伝送履歴情報と、CMS Light クライアントが内部で保持する、伝送履歴情報を管理するための情報との間に不整合があります。

対処

不整合は自動修復されるため、特に対処しなくても運用上支障はありません。

この現象が頻繁に発生する場合は、ログファイル、またはメッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR81998-E

予期しない障害が発生しました。モジュール名 ={{0}} 付加情報 ={{1}} 例外名 ={{2}} 内部例外名 ={{3}} スタックトレース ={{4}}

{{0}}：このエラーが発生したモジュール名称

{{1}}：保守情報

{{2}}：保守情報

{{3}}：保守情報

{{4}}：保守情報

説明

該当するプログラムで想定していないエラーが発生しました。

対処

ログファイル、またはメッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR81999-E

一次障害処理中に二次障害が発生しました。モジュール名 ={{0}} メッセージ ID ={{1}} 例外名 ={{2}} 内部例外名 ={{3}} スタックトレース ={{4}}

{{0}}：このエラーが発生したモジュール名称

{{1}}：保守情報

9. メッセージ

{2} : 保守情報

{3} : 保守情報

{4} : 保守情報

説明

該当するプログラムで障害発生を検出しましたが、それに対応するメッセージ ID が用意されていません。

対処

ログファイル、またはメッセージボックスに表示されたこのメッセージを取得してから、保守員に連絡してください。

KDCR82001-I

伝送履歴の出力が完了しました。伝送番号 =[{0}]

{0} : 該当する伝送番号

説明

1 件の伝送履歴を伝送履歴ファイルに出力しました。

KDCR82002-W

伝送履歴を出力する設定になっていません。

説明

最大履歴保存件数が 0 に設定されています。

対処

伝送履歴を伝送履歴ファイルに出力したい場合には、環境設定プログラムを起動して最大履歴保存件数に 0 でない値を設定してください。

KDCR82003-E

ディレクトリの代わりにファイルが存在します。モジュール名 =[{0}] ファイル名 =[{1}]

{0} : このエラーが発生したモジュール名称

{1} : 該当するファイル名称

説明

伝送履歴ファイル格納ディレクトリがなく、伝送履歴ファイル格納ディレクトリと同じ名称のファイルがあります。

対処

該当するファイルを移動、または削除してください。

KDCR82004-E

ファイルの代わりにディレクトリが存在します。モジュール名 =[{0}] ディレクトリ名 =[{1}]

{0} : このエラーが発生したモジュール名称

{1} : 該当するディレクトリ名称

説明

伝送履歴ファイルがなく、伝送履歴ファイルと同じ名称のディレクトリがあります。

対処

該当するディレクトリを移動、または削除してください。

付録

付録 A 接続先サーバと SSL 通信をするための手順

付録 B Windows Vista を使用する際の注意事項

付録 C 用語解説

付録 A 接続先サーバと SSL 通信をするための手順

SSL サーバ認証を使用する場合

接続先サーバと SSL 通信をするためには、自マシンに、接続先サーバを認証する CA 証明書または CA 証明書チェーン（以降、接続先サーバの CA 証明書と呼びます）が必要になります。接続先サーバの CA 証明書を取得し、自マシンにインストールしてください。

接続先サーバの CA 証明書を取得する方法、および接続先サーバの CA 証明書をインストールする方法については、接続先サーバのシステム管理者にお問い合わせください。

なお、接続先サーバの CA 証明書の有効期限が切れた場合は、新たな CA 証明書を再取得し、インストールし直す必要があります。

SSL クライアント認証を使用する場合

SSL クライアント認証を使用する場合、自マシンに、クライアント証明書、およびクライアント証明書を認証する CA 証明書または CA 証明書チェーン（以降、クライアント証明書を認証する CA 証明書と呼びます）が必要になります。クライアント証明書、およびクライアント証明書を認証する CA 証明書を取得し、自マシンにインストールしてください。

クライアント証明書、およびクライアント証明書を認証する CA 証明書を取得する方法、およびインストールの方法については、接続先サーバのシステム管理者にお問い合わせください。

クライアント証明書、およびクライアント証明書を認証する CA 証明書のインストールをしたあと、インストールしたクライアント証明書から、DER エンコードでエクスポートした X.509 形式のクライアント証明書ファイルを作成してください。証明書のエクスポートの方法については、OS のドキュメントを参照してください。

SSL クライアント認証を使用する場合は、必ず SSL サーバ認証も設定してください。

なお、クライアント証明書、またはクライアント証明書を認証する CA 証明書の有効期限が切れた場合は、新たな証明書を再取得し、インストールし直す必要があります。

付録 B Windows Vista を使用する際の注意事項

Windows Vista を使用する際、次の CMS Light クライアントの機能は、管理者権限無しで実行できます。

伝送実行の簡易環境設定

コマンドでのドキュメントの送受信

伝送履歴の環境設定

伝送履歴の履歴表示

これらの機能は必要に応じて管理者権限で実行することもできますが、どれか一つの機能を管理者権限で実行した場合は、ほかの機能も必ず管理者権限で実行してください。

また、操作に管理者権限が不要なディレクトリに CMS Light クライアントをインストールした場合に、各種ログの出力先、または送受信ファイルの格納先に操作に管理者権限が必要なディレクトリを指定するときは、次のどちらかの操作をしてください。

各種ログの出力先、または送受信ファイルの格納先に指定するディレクトリに、適切なアクセス権限を設定する

伝送実行の簡易環境設定、コマンドでのドキュメントの送受信、伝送履歴の環境設定、および伝送履歴の履歴表示の各機能を管理者権限で実行する

付録 C 用語解説

(英字)

C-S 型メッセージ交換手順

財団法人流通システム開発センターが開発するクライアント・サーバ間のメッセージ交換手順です。流通業界での EDI の標準規格である JEDICOS-XML で制定されています。

大手小売企業（サーバ企業）が提供するサーバへ取引先の企業（クライアント企業）が接続して、データのアップロード、ダウンロードをするようなモデルで使用されます。

HTTP ベーシック認証

ユーザー ID およびパスワードを平文で送信して認証させる、HTTP プロトコルでの最も簡易な認証方式です。

JEDICOS-XML

財団法人流通システム開発センターが制定した XML-EDI 標準です。国内の流通業界向けの EDI 標準である JEDICOS をベースに、国際標準である UN/EDIFACT に準拠して、かつ日本独自の商習慣に対応するように制定されています。

SOAP Fault メッセージ

SOAP メッセージの処理中に発生したエラーを記述するための SOAP メッセージです。

SOAP エンベロープ

SOAP メッセージの要素です。メッセージのいちばん外側の要素で、SOAP ヘッダと SOAP ボディという子要素を持ちます。

SOAP ヘッダ

SOAP メッセージの要素です。SOAP ヘッダでは、メッセージ処理のあて先の指定、およびメッセージ処理が必須かどうかの指定をします。

SOAP ボディ

SOAP メッセージの要素です。SOAP ボディに送信するメッセージの内容を記述します。

SOAP メッセージ

SOAP プロトコルでオブジェクト間の送受信に使用するメッセージです。SOAP メッセージは、SOAP エンベロープ、SOAP ヘッダ、および SOAP ボディという要素で構成されます。

uCosminexus Message Service Client Light for ebXML (CMS Light クライアント)

uCosminexus Message Service Client Light for ebXML (CMS Light クライアント) は、C-S 型メッセージ交換手順に準拠した電子商取引をするために、クライアント企業が導入する製品です。ドキュメントの送受信、送受信履歴の表示などの機能を提供します。

(ア行)

暗号化通信

証明書および公開鍵暗号技術に基づいて、通信を暗号化してデータを送信する技術です。

(カ行)

簡易環境設定 GUI

ドキュメントの送受信用のバッチファイルを生成する GUI ソフトウェアです。アカウント、ログ、セキュリティ、受信、および送信の設定を行います。

(タ行)

ドキュメント

取引データです。ユーザーはサーバに送付したいドキュメントのドキュメント形式などを選択できます。

(ラ行)

履歴表示 GUI

送受信を行ったドキュメント情報の履歴を表示する GUI ソフトウェアです。ドキュメントの送受信状態、識別子などの情報を参照できます。

索引

記号

- [簡易環境設定] 画面に関する注意事項 18
- [簡易環境設定] 画面の各タブに共通する項目 18
- [簡易環境設定] 画面を使用する前に 18

A

- ACCOUNT 56
- AUTH_ID [オーサー情報] 56
- AUTH_PASSWORD [HTTP ベーシック認証情報] 57
- AUTH_PASSWORD [トランスポート情報] 57
- AUTH_USER [HTTP ベーシック認証情報] 57
- AUTH_USER [トランスポート情報] 57
- AUTHOR 56

B

- BASIC 57

C

- C-S 型メッセージ交換手順 2
- C-S 型メッセージ交換手順 [用語解説] 174
- CERTIFICATE_FILE 58
- CLIENT_URI [アカウント情報] 56
- CLIENTCERTIFICATE 58
- CMS Light クライアント 2
- CMS Light クライアントとは 2
- CMS Light クライアントの URI 56
- CMS Light クライアントの概要 1
- CMS Light クライアントの機能 4
- CMS Light クライアントの特長 3
- COMPRESS_TYPE 64
- CONFIRM_RETRIES 70
- CONFIRM_RETRY_INTERVAL 71

D

- DIR_PATH [エラーログの出力設定] 58
- DIR_PATH [通信ログの出力設定] 59
- DIR_PATH [トレースログの出力設定] 58
- DOCUMENT_TYPE 64, 69

E

- ENDPOINT [アカウント情報] 56
- ERROR_LOG 58

F

- FILE_SIZE_MAX_VALUE [エラーログの出力設定] 58
- FILE_SIZE_MAX_VALUE [通信ログの出力設定] 59
- FILE_SIZE_MAX_VALUE [トレースログの出力設定] 58
- FORMAT_TYPE 63, 69

G

- GET_RETRIES 70
- GET_RETRY_INTERVAL 70
- GETDOCUMENT [クライアント共通定義ファイル] 55
- GETDOCUMENT [クライアント引数情報ファイル] 68
- GUI 実行時のトラブルシュート 89

H

- HSRCMessageService -mode=receive 83
- HSRCMessageService -mode=send 78
- HTTPS プロキシアドレス 57
- HTTPS プロキシサーバの情報 25
- HTTPS プロキシ認証パスワード 57
- HTTPS プロキシ認証ユーザー 57
- HTTPS プロキシポート 57
- HTTP プロキシアドレス 56
- HTTP プロキシサーバの情報 24

HTTP プロキシ認証パスワード 57
HTTP プロキシ認証ユーザー 57
HTTP プロキシポート 57
HTTP ベーシック認証〔用語解説〕 174
HTTP ベーシック認証情報 57
HTTP ベーシック認証の情報 23
HTTP ベーシック認証パスワード 57
HTTP ベーシック認証ユーザー 57

J

JEDICOS-XML〔用語解説〕 174

M

MESSAGE_LOG 59

O

OUTPUT_FILE_MAX_VALUE〔エラーログの出力設定〕 58
OUTPUT_FILE_MAX_VALUE〔通信ログの出力設定〕 59
OUTPUT_FILE_MAX_VALUE〔トレースログの出力設定〕 58

P

PARTNER 56
PARTNER_ID〔パートナー情報〕 56
PROXY_ADDRESS〔トランスポート情報〕 56
PROXY_PORT〔トランスポート情報〕 57
PUT_RETRIES 65
PUT_RETRY_INTERVAL 65
PUTDOCUMENT〔クライアント共通定義ファイル〕 55
PUTDOCUMENT〔クライアント引数情報ファイル〕 63

R

RECEIVE_ERROR_DIR 69
RECEIVE_FILE_MAX_NUM 69
RECEIVE_FILE_NAME_n 70
RECEIVE_SUCCESS_DIR 69

RECEIVER_ID 63
RECEIVER_ID〔ドキュメント受信コマンドを使用する場合〕 69

S

SEND_DATA 64
SEND_ERROR_DIR 64
SEND_FILE_MAX_NUM 64
SEND_FILE_MAX_SIZE 64
SEND_FILE_NAME_n 65
SEND_SUCCESS_DIR 64
SENDER_ID 63
SERVER_URI〔アカウント情報〕 56
SOAP Fault メッセージ〔用語解説〕 174
SOAP エンベロープ〔用語解説〕 174
SOAP ヘッダ〔用語解説〕 174
SOAP ボディ〔用語解説〕 174
SOAP メッセージ〔用語解説〕 174
SSL_AUTH_PASSWORD〔トランスポート情報〕 57
SSL_AUTH_USER〔トランスポート情報〕 57
SSL_PROXY_ADDRESS〔トランスポート情報〕 57
SSL_PROXY_PORT〔トランスポート情報〕 57
SSL クライアント認証情報 58

T

TRACE_LOG 58
TRANSPORT 56

U

uCosminexus Message Service Client Light for ebXML (CMS Light クライアント)〔用語解説〕 174

W

Windows Vista を使用する場合の注意事項 173

X

XML 形式で直接記述できない文字を使いたい場合 53

あ

アカウント情報 56
 アカウントの設定をする 19
 暗号化通信〔用語解説〕 175

え

エラーログの出力設定 58
 エラーログの情報 22
 エラーログファイル数 58
 エラーログファイルの最大サイズ 58
 エラーログファイル保存先ディレクトリ 58

お

オーサー情報 56
 オプション 75
 オプション〔コマンドの説明で使用する見出し〕 74
 オプション〔ドキュメント受信コマンド〕 83
 オプション〔ドキュメント送信コマンド〕 78

か

簡易環境設定 GUI 15
 簡易環境設定 GUI〔用語解説〕 175
 簡易環境設定 GUI と履歴表示 GUI を操作する手順 9
 簡易環境設定 GUI の画面 16

き

機能〔コマンドの説明で使用する見出し〕 74
 機能〔ドキュメント受信コマンド〕 83
 機能〔ドキュメント送信コマンド〕 78

く

クライアント ID 56
 クライアント共通定義ファイル 55

クライアント共通定義ファイルで定義できる
 コンテナー一覧 55
 クライアント証明書ファイル 58
 クライアント証明書を認証する CA 証明書
 172
 クライアント認証の情報 24
 クライアントの情報 19
 クライアント引数情報ファイル 62

け

形式〔クライアント共通定義ファイル〕 55
 形式〔クライアント引数情報ファイル(ド
 キュメント受信コマンドを使用する場合)〕
 68
 形式〔クライアント引数情報ファイル(ド
 キュメント送信コマンドを使用する場合)〕
 62
 形式〔コマンドの説明で使用する見出し〕 74
 形式〔ドキュメント受信コマンド〕 83
 形式〔ドキュメント送信コマンド〕 78

こ

コマンド 73
 コマンド一覧 77
 コマンド実行時のトラブルシュート 89
 コマンドの説明で使用する見出し 74
 コマンドの操作でドキュメントを送受信した
 あとの確認手順 49
 コマンドの操作でドキュメントを送受信する
 までの手順 48
 コマンドの入力形式 74
 コマンド名称 74
 コマンドを使用してドキュメントを送受信す
 る手順 47
 コマンドを使用する前に 74

さ

サーバ ID 56
 サーバの管理者に問い合わせる場合に必要な
 資料 94
 サーバの情報 20
 最大履歴保存件数を設定する 38

し

実行例〔コマンドの説明で使用する見出し〕 74

実行例〔ドキュメント受信コマンド〕 85

実行例〔ドキュメント送信コマンド〕 82

受信失敗ファイルの格納ディレクトリパス 69

受信済みファイルの名称規則 70

受信成功ファイルの格納ディレクトリパス 69

受信の詳細を設定する 29

受信の設定をする 27

せ

セキュリティ通信 6

セキュリティの設定をする 23

接続先サーバと SSL 通信をするための手順 172

接続先サーバの CA 証明書 172

接続先サーバの URI 56

接続先サーバのエンドポイント 56

そ

送受信の成功・失敗の確認をする 43

送信失敗ディレクトリパス 64

送信済みファイルの名称規則 65

送信成功ディレクトリパス 64

送信の詳細を設定する 33

送信の設定をする 32

送信ファイルの最大データサイズ 64

送信ファイルのパス 64

ち

注意事項〔コマンドの説明で使用する見出し〕 74

注意事項〔ドキュメント受信コマンド〕 85

注意事項〔ドキュメント送信コマンド〕 82

つ

通信ログの出力設定 59

通信ログの情報 22

通信ログファイル数 59

通信ログファイルの最大サイズ 59

通信ログファイル保存先ディレクトリ 59

て

定義できるキー 56

定義できるキー〔クライアント引数情報ファイル(ドキュメント受信コマンドを使用する場合)〕 68

定義できるキー〔クライアント引数情報ファイル(ドキュメント送信コマンドを使用する場合)〕 63

定義できるコンテナ 55

定義できるコンテナ〔クライアント引数情報ファイル(ドキュメント受信コマンドを使用する場合)〕 68

定義できるコンテナ〔クライアント引数情報ファイル(ドキュメント送信コマンドを使用する場合)〕 63

定義ファイル 51

定義ファイル一覧 52

定義ファイルに使用できない文字 54

定義ファイルの記述形式 53

定義ファイルの基本構成 53

定義ファイルの形式 53

定義例〔クライアント共通定義ファイル〕 60

定義例〔クライアント引数情報ファイル(ドキュメント受信コマンドを使用する場合)〕 71

定義例〔クライアント引数情報ファイル(ドキュメント送信コマンドを使用する場合)〕 67

と

問い合わせに必要な資料 94

ドキュメント〔用語解説〕 175

ドキュメント圧縮形式 64

ドキュメント形式 63, 69

ドキュメント受信コマンド 83

ドキュメント受信コマンドの引数情報〔クライアント共通定義ファイル〕 55

ドキュメント受信コマンドの引数情報〔クライアント引数情報ファイル〕 68
ドキュメント受信コマンドを使用する場合 68
ドキュメント受信者識別子 63
ドキュメント受信者識別子〔ドキュメント受信コマンドを使用する場合〕 69
ドキュメント受信の最大数 69
ドキュメント受信のリトライ回数 70
ドキュメント受信のリトライ間隔 70
ドキュメント取得通知のリトライ回数 70
ドキュメント取得通知のリトライ間隔 71
ドキュメント種別 64, 69
ドキュメント送受信履歴の表示 6
ドキュメント送信コマンド 78
ドキュメント送信コマンドの引数情報〔クライアント共通定義ファイル〕 55
ドキュメント送信コマンドの引数情報〔クライアント引数情報ファイル〕 63
ドキュメント送信コマンドを使用する場合 62
ドキュメント送信者識別子 63
ドキュメント送信の最大数 64
ドキュメント送信のリトライ回数 65
ドキュメント送信のリトライ間隔 65
ドキュメントの受信 5
ドキュメントの送信 4
ドキュメントを送受信したあとの確認手順 12
ドキュメントを送受信するまでの手順 10
トラブルシュート 87
トラブルシュートの手順 88
トランスポート情報 56
トレースログの出力設定 58
トレースログの情報 21
トレースログファイル数 58
トレースログファイルの最大サイズ 58
トレースログファイル保存先ディレクトリ 58

は

パートナー情報 56
半角スペース文字とタブ文字の入力値 54

ふ

ファイルの格納先〔クライアント共通定義ファイル〕 55
ファイルの格納先〔クライアント引数情報ファイル(ドキュメント受信コマンドを使用する場合)〕 68
ファイルの格納先〔クライアント引数情報ファイル(ドキュメント送信コマンドを使用する場合)〕 63

ほ

保守員に問い合わせる場合に必要な資料 94

め

メッセージ 97
メッセージ ID の記述形式 98
メッセージの概要 98
メッセージの記述形式 98
メッセージの出力先 98

も

戻り値〔コマンドの説明で使用する見出し〕 74
戻り値〔ドキュメント受信コマンド〕 84
戻り値〔ドキュメント送信コマンド〕 81

り

履歴一覧を表示する 40
履歴表示 GUI 37
履歴表示 GUI〔用語解説〕 175
履歴表示 GUI の確認時のトラブルシュート〔警告情報がある場合〕 92
履歴表示 GUI の確認時のトラブルシュート〔警告情報がない場合〕 89

ろ

ログの設定をする 21

ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

1. マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しています。

URL <http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/>

ホームページのメニューは次のとおりです。

マニュアル一覧	日立コンピュータ製品マニュアルを製品カテゴリ、マニュアル名称、資料番号のいずれかから検索できます。
CD-ROMマニュアル	日立ソフトウェアマニュアルと製品群別CD-ROMマニュアルの仕様について記載しています。
マニュアルのご購入	マニュアルご購入時のお申し込み方法を記載しています。
オンラインマニュアル	一部製品のマニュアルをインターネットで公開しています。
サポートサービス	ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開サービスを記載しています。
ご意見・お問い合わせ	マニュアルに関するご意見、ご要望をお寄せください。

2. インターネットでのマニュアル公開

2種類のマニュアル公開サービスを実施しています。

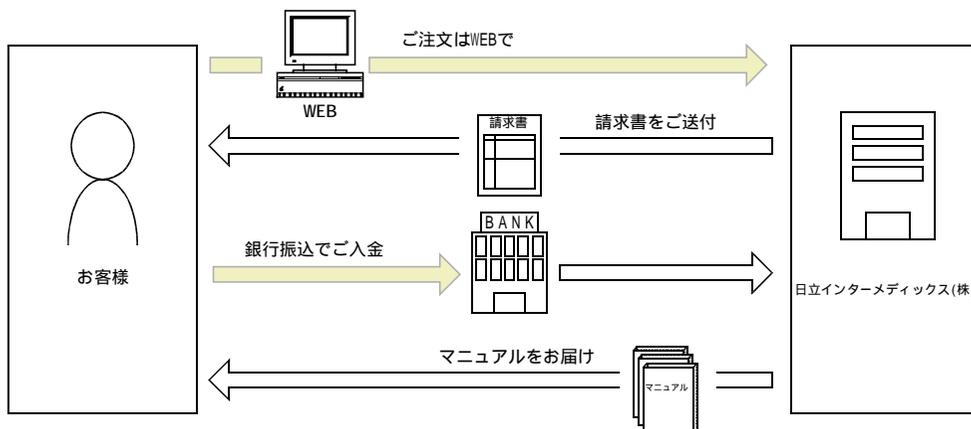
(1) マニュアル情報ホームページ「オンラインマニュアル」での公開

製品をよりご理解いただくためのご参考として、一部製品のマニュアルを公開しています。

(2) ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開

ソフトウェアサポートサービスご契約のお客様向けにマニュアルを公開しています。公開しているマニュアルの一覧、本サービスの対象となる契約の種別などはマニュアル情報ホームページの「サポートサービス」をご参照ください。

3. マニュアルのご注文



マニュアル情報ホームページの「マニュアルのご購入」にアクセスし、お申し込み方法をご確認のうえWEBからご注文ください。ご注文先は日立インターメディアックス(株)となります。

ご注文いただいたマニュアルについて請求書をお送りします。

請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。

入金確認後7日以内にお届けします。在庫切れの場合は、納期を別途ご案内いたします。